

仙 台 大 学

シラバス

目次

112080	社会の安全・安心概論	岩淵 孝二	前期	1
112180	幼児体育指導論	宮田 洋之	前期	5
145050	英会話A ジェリー	パランギ	前期	9
523060	メンタルトレーニング	菊地 直子	後期	13
511090	道德教育論	小石 俊聡	後期	17
512080	社会の安全・安心概論	田中 智仁	後期	21
545060	英会話B ジェリー	パランギ	後期	25
514070	看護学概論	堀江 竜弥	後期	29
541090	スポーツ情報戦略論演習B	石丸 出穂	後期	33
542180	保育実習指導	佐々木 和	後期	37
113130	生徒指導論A (含進路指導及びキャリア教育の理論及び方法)	江尻 雅彦	前期	41
524100	生化学	柴原 茂樹	後期	45
133150	給食計画論	岩田 純	前期	49
152110	教育方法論B	荒井 龍弥	前期	53
551130	スポーツ医学概論	橋本 実	後期	57
143100	リハビリテーション論	笠原 岳人	前期	61
153170	保育内容指導論	佐々木 和	前期	65
553050	ジャーナリズム理論	日下 三男	後期	69
111070	運動生理学	内丸 仁	前期	73
112140	食品学(含食品加工学)	早川 公康	前期	77
122080	介護概論	大山 さく子	前期	81
966620	医療的ケア実施の基礎	堀江 竜弥	前期	85
114310	生活支援技術の基礎	福田 伸雄	前期	89
153030	運動障害救急法(含実習)	橋本 実	前期	93
522030	スポーツ取材・報道演習A	日下 三男	前期	97
524090	社会福祉概論	南條 正人	前期	101
131180	警備ビジネス論	田中 智仁	前期	105
541180	臨床栄養学概論	真野 芳彦	後期	109
543030	スポーツとマスメディア	日下 三男	後期	113
152090	応用武道護衛	荒木 貞義	前期	117
511020	スポーツ栄養学	真野 芳彦	後期	121
141080	映像基礎(演習)	藤本 晋也	前期	125
143210	障害児保育	渡邊 康男	前期	129
532100	子どもの食と栄養	長橋 雅人	後期	133
545070	介護過程	後藤 満枝	後期	137
131050	スポーツトレーナー概論	小勝 健司	前期	141
134200	文章基礎演習(含実習)	日下 三男	前期	145
115390	スポーツ医学A	橋本 実	前期	149
543110	教職論C	柴田 千賀子	後期	153
522080	社会の安全・安心概論	岩淵 孝二	後期	157
555060	スポーツマスメディア概論	佐藤 修	後期	161
523080	学習障害等教育総論	小西 志津夫	後期	165
112130	社会調査法	齋藤 長行	前期	169
541160	保育内容総論	柴田 千賀子	後期	173
544020	アスレティックトレーニング論	山口 貴久	後期	177
112030	コンディショニング論	小勝 健司	前期	181
121030	運動障害救急法(含実習)	橋本 実	前期	185
515020	教育の心理	荒井 龍弥	後期	189
554010	スポーツ医学概論	橋本 実	後期	193
154180	養護演習	重巢 吉美	前期	197
141040	スポーツ傷害評価法	山口 貴久	前期	201
111100	保健体育科教育論	川戸 湧也	前期	205
511120	保健体育科教育論	鈴木 秀利	後期	209
143240	野外教育論	井上 望	前期	213
112120	社会教育経営論A	針生 弘	前期	217

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
112080	M-CSS321J-01	社会の安全・安心概論																					
科目名(英字)	Introduction to Social Safety and Security																						
学科	現代武道学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	岩淵 孝二			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	警察官としての実務経験を有する																						
授業の概要	実社会における治安課題や対策について概説し、社会の安全安心に寄与しようとする人材、あるいは社会の一員として求められる治安事象に対する知識や役割を考察する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	警察組織や活動を学習したことを前提に、警察の各部門や社会が直面する治安事象を深掘りして理解することにより、安全安心な社会をつくる地域の一員として必要となる治安上の知識や責務等を習得する。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>身近な社会の抱える治安課題や対策を学ぶことにより、社会の一員として理解するべきリスクや治安事象を的確に説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>社会が抱える治安事象を学び、身近に起こり得る治安事象やリスクを考察することにより、社会の構成員として社会の安全安心に十分寄与できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	身近な社会の抱える治安課題や対策を学ぶことにより、社会の一員として理解するべきリスクや治安事象を的確に説明できる。		情意的領域	社会が抱える治安事象を学び、身近に起こり得る治安事象やリスクを考察することにより、社会の構成員として社会の安全安心に十分寄与できる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	身近な社会の抱える治安課題や対策を学ぶことにより、社会の一員として理解するべきリスクや治安事象を的確に説明できる。																					
	情意的領域	社会が抱える治安事象を学び、身近に起こり得る治安事象やリスクを考察することにより、社会の構成員として社会の安全安心に十分寄与できる。																					
	技能表現的領域																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>社会の抱える身近な治安課題や対策を学ぶことにより、社会の一員として理解するべきリスクや治安事象について、一定の説明ができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>社会が抱える治安事象を学び、身近に起こり得る治安事象やリスクを考察することにより、社会の構成員として社会の安全安心に寄与する意欲がある。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	社会の抱える身近な治安課題や対策を学ぶことにより、社会の一員として理解するべきリスクや治安事象について、一定の説明ができる。		情意的領域	社会が抱える治安事象を学び、身近に起こり得る治安事象やリスクを考察することにより、社会の構成員として社会の安全安心に寄与する意欲がある。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	社会の抱える身近な治安課題や対策を学ぶことにより、社会の一員として理解するべきリスクや治安事象について、一定の説明ができる。																					
	情意的領域	社会が抱える治安事象を学び、身近に起こり得る治安事象やリスクを考察することにより、社会の構成員として社会の安全安心に寄与する意欲がある。																					
	技能表現的領域																						

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
身近な治安課題や対策に対する知識の理解	身近な治安課題や対策を正確に理解し、社会におけるリスクや治安事象について、適切に考察できる。	身近な治安課題や対策を理解し、社会におけるリスクや治安事象について、適切に考察できる。	身近な治安課題や対策を理解し、社会におけるリスクや治安事象について、一定の考察ができる。	身近な治安課題や対策を理解し、社会におけるリスクや治安事象について、ある程度考察できる。	身近な治安課題や対策を理解してあらず、社会におけるリスクや治安事象を考察できない。
身近に起こり得る治安事象やリスクに対する社会貢献	身近に起こり得る治安事象やリスクを正確に考察し、的確に社会貢献を実践している。	身近に起こり得る治安事象やリスクを正確に考察し、社会貢献を実践できる。	身近に起こり得る治安事象やリスクを考察し、一定の社会貢献を実践できる。	身近に起こり得る治安事象やリスクを考察し、一定の社会貢献を実践できる。	身近に起こり得る治安事象やリスクを考察できず、社会貢献を実践できない。
ルーブリック 全体					
授業計画（全体）	配付する資料や映像等を活用して、日々発生する治安事象に関する講義を行い、身近な治安事象やリスクに対する対策や理解を深める。				

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	ガイダンス・社会の安全安心と警察	本科目の内容などについて説明するとともに、安全安心、社会安全政策について概説する。		社会安全政策について資料に基づき、事前に学習しておく。	4時間
2.	犯罪予防論	身近に発生する治安事象を踏まえ、犯罪予防の理論について概説する。		犯罪予防理論について資料に基づき、事前に調査しておく。	4時間
3.	犯罪捜査の流れ	犯罪捜査の流れ・現状、捜査の高度化等の取組みについて概説する。		刑事手続きについて資料等に基づき、事前に調査しておく。	4時間
4.	子ども・高齢者の安全対策	子ども・高齢者をめぐる犯罪の現状と対策について概説する。		子ども・高齢者をめぐる犯罪について資料に基づき、事前に調査しておく。	4時間
5.	性をめぐる犯罪の現状等について	性をめぐる犯罪の現状と対策について概説する。		性犯罪について資料に基づき、事前に調査しておく。	4時間
6.	犯罪被害者支援	犯罪被害者をめぐる現状と対策について概説する。		犯罪被害者の現状について事前に調査しておく。	4時間
7.	消費生活侵害事犯対策	消費者をめぐる犯罪の現状について概説する。		消費生活侵害事犯の現状について資料に基づき、事前に調査しておく。	4時間
8.	災害時における危機管理	大規模災害発生時の警察対応や危機管理の考え方について概説する。		大規模災害発生時の警察対応や危機管理の考え方について概説する。	4時間
9.	国際テロ対策	国際テロの情勢、要因とその対策状況などについて概説する。		国際テロ情勢について資料に基づき、事前に調査しておく。	4時間
10.	警察と報道	日々の事件報道と警察との関係、関連する人権などについて概説する。		事件報道の内容について事前に調査しておく。	4時間

11.	交通安全対策	交通事故・違反の現状と交通安全対策について概説する。		交通死亡事故の発生状況等について事前に調査しておく。	4時間
12.	サイバー犯罪対策	サイバー空間における脅威の現状とその対策について概説する。		サイバー犯罪の現状について事前に調査しておく。	4時間
13.	現場実習	警察施設を訪問し、施設の視察、警察活動の体験などにより理解を深める。		視察・体験結果についてレポートを作成する。	4時間
14.	組織犯罪対策	組織犯罪、特に特殊詐欺犯罪をめぐる現状とその対策について概説する。		特殊詐欺の現状について資料に基づき、事前に調査しておく。	4時間
15.	薬物犯罪対策	薬物の基礎知識、薬物犯罪の現状とその対策について概説する。		薬物犯罪の現状等について資料に基づき、事前に調査しておく。	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	期末定期試験を実施するほか、課題に対する回答状況、授業態度などを加味して総合評価する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				70%
	授業内レポート				
	授業外レポート	○	○		20%
	演習・実技				
	授業態度	○	○		10%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは、授業内で解説・討議等を行いフィードバックする。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	・社会の安全・安心を担う分野で必要とされる知識等について学び、社会の一員として活動できることを目標として行う授業であることを自覚し、受講すること。				
関連科目	社会の安全安心概論 ・ ・ ・ 、応用武道護衛、応用武道実技 ・				
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特に指定しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特に指定しない				
オフィス アワー	月曜日12:40～14:10				
GCR	xcgvupg				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
112180	E-EEC321J-01	幼児体育指導論																					
科目名(英字)	Early Childhood Physical Education Instruction Theory																						
学科	子ども運動教育学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	宮田 洋之			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	幼児体育外部講師および幼稚園専任体育教諭の実務経験を有する																						
授業の概要	保育士、幼稚園教諭および幼児体育指導者にとって必要な運動あそびに関する知識、発育・発達段階に応じた指導法、指導内容、留意事項、運動あそびの環境を理解し、実践できるよう学習する。また、指導計画の立て方や指導案作成上のポイントを説明する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	幼児期の子どもたちに求められる運動のあり方を学び、発育・発達段階に適した運動あそび指導の考え方や指導者の役割を学習する。運動あそびの指導方法および運動指導案の立て方を通して、指導者としての必要な知識を知る。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>運動あそびに必要な知識、方法、技術を理解し、指導計画と指導案を理解している。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>幼児の発達段階に適した運動指導の考え方をもち、運動あそび指導ができるようになる。。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>幼児期の子どもたちの発達段階に合わせた幼児体育（運動あそび）環境の応用できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	運動あそびに必要な知識、方法、技術を理解し、指導計画と指導案を理解している。		情意的領域	幼児の発達段階に適した運動指導の考え方をもち、運動あそび指導ができるようになる。。		技能表現的領域	幼児期の子どもたちの発達段階に合わせた幼児体育（運動あそび）環境の応用できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	運動あそびに必要な知識、方法、技術を理解し、指導計画と指導案を理解している。																					
	情意的領域	幼児の発達段階に適した運動指導の考え方をもち、運動あそび指導ができるようになる。。																					
	技能表現的領域	幼児期の子どもたちの発達段階に合わせた幼児体育（運動あそび）環境の応用できる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>運動あそびに必要な知識、方法、技術を理解し、指導計画と指導案を身につけることができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>幼児の発達段階に適した運動指導の考え方をもち、運動あそび指導ができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>幼児期の子どもたちの発達段階に合わせた幼児体育（運動あそび）環境の操作できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	運動あそびに必要な知識、方法、技術を理解し、指導計画と指導案を身につけることができる。		情意的領域	幼児の発達段階に適した運動指導の考え方をもち、運動あそび指導ができる。		技能表現的領域	幼児期の子どもたちの発達段階に合わせた幼児体育（運動あそび）環境の操作できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	運動あそびに必要な知識、方法、技術を理解し、指導計画と指導案を身につけることができる。																					
	情意的領域	幼児の発達段階に適した運動指導の考え方をもち、運動あそび指導ができる。																					
	技能表現的領域	幼児期の子どもたちの発達段階に合わせた幼児体育（運動あそび）環境の操作できる。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
運動あそびに必要な知識、方法、技術を理解し、指導計画と指導案を身につけることができる。	運動あそびに必要な知識、方法、技術を理解でき、的確に説明し、社会的活動として実践することができる。	運動あそびに必要な知識、方法、技術を理解でき、運動指導案の作成ができる。	運動あそびに必要な知識は理解でき、その一部を的確に説明することができる。	運動あそびに必要な知識は理解できるが、運動あそび指導案の作成ができていない。	運動あそびに必要な知識、方法、技術を理解できない。
幼児の発達段階に適した運動あそびの指導の考え方をもち、運動あそび指導を深く理解することができる。	幼児の発達段階に適した運動あそびの指導の考え方をもち、運動あそび指導の役割について深く理解しており、的確に説明し、社会的活動として実践することができる。	幼児の発達段階に適した運動あそびの指導の考え方をもち、運動あそび指導の役割について深く理解しており、的確に説明することができる。	幼児の発達段階に適した運動あそびの指導の考え方をもち、運動あそび指導の役割について深く理解し、その一部を説明することができる。	幼児の発達段階に適した運動あそびの指導の考え方をもち、運動あそび指導の役割を一部しか理解しておらず、説明することができない。	幼児の発達段階に適した運動あそびの指導の考え方をもち、運動あそび指導の役割について、深く理解することができない。
運動あそびに必要な知識、方法、技術において、知識・技能を相手に的確に伝えることができる。	運動あそびに必要な知識、方法、技術において、知識・技能を相手に的確に伝え、自身が指導者としての役割を全うすることができる。	運動あそびに必要な知識、方法、技術において、知識・技能を相手に的確に伝え、自身以外の指導者を補佐することができる。	運動あそびに必要な知識、方法、技術において、知識・技能の一部を相手に的確に伝えることができる。	運動あそびに必要な知識、方法、技術において、知識・技能の一部を相手に伝えることができるが、指導ができない。	運動あそびに必要な知識、方法、技術において、知識・技能を相手に伝えることができない。

ルーブリック

授業計画（全体）

授業の前半は、運動あそびの指導目標と指導法を学ぶ。後半は、移動遊具を使った運動あそびや固定遊具を使った運動あそびの指導法、運動あそびの安全管理を学ぶ。授業方法は、パワーポイントを用いた知識伝達型と積極的な授業への参加ができる小グループ型を適切に導入して講義を行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介		近年、幼児の生活習慣について考えておく	4時間
2.	子どもの健康生活	基本的な生活習慣、子どもの生活と運動		近年、子どものあそびの変化について調べる	4時間
3.	子どもの遊びの変化	運動あそびに関わる変化、デジタルメディアの影響		子どもの発育・発達の変化について調べる	4時間
4.	子どもの発育・発達	身体発達の特徴、身体発達に関する課題		近年、子どもの体力・運動能力について調べる	4時間
5.	子どもの体力・運動能力の実態と技能の発達	体力・運動能力の実態と技能の発達		幼児体育の留意事項について調べる	4時間
6.	幼児体育の指導目標と指導法	発育・発達段階に応じた指導法、指導内容および留意事項		幼児体育の指導案について調べる	4時間
7.	幼児体育の指導目標と指導法	指導計画の立て方、指導案作成上のポイント		用具を使った運動遊びについて調べる	4時間
8.	体を使った運動遊びの指導法	運動遊びの指導と援助		用具を使った運動遊びについて調べる	4時間
9.	用具を使った運動遊びの指導法	ボール運動、フープ運動、ティーボール遊び		移動遊具を使った運動遊びについて調べる	4時間
10.	移動遊具を使った運動遊びの指導法	マット運動、平均台運動		固定遊具を使った運動遊びについて調べる	4時間

11.	固定遊具を使った運動遊びの指導法	鉄棒、すべり台、ジャングルジム、遊具の安全管理、安全指導		障害物遊びについて調べる	4時間
12.	障害物遊びとサーキット遊び	コーナー遊び、障害物遊び、サーキット遊びの実際		リズム運動遊びについて調べる	4時間
13.	表現力を育てるリズム運動遊び	リズム体操、身体表現		幼児の安全管理について調べる	4時間
14.	幼児の運動と安全管理	運動時における体調の観察、子どもの事故から考える安全		靴選びについて調べる	4時間
15.	運動時の安全を考慮した靴選び	幼児に適した運動靴選び、正しい運動靴の履き方		最終回のテストに備えて復習をする	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	試験は、期末試験(評価割合60%)、授業外課題を評価(評価割合30%)、授業態度(評価割合10%)の結果を総合して評価を行う。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験			○	60%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート	○	○		30%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度	○	○	○	10%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	私語・スマートフォン(タブレット)使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。				
関連科目	幼児体育論(1年次)				
関連資格	幼稚園教諭一種、保育士資格、幼児体育指導員				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	元気な子どもを育てる幼児体育	前橋 明	保育出版社	2015	9784905493150
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	幼児体育(理論と実践)	前橋 明	大学教育出版	2013	9784864292115
オフィス アワー	LC棟201室 月曜日14:20~15:50				
GCR	7ze1jg6				
その他	授業内容および順序について、状況に応じて変更する場合がある。その際、必ず事前に周知する。				

感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
145050	C-fle122J-01	英会話 A																					
科目名(英字)	English Conversation A																						
学科	全学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	演習		単位数																		
					2																		
担当教員	ジェリー パランギ			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	小・中・高校生での教員経験を有する																						
授業の概要	100%英語でのみ行われる対面式授業。このクラスでは、生徒はできるだけ英語で話すことが求められます。また、健康、フィットネス、旅行、文化認識や習慣などのトピックも含まれています。教科書には、オンライン学習プラットフォームMyEnglishLab (MEL) が含まれています。定期的に筆記テストと口頭テストがあります。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <thead> <tr> <th>課題解決型学習 (PBL)</th> <th></th> <th>反転学習</th> <th></th> <th>ディスカッション</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	授業は100%英語のみで行われます。できるだけ前期・後期ともに1年間受講する意欲のある方。トピックは、社交、旅行、ビジネスなどのシチュエーションを取り上げる予定です。テキストには、オンライン学習プラットフォーム「MyEnglishLab (MEL)」が含まれています。前期・後期を通して、1冊のテキストを使用します。定期的な口頭発表と筆記試験を継続的に行う。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域			情意的領域			技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域																						
	情意的領域																						
	技能表現的領域																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>Ability to recall grammar / cultural rules and apply them to various situations 文法/文化的ルールを、さまざまな状況に適用できる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>Receiving/ responding phenomena/ value/ organize and characterized aspects of different cultures 異文化の価値を学び理解する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>Speaking, Reading comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate スピーキング、リーディング、リスニング、ライティング、ディスカッション</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	Ability to recall grammar / cultural rules and apply them to various situations 文法/文化的ルールを、さまざまな状況に適用できる		情意的領域	Receiving/ responding phenomena/ value/ organize and characterized aspects of different cultures 異文化の価値を学び理解する		技能表現的領域	Speaking, Reading comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate スピーキング、リーディング、リスニング、ライティング、ディスカッション						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	Ability to recall grammar / cultural rules and apply them to various situations 文法/文化的ルールを、さまざまな状況に適用できる																					
	情意的領域	Receiving/ responding phenomena/ value/ organize and characterized aspects of different cultures 異文化の価値を学び理解する																					
	技能表現的領域	Speaking, Reading comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate スピーキング、リーディング、リスニング、ライティング、ディスカッション																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
流暢さ	流れるような話し方；ためらいがほとんどない。言葉を探そうとしない。単語を探そうとしない。素晴らしい。	流れるような話し方；ためらいが少ない。言葉を探す；聞き取れない単語が1、2個ある。	発話は比較的スムーズ。スムーズがある。言い換えや言葉探しによる言葉を探す；音量が揺らぐ。	発話が頻繁にためらわれる。音量が非常に小さい。	発話が遅く、ためらいがあり緊張している。暗記したフレーズ以外は聞き取りにくい。発話に連続性がない；聞き取れない。
発音とアクセント	発音は素晴らしい。	発音は良い。	発音は良い；アクセントに若干の努力は見られるが、間違いなくネイティブではない	発音はまあまあ。	発音が不十分で聞き取り発音が不十分で聞き取りにくい。
語彙力	言語特徴のコントロールが優れている。	言語統制が良い；比較的良好に選ばれた語彙の範囲が広い	十分な言語コントロール；語彙の幅が足りない	言語コントロールが弱い；基本的な語彙の選択で、明らかに欠けている単語がある。	言語コントロールが弱い；使用されている語彙が課題に合っていない
文法	文法構造の正確さと多様性	文法構造にいくつかの誤りがある。	意味が不明瞭にならない程度の文法ミスが頻繁にある。	単純な構文でも文法的な誤りが多く、意味が不明瞭になることがある。	単純な構文でも文法的な誤りが頻繁にあり、意味が不明瞭である。

ルーブリック

授業計画（全体）

このクラスは、自信を持って文化的に流暢に英語を話すことができ、社交、旅行、ビジネスの場面でうまく立ち回れるようになることに焦点を当てた対面式のクラスです。ペア・プレゼンテーション、グループ・ワーク、ディベートを行います。教科書はTop Notch 1を使用し、教科書と連動したオンラインアプリケーションを定期的に使用します。授業中の指示はすべてわかりやすい英語で行われます。教室外での英語でのコミュニケーションは大いに奨励します。

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	Orientation	Outline, (MEL) registration. Self-introduction key points		Self-intro, MEL registration	4 時間
2.	Unit 1 - Getting Acquainted	Meet someone for the first time		Conversation Model MEL - Lesson 1	4 時間
3.	Unit 1 - Getting Acquainted	Identify and describe people		Presentation + MEL - Lesson 2	4 時間
4.	Unit 1 - Getting Acquainted	Provide personal information & introduce someone to the group		Grammar, presentation, MEL Lesson 3	4 時間
5.	Unit 2 - Going Out	Accept & decline an invitation		Presentation + MEL - Lesson 1	4 時間
6.	Unit 2 - Going Out	Express locations and give directions		Unit 1&2 MEL - Lesson 2, review	4 時間
7.	Unit 2 - Going Out	Make plans to see an event, talk about musical tastes		Study Unit 1&2 + MEL - Lesson 3	4 時間
8.	Unit 2 - Review + Test	Unit 1 & 2 review + test		Unit 3 preview + MEL - Lesson 4	4 時間
9.	Unit 3 - The Extended Family	Report news about relationships		Memorize vocabulary, MEL - Lesson 1	4 時間
10.	Unit 3 - The Extended Family	Describe extended families		MEL - Lesson 2	4 時間

11.	Unit 3 - The Extended Family	Compare people		Recycled language, MEL - Lesson 3	4 時間
12.	Unit 3 - The Extended Family	Discuss family cultural traditions, debate		MEL - Lesson 4, debate preparation	4 時間
13.	Unit 4 - Foods and Restaurants	Ask for a restaurant recommendation		Memorize vocabulary, MEL - Lesson 1	4 時間
14.	Unit 4 - Foods and Restaurants	Order from a menu and speak to a server		Memorize vocabulary, MEL - Lesson 2	4 時間
15.	Unit 4 - Foods and Restaurants	Discuss food and health		Unit 3 & 4 review MEL Lesson 3 & 4	4 時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	Students must attend 2/3 of all classes, scoring 60% or over in their final score for credit. 出席率が2/3以上であること。総合評価の60%以上で単位習得可。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				25%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				15%
	演習・実技				30%
	授業態度				30%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	"授業開始前に新しい教科書を購入する必要があります 中古の教科書を購入すると、オンラインアプリケーションが動作しなくなりますので、購入しないでください。すべての指示は英語で行われ、生徒は英語のみで話すことが期待されます。英会話の上達に興味のある方は、ぜひお申し込みください。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	本気で英会話を上達させたい方は、ぜひご参加ください。すべての生徒が毎レッスン英語で話すことが要求されるので、コミュニケーションとやる気が必要です。英語が得意である必要はありませんが、学ぶ姿勢とモチベーションは必要です。				
関連科目	英会話B, 英会話C, ことばと人間B				
関連資格	なし				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	TOP NOTCH (3E)1: SB	JOAN SASLOW ALLEN ASCHER	PEARSON	2015	9780133393484
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	なし				
オフィス アワー	A棟511 水曜日8:40~10:10 Email: j-parangi@sendai-u.ac.jp				
GCR	xu5jdxk				
その他	なし				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
523060	N-PSY031J-01 、M-	メンタルトレーニング																					
科目名(英字)	Mental Training																						
学科	スポーツ栄養学科、現代武道学科			学年	3年																		
学期	後期	授業形態	講義	単位数	2																		
担当教員	菊地 直子			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	スポーツアスリートにおけるカウンセラー経験を有する。																						
授業の概要	本講義は、スポーツカウンセラーの実務経験を持つ担当者が、スポーツ心理学という学問的背景からさまざまなメンタルトレーニング技法を紹介する。ここでは、はじめにメンタルトレーニングにおける心理的諸側面を分類し、代表的なメンタルトレーニング技法を体験することにより学びを促進する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	メンタルトレーニングの各スキルを体験することで注意点や効果を学び、最終的には、メンタルトレーニングの限界や更なる工夫、そして人間理解の方法について理解している。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>各メンタルトレーニング技法について理解している。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>対人援助場面で、対象者の心理的世界を理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	各メンタルトレーニング技法について理解している。		情意的領域	対人援助場面で、対象者の心理的世界を理解する。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	各メンタルトレーニング技法について理解している。																					
	情意的領域	対人援助場面で、対象者の心理的世界を理解する。																					
	技能表現的領域																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>各メンタルトレーニング技法について理解している。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>対人援助場面で、対象者の心理的世界を適切に理解できるようになる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	各メンタルトレーニング技法について理解している。		情意的領域	対人援助場面で、対象者の心理的世界を適切に理解できるようになる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	各メンタルトレーニング技法について理解している。																					
	情意的領域	対人援助場面で、対象者の心理的世界を適切に理解できるようになる。																					
	技能表現的領域																						

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
メンタルトレーニングの基礎的事項についての説明ができる。具体的なトレーニングを心理学的に理解することができる。	メンタルトレーニングの基礎的事項についての説明ができる。アスリートが抱える課題を心理学的に理解することができ、十分適用可能である。	メンタルトレーニングの基礎的事項についての説明ができる。アスリートが抱える課題を心理学的に理解することができ、適用可能である。	メンタルトレーニングの基礎的事項についての説明ができる。アスリートが抱える課題を心理学的に理解することができ、概ね適用可能である。	メンタルトレーニングの基礎的事項についての説明ができる。	アスリートの抱える課題点とメンタルトレーニングの適用について説明することができない。
アスリートの抱える課題点に対して共感的に興味を持ち、心理学的な対処の一つとしてメンタルトレーニングに焦点を当てて考えることができる。	アスリートの抱える課題点に対して共感的に興味を持ち、心理学的な対処の一つとしてメンタルトレーニングに焦点を当てて考えることが十分できる。	アスリートの抱える課題点に対して共感的に興味を持ち、心理学的な対処の一つとしてメンタルトレーニングに焦点を当てて考えることができる。	アスリートの抱える課題点に対して共感的に興味を持ち、心理学的な対処の一つとしてメンタルトレーニングに焦点を当てて考えることが概ねできる。	メンタルトレーニングのスキルは理解している。	アスリートの抱える課題点とメンタルトレーニングの適用について説明することができない。
授業計画（全体）	本講義は、メンタルトレーニング理論と実際を中心に講義する。また、能動的学習環境の支援を意図するICT教材（コラボレーションウェア）の活用し、アクティブラーニングを取り入れ、授業の半分をグループ学習とする。				

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法を解説する。		シラバスを熟読する	4時間
2.	メンタルトレーニングとは何か。	メンタルトレーニングの定義と近年の動向について概説する。		これまでに、遭遇したメンタル的な問題について発表できる。	4時間
3.	アセスメント	メンタルトレーニングの指導や介入を行うにあたってのアセスメントとその重要性について解説する。		心理療法のアセスメントについてまとめておく。	4時間
4.	メンタル・トレーニング・プログラム	アスリートに処方される一般的なプログラムの流れを解説し、対象の理解についての注意事項についても解説する。		自己分析から、自分に処方する最もふさわしいプログラムを考案する。	4時間
5.	対象理解の方法	メンタルトレーニングの効果測定で多用される心理的競技能力テストを体験し、自己理解を深めるとともに査定法についても解説する。		本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にまとめる。	4時間
6.	対象理解の方法	風景構成法を通して、自分の認識と異なる自分の表現方法について解説する。		本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にまとめる。	4時間
7.	対象理解の方法	ロールプレイを通して、人の話を聞くことのコツとポイントを理解する。		本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にまとめる。	4時間
8.	メンタルトレーニングの技法	リラクゼーションとバイオフィードバック（実習）		リラクゼーション実施後の変化について、データをまとめて提出する。	4時間
9.	メンタルトレーニングの技法	認知的水準である「積極的思考」について学ぶだけでなく、次回からのグループ学習での到達点を確認する。		本講義で得た体験で得た学びを通して自分独自の方法を模索する。	4時間
10.	グループ活動	選んだ技法について、具体的事例を交えて資料を作成し、プレゼンテーションの準備をさせる。		各自あるいはグループで、引き続き調べる。	4時間

11.	グループ活動	選んだ技法について、具体的事例を交えて資料を作成し、プレゼンテーションの準備をさせる。		各自あるいはグループで、プレゼンテーションの準備する。	4時間
12.	グループ活動	選んだ技法について、具体的事例を交えて資料を作成し、プレゼンテーションの準備をさせる。		配布資料等の準備をする。	4時間
13.	グループ発表	グループで調べたメンタル技法について、プレゼンテーションし、質疑応答の上、相互評価する。		各自あるいはグループで、プレゼンテーションの準備する。	4時間
14.	グループ発表	グループで調べたメンタル技法について、プレゼンテーションし、質疑応答の上、相互評価する。		各自あるいはグループで、プレゼンテーションの準備する。	4時間
15.	グループ発表	グループで調べたメンタル技法について、プレゼンテーションし、質疑応答の上、相互評価する。		各自あるいはグループで、プレゼンテーションの準備する。	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	授業内外の課題(50%)とグループでのプレゼンテーション(50%)で評価する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート				25%
	授業外レポート				25%
	演習・実技				50%
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートはWeb上で提出し、授業内等でフィードバックを行う。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。 ・授業中は携帯電話をかばんの中に入しめること。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。 				
関連科目	臨床心理学(健康福祉学科・現代武道学科)				
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特になし				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特になし				
オフィス アワー	火曜2時限				
GCR	srgnd6f				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
511090	T-fye231J-01 、 T-	道徳教育論																					
科目名(英字)	Study of Morality																						
学科	健康福祉学科、スポーツ栄養学科、スポーツ情報メディア学科、現代武道学科			学年	3年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	小石 俊聡			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	小学校での教員経験を有する。																						
授業の概要	学校現場による実務経験を活かし、アクティブラーニングを主にした観点から講義を行う。小・中・高等学校の道徳教育を通じ、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培い、自立し、健全な自尊感情を持ち、主体的・自律的に生きる力を育成するために道徳性を養う。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	基本的な生活習慣，規範意識，人間関係を築く力，社会参画への意欲や態度，伝統や文化を尊重する態度などを育成するにはどう指導するかを理解する。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>道徳教育に関する歴史的な歩みと、現在の学習指導要領について十分に理解し、説明できる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>「生きる力」「生命の尊重」「いじめ問題」などの諸価値について進んで学び、説明できる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>道徳の授業を進める上で必要な総合的な能力を積極的に身に付け、具現化できる</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	道徳教育に関する歴史的な歩みと、現在の学習指導要領について十分に理解し、説明できる		情意的領域	「生きる力」「生命の尊重」「いじめ問題」などの諸価値について進んで学び、説明できる		技能表現的領域	道徳の授業を進める上で必要な総合的な能力を積極的に身に付け、具現化できる						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	道徳教育に関する歴史的な歩みと、現在の学習指導要領について十分に理解し、説明できる																					
	情意的領域	「生きる力」「生命の尊重」「いじめ問題」などの諸価値について進んで学び、説明できる																					
	技能表現的領域	道徳の授業を進める上で必要な総合的な能力を積極的に身に付け、具現化できる																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>道徳教育に関する歴史的な歩みと、現在の学習指導要領について理解できる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>「生きる力」「生命の尊重」「いじめ問題」などの道徳的諸価値について学ぶことができる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>道徳の授業を進める上で必要となる総合的な能力を身に付けることができる</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	道徳教育に関する歴史的な歩みと、現在の学習指導要領について理解できる		情意的領域	「生きる力」「生命の尊重」「いじめ問題」などの道徳的諸価値について学ぶことができる		技能表現的領域	道徳の授業を進める上で必要となる総合的な能力を身に付けることができる						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	道徳教育に関する歴史的な歩みと、現在の学習指導要領について理解できる																					
	情意的領域	「生きる力」「生命の尊重」「いじめ問題」などの道徳的諸価値について学ぶことができる																					
	技能表現的領域	道徳の授業を進める上で必要となる総合的な能力を身に付けることができる																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
道徳教育の歴史と学習指導要領について	道徳教育に関する歴史的な歩みと、現在の学習指導要領について十分に理解した上で、自分の考えを加えながら説明できる	道徳教育に関する歴史的な歩みと、現在の学習指導要領について十分に理解し、説明できる	道徳教育に関する歴史的な歩みと、現在の学習指導要領について十分に理解できる	道徳教育に関する歴史的な歩みと、現在の学習指導要領について理解できる	道徳教育に関する歴史的な歩みと、現在の学習指導要領について理解できない
道徳的諸価値について	「生きる力」「生命の尊重」「いじめ問題」などの諸価値について進んで学び、自分の考えを加えながら説明できる	「生きる力」「生命の尊重」「いじめ問題」などの諸価値について進んで学び、説明できる	「生きる力」「生命の尊重」「いじめ問題」などの諸価値について進んで学ぶことができる	「生きる力」「生命の尊重」「いじめ問題」などの道徳的諸価値について学ぶことができる	「生きる力」「生命の尊重」「いじめ問題」などの道徳的諸価値について学ぶことできない
理想とする教師像の実現について	道徳の授業を進める上で必要となる総合的な能力を、積極的に身に付け具現化すると共に、他者と学ぶことができる	道徳の授業を進める上で必要となる総合的な能力を積極的に身に付け、具現化できる	道徳の授業を進める上で必要となる総合的な能力を積極的に身に付けることができる	道徳の授業を進める上で必要となる総合的な能力を身に付けることができる	道徳の授業を進める上で必要となる総合的な能力を身に付けることできない
授業計画（全体）	授業は、基本的にはプリントを用意し、それを基に講義中心に行うが、多くの機会にレポートを提出、常に道徳教育についての課題意識を持つようにする。				

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	道徳教育とは何か	自身が受けてきた道徳の授業を振り返るとともに、道徳教育の特徴や難しさについて理解する。		道徳教育で大切にしなければならないことについて考える。	4 時間
2.	戦後の教育改革と道徳教育	戦後の教育改革で、一番の課題は道徳教育であったことを学ぶ。		道徳教育に関わる学習指導要領の変遷について調べる。	4 時間
3.	学習指導要領と道徳的価値	教育基本法と道徳教育、学習指導要領と道徳的価値の関連について学ぶ。		学習指導要領の内容項目について調べる。	4 時間
4.	道徳の授業の現状とその改善方法	これまでの「道徳の時間」をめぐる課題、その中での本質的な問いとして「徳」は教えられるのかを考える。		道徳の授業で大切にしなければならないことについて考える。	4 時間
5.	「考え、議論する道徳」への質的転換について	「考え、議論する道徳」への質的転換と家庭や地域と連携した道徳教育について理解する。		「考え、議論する道徳」について考える。	4 時間
6.	道徳の授業の充実と教師の生き方	「道徳における教師の役割」について述べている論文を読み、レポートを書く。		「教師論」に関する書籍を読む。	4 時間
7.	学生の価値意識と「道徳教育の研究」	道徳性の発達（コールバーク理論）と相対主義を踏まえ、若者と規範意識について考える。		「道徳性の発達」に関する書籍を読む。	4 時間
8.	高校における道徳教育の位置づけ	学習指導要領において「道徳教育の全体計画」の作成が義務づけられている高等学校における「道徳教育」の進め方について考える。		高等学校学習指導要領を読む。	4 時間
9.	道徳科の授業と評価	「特別の教科道徳科」で示されている評価の在り方を基にして、「道徳教育における評価」について考える。		「道徳科」が目指す評価の方向性を調べる。	4 時間
10.	道徳科の授業と体験学習	体験活動の教育的意義、「特別の教科道徳」と体験活動の関わりについて考える。		学習指導要領を読む。	4 時間

11.	個性の尊重	「個性」に対する日本と欧米の違い(価値観の相違)を分析し、学校教育における「個性」の伸張について考える。		学習指導要領における「個性」の取り上げ方の変遷を調べる。	4時間
12.	道徳授業のアプローチ	道徳科における学習指導案の構成について理解する。道徳の授業の実際について映像を観る。		学習指導案の作成	4時間
13.	道徳授業のアプローチ	道徳科の学習指導案(展開場面)を作成する。道徳の授業の実際についての映像を観る。		学習指導案の作成	4時間
14.	道徳授業のアプローチ	道徳科の学習指導案(主題設定の理由を中として)を作成する。道徳の授業の実際についての映像を観る。		学習指導案の作成	4時間
15.	国際化社会における愛国心教育	戦後日本の「愛国心」論の類型を知り、教育基本法・学習指導要領における「愛国心」教育の進め方について理解する。		関連する書籍を読む。	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	提出されたレポートは内容に応じてディスカッションや解説を行いながら返却する。レポート等のポートフォリオ評価資料と筆記試験の結果に、受講態度(出席状況含む)等を加味して評価する。なお、欠席は原則として3分の1以上は評価対象外とする。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				70%
	授業内レポート				20%
	授業外レポート	—	—	—	評価対象外
	演習・実技	—	—	—	評価対象外
	授業態度				10%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは内容に応じてディスカッションや解説を行いながら返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	講義を中心に進めるが、自分が学習した道德教育を振り返りながら、教師を目指す者として常に課題意識を持って学んでほしい。				
関連科目					
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	中学校学習指導要領解説「特別の教科道德編」	文部科学省			
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	授業時に紹介する				
オフィス アワー	木曜日2限				
GCR	g2mdy6w				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
512080	M-CSS321J-03	社会の安全・安心概論																					
科目名(英字)	Introduction to Social Safety and Security																						
学科	現代武道学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	田中 智仁			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	警備員としての実務経験を有する。																						
授業の概要	第1回と第2回および第15回の総論では、警備業の社会的意義および武道とのマッチングについて講義する。第4回以降の各論では、各種警備業務について網羅的に扱い、実務の実施要件と求められる技術について業務別に概説する。警備業務検定2級の筆記試験で必要となる知識について講義する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	警備・警護の実施に必要な民間警備実務の知識と思考力を身につける。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>警備業務のニーズが生じる社会的背景を十分に理解し、警備業務の実施要領を適切に説明することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>基本的人権や財産権について十分に理解した上で、安全確保の活動に積極的に参加することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>警備業務の実施要領を十分に理解し、留意点も把握した上で警備計画を立案することができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	警備業務のニーズが生じる社会的背景を十分に理解し、警備業務の実施要領を適切に説明することができる。		情意的領域	基本的人権や財産権について十分に理解した上で、安全確保の活動に積極的に参加することができる。		技能表現的領域	警備業務の実施要領を十分に理解し、留意点も把握した上で警備計画を立案することができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	警備業務のニーズが生じる社会的背景を十分に理解し、警備業務の実施要領を適切に説明することができる。																					
	情意的領域	基本的人権や財産権について十分に理解した上で、安全確保の活動に積極的に参加することができる。																					
	技能表現的領域	警備業務の実施要領を十分に理解し、留意点も把握した上で警備計画を立案することができる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>警備業務のニーズが生じる社会的背景をおおむね理解し、警備業務の実施要領をおおむね説明することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>基本的人権や財産権についておおむね理解しており、安全確保の活動を実践する意欲がある。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>警備業務の実施要領をおおむね理解し、警備計画を立案することができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	警備業務のニーズが生じる社会的背景をおおむね理解し、警備業務の実施要領をおおむね説明することができる。		情意的領域	基本的人権や財産権についておおむね理解しており、安全確保の活動を実践する意欲がある。		技能表現的領域	警備業務の実施要領をおおむね理解し、警備計画を立案することができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	警備業務のニーズが生じる社会的背景をおおむね理解し、警備業務の実施要領をおおむね説明することができる。																					
	情意的領域	基本的人権や財産権についておおむね理解しており、安全確保の活動を実践する意欲がある。																					
	技能表現的領域	警備業務の実施要領をおおむね理解し、警備計画を立案することができる。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
警備業の社会的意義や警備業務の実施要領についての理解	警備業務のニーズが生じる社会的背景を十分に理解し、警備業務の実施要領を具体的な想定に基づいて適切に説明することができる。	警備業務のニーズが生じる社会的背景を十分に理解し、警備業務の実施要領を適切に説明することができる。	警備業務のニーズが生じる社会的背景をおおむね理解し、警備業務の実施要領を適切に説明することができる。	警備業務のニーズが生じる社会的背景をおおむね理解し、警備業務の実施要領の一部を適切に説明することができる。	警備業務のニーズが生じる社会的背景を理解しておらず、警備業務の実施要領を説明することができない。
人の生命・身体・財産の安全確保に関する活動の実践。	基本的人権や財産権について十分に理解した上で、すでに安全確保の活動に積極的に参加している。	基本的人権や財産権について十分に理解した上で、安全確保の活動に積極的に参加することができる。	基本的人権や財産権についておおむね理解しており、安全確保の活動を実践する予定がある。	基本的人権や財産権についておおむね理解しており、安全確保の活動を実践する意欲がある。	基本的人権や財産権について理解しておらず、安全確保の活動に参加する意欲がない。
警備業務実施上の留意点を理解した警備計画の立案。	警備業務の実施要領を十分に理解し、留意点の改善策も含めた上で警備計画を立案することができる。	警備業務の実施要領を十分に理解し、留意点も把握した上で警備計画を立案することができる。	警備業務の実施要領をおおむね理解し、留意点も把握した上で警備計画を立案することができる。	警備業務の実施要領をおおむね理解し、警備計画を立案することができる。	警備業務の実施要領を理解しておらず、警備計画を立案することができない。
ルーブリック					
授業計画（全体）	配布資料と投影資料を中心に講義を進める。必要に応じて、映像資料等も交えて解説する。警備員としての実務経験を活かした講話が主要となるが、随所に学術的観点を盛り込み、思考力の開拓を目指す講義を行う。				

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	武道を応用した警備・警護の在り方（総論）	警備・警護において必要とされる感性と身体能力について、武道とのマッチングを図る。		必修科目「社会の安全・安心概論」を復習する。	4時間
2.	警備員の使命と心構え（総論）	警備業の理念と警備員としての在り方を、警備業法に基づいて概説する。		警備業法の条文を確認する。	4時間
3.	施設警備業務（各論）	事業所、商業施設等の安全確保と出入管理等について概説する。		防犯・防災に関する事例を調べる。	4時間
4.	警察・消防との連携（各論）	関係諸機関との相補性を明確にし、官民協働体制の確立にむけた実技の在り方を概説する。		警察法と警備業法の趣旨の相違を確認する。	4時間
5.	空港保安警備業務（各論）	テロ、ハイジャック等への対抗措置としての空港保安について概説する。		テロ、ハイジャックに関する事例を調べる。	4時間
6.	保安警備業務（各論）	万引き、盗撮等への対抗措置としての保安警備について概説する。		店舗内の犯罪に関する事例を調べる。	4時間
7.	機械警備業務（各論・基礎編）	ホームセキュリティに代表される機械警備システムの基礎について概説する。		機械警備システムの運用事例を調べる。	4時間
8.	機械警備業務（各論・応用編）	機械警備システムを応用した各種安全サービスについて概説する。		福祉、医療関係のICT技術について調べる。	4時間
9.	雑踏警備業務（各論）	群集の安全確保における誘導法、リスク除去等について概説する。		雑踏事故の事例を調べる。	4時間
10.	交通誘導警備業務（各論）	交通事故、交通障害等への防止措置としての交通誘導について概説する。		工事現場・駐車場の事故の事例を調べる。	4時間

11.	貴重品運搬警備業務（各論）	現金、美術品等の運搬に係る安全確保と、警備車両運用について概説する。		「三億円事件」について調べる。	4時間
12.	核燃料物質等危険物運搬警備業務（各論）	大規模な危険物運搬の実施方法とそのリスクについて概説する。		原子力関連分野の動向を調べる。	4時間
13.	身辺警備業務（各論）	要人警護およびエスコートサービスの基本的技術と着眼点について概説する。		要人が襲撃された事件の事例を調べる。	4時間
14.	緊急通報サービス（各論）	携帯端末を用いた身辺・物品の安全確保および追跡サービスについて概説する。		社会的弱者が被害を受けた事例を調べる。	4時間
15.	警備業務の多様化と応用武道の展望（総論）	警備業の対応業務は、正規の警備業務にとどまらない。その展望を応用武道の観点から考える。		警備業務と武道の関連性を考える。	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	定期試験とレポートの両方とも、各種警備業務に関する知識の妥当性、警備計画の実現可能性を重視する。暗記偏重ではなく、思考力に重点を置いた論理的記述を求める。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験			○	70%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート	○	○		30%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	定期試験とレポートの原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義の内容の一部は「応用武道実技」と関連する。 ・警備業務検定の受験希望者は、各回の概説を踏まえ、各自で試験勉強に取り組むこと。 ・各論については各回の完結性が高いため、欠席の場合にはレポートを課す場合がある。 				
関連科目	社会の安全・安心概論、応用武道実技				
関連資格	警備業務検定2級				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特に指定しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	警備ビジネスで読み解く日本	田中智仁	光文社新書	2018	
	警備員必携	(一社)全国警備業協会	(一社)全国警備業協会	2020	
オフィス アワー	火曜日12:40~14:10				
GCR	201fexk				
その他	田中研究室 tm-tanaka@sendai-u.ac.jp				

感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
545060	C-fle122J-01	英会話 B																					
科目名(英字)	English Conversation B																						
学科	全学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	演習		単位数																		
					2																		
担当教員	ジェリー パランギ			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	小・中・高校生での教員経験を有する																						
授業の概要	このクラスは1学期から継続して行われます。授業は100%英語のみで行われます。後期に履修を希望する学生は、まず担任の先生に相談してください。社会、旅行、ビジネスなどのシチュエーションを想定したトピックを扱います。教科書は前期と同じです。定期的に口頭発表と短い筆記テストを行います。生徒は、教師とのコミュニケーションも含め、常に英語でコミュニケーションをとることが期待される。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	前期に学習した語彙・用法の定着が期待される。リスニング力をつけるため、ネイティブレベルの指導を行う。グループワークやディスカッションを増やし、関連するトピックについて、文化的妥当性や現在の世界観に関する知識を深める。前期と同様、学生主体の授業で、流暢に話すことに重点を置く。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域			情意的領域			技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域																						
	情意的領域																						
	技能表現的領域																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>Ability to recall grammar / cultural rules and apply them to various situations 文法/文化的ルールを、さまざまな状況に適用できる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>Receiving/ responding phenomena/ value/ organize and characterized aspects of different cultures 異文化の価値を学び理解する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>スピーキング、リーディング、リスニング、ライティング、ディスカッション</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	Ability to recall grammar / cultural rules and apply them to various situations 文法/文化的ルールを、さまざまな状況に適用できる		情意的領域	Receiving/ responding phenomena/ value/ organize and characterized aspects of different cultures 異文化の価値を学び理解する		技能表現的領域	スピーキング、リーディング、リスニング、ライティング、ディスカッション						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	Ability to recall grammar / cultural rules and apply them to various situations 文法/文化的ルールを、さまざまな状況に適用できる																					
	情意的領域	Receiving/ responding phenomena/ value/ organize and characterized aspects of different cultures 異文化の価値を学び理解する																					
	技能表現的領域	スピーキング、リーディング、リスニング、ライティング、ディスカッション																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
流暢	流れるような話し方；ためらいがほとんどない。言葉を探そうとしない。単語を探そうとしない。素晴らしい。	流れるような話し方；ためらいが少ない。言葉を探す；聞き取れない単語が1、2個ある。	発話は比較的スムーズ。スムーズがある。言い換えや言葉探しによる言葉を探す；音量が揺らぐ。	発話が頻繁にためらわれる。音量が非常に小さい。	発話が遅く、ためらいがあり緊張している。暗記したフレーズ以外は聞き取りにくい。発話に連続性がない；聞き取れない。
発音とアクセント	発音は素晴らしい	発音は良い。	発音は良い；アクセントに若干の努力は見られるが、間違いなくネイティブではない	発音はまあまあ。	発音が不十分で聞き取り発音が不十分で聞き取りにくい。
語彙力	言語特徴のコントロールが優れている。	言語統制が良い；比較的良好に選ばれた語彙の範囲が広い	十分な言語コントロール；語彙の幅が足りない	言語コントロールが弱い；基本的な語彙の選択で、明らかに欠けている単語がある。	言語コントロールが弱い；使用されている語彙が課題に合っていない
文法	文法構造の正確さと多様性	文法構造にいくつかの誤りがある	意味が不明瞭にならない程度の文法ミスが頻繁にある。	単純な構文でも文法的な誤りが多く、意味が不明瞭になることがある。	単純な構文でも文法的な誤りが頻繁にあり、意味が不明瞭である。

ルーブリック

授業計画（全体）

このクラスは、自信を持って文化的に流暢に英語を話すことができ、社交、旅行、ビジネスの場面でうまく立ち回れるようになることに焦点を当てた対面式のクラスです。ペア・プレゼンテーション、グループ・ワーク、ディベートを行います。教科書はTop Notch 1を使用し、教科書と連動したオンラインアプリケーションを定期的に使用します。授業中の指示はすべてわかりやすい英語で行われます。教室外の英語でのコミュニケーションは大いに奨励します。

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	Orientation	Class grading and guidelines. Topic based speaking activity		Vacation presentation, MEL Lesson 1	4 時間
2.	Unit 6 - Plan an activity	Plan an activity Exercises & expressions organizing an activity		Conversation presentation, MEL Lesson	4 時間
3.	Discuss fitness & eating habits	Plan an activity, habitual activities		Conversation presentation, MEL Lesson	4 時間
4.	Describe routines	Reading comprehension, discussion		Presentation "What makes a champion"	4 時間
5.	Review	Listening, grammar, presentations		Textbook + MEL Unit 6 review	4 時間
6.	Unit 9 - Taking transport	Unit 6 test. Discuss schedules and buying tickets		Conversation presentation, MEL Lesson	4 時間
7.	Airport announcements	Understand airport announcements		MEL - Lesson 3	4 時間
8.	Transport problems	Reading comprehension, critical thinking		MEL - Lesson 4	4 時間
9.	Review	Listening, grammar		Textbook + MEL Unit 9 review	4 時間
10.	Unit 10 - Ask for a recommendation	Ask for a recommendation		Conversation presentation, MEL Lesson	4 時間

11.	Bargaining	How to bargain for a lower price		Conversation presentation, MEL Lesson	4 時間
12.	Showing appreciation	Discussion, comprehension, debate		Debate preparation + MEL - Lesson 3	4 時間
13.	Finding best deals	Listening comprehension, small group debate		Presentation preparation	4 時間
14.	Notepadding	Introducing the best places in your city		Debate preparation	4 時間
15.	Review	Listening & grammar, small group debate		Textbook + MEL Unit 10 review	4 時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	Students must attend 2/3 of all classes, scoring 60% or over in their final score for credit. 出席率が2/3以上であること。総合評価の60%以上で単位習得可。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				25%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				15%
	演習・実技				30%
	授業態度				30%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	口頭発表については、発音、流暢な話し方、アイコンタクト、リズムが重要です。口頭発表は暗記しなければならないが、パワーポイントでの発表の場合は「キューカード」でも可。クラスでの発表はすぐにフィードバックされます。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	本気で英会話を上達させたい方は、ぜひご参加ください。すべての生徒が毎レッスン英語で話すことが要求されるので、コミュニケーションとやる気が必要です。英語が得意である必要はありませんが、学ぶ姿勢とモチベーションは必要です。				
関連科目	英会話A, 英会話C, ことばと人間B				
関連資格	なし				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	TOP NOTCH (3E)1: SB +MEL	JOAN SASLOW ALLEN ASCHER	PEARSON	2015	9780133393484
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	なし				
オフィス アワー	A棟511 水曜日8:40~10:10 Email: j-parangi@sendai-u.ac.jp				
GCR	grsa7ee				
その他	なし				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
514070	H-HEA321J-01	看護学概論																					
科目名(英字)	Introduction to Nursing																						
学科	健康福祉学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	堀江 竜弥			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	看護師として臨床での実務経験を有する																						
授業の概要	看護が持つ機能と役割について理解し、小児・思春期の諸問題を通して、看護の実際および基礎看護技術の展開、理論について学ぶ。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	小児期を中心としたさまざまな状態の人々の健康問題や、疾患について学ぶことで、看護を展開する方法と理論、技術について学ぶことを目的とする。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>看護とは何か、ケアとは何かについて理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>看護を必要とする対象者に、人間的理解や共感することができ、その心理について理解を示すことができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>看護を必要とする人に適切な基礎看護技術について理解できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	看護とは何か、ケアとは何かについて理解する。		情意的領域	看護を必要とする対象者に、人間的理解や共感することができ、その心理について理解を示すことができる。		技能表現的領域	看護を必要とする人に適切な基礎看護技術について理解できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	看護とは何か、ケアとは何かについて理解する。																					
	情意的領域	看護を必要とする対象者に、人間的理解や共感することができ、その心理について理解を示すことができる。																					
	技能表現的領域	看護を必要とする人に適切な基礎看護技術について理解できる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>看護とは何か、ケアとは何かについて説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>看護を必要とする対象者に、人間的理解や共感することができ、その心理について説明することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>看護を必要とする人に適切な基礎看護技術が展開できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	看護とは何か、ケアとは何かについて説明できる。		情意的領域	看護を必要とする対象者に、人間的理解や共感することができ、その心理について説明することができる。		技能表現的領域	看護を必要とする人に適切な基礎看護技術が展開できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	看護とは何か、ケアとは何かについて説明できる。																					
	情意的領域	看護を必要とする対象者に、人間的理解や共感することができ、その心理について説明することができる。																					
	技能表現的領域	看護を必要とする人に適切な基礎看護技術が展開できる。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
看護とは何か、ケアとは何かについて理解する。	看護およびケアの両者について、講義で学習した用語を適切に用いて説明できる。	看護およびケアの両者について、講義で学習した用語を用いて説明できる。	看護またはケアについて、講義で学習した用語を用いて部分的に説明できる。	看護またはケアについて、講義で学習した用語を用いて一部説明できる。	看護やケアのいずれかについても、講義で学習した用語を用いて説明できない。
看護を必要とする対象者に、人間的理解や共感することができる、その心理について理解を示すことができる。	看護を必要とする対象者がどのような状況にあるのか、その上で支援が必要な人にある心理面や感情をイメージし、詳細に表現することができる。	看護を必要とする対象者がどのような状況にあるのか、その上で支援が必要な人にある心理面や感情をイメージし、表現することができる。	看護を必要とする対象者がどのような状況にあるのかは説明できたとしても、支援が必要な人にある心理面や感情については表現することが不十分である。	看護を必要とする対象者がどのような状況にあるのかは説明できたとしても、支援が必要な人にある心理面や感情については表現することができない。	看護を必要とする対象者がどのような状況や課題があるのか、説明できない。
ルーブリック					
授業計画（全体）	看護師としての実務経験を活かし、看護とは何かについて学び、また、看護を必要とする人々の健康問題や心理を理解する。また、基礎看護技術について学び、習得することを目的とする。				

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	授業オリエンテーション	養護教諭に必要なカリキュラムと本授業の位置づけ、授業内容についてガイダンスを行う。		看護の定義について教科書を読んでおくこと。	4 時間
2.	看護とは何か	看護・ケアとは何かについて学習する。		看護学総論の箇所について教科書を読んでおくこと。	4 時間
3.	基本的看護とは何かについて学ぶ	看護の基礎、基本行為について学ぶ。		基礎看護論の箇所について教科書を読んでおくこと。	4 時間
4.	疾病の経過に伴う看護について学ぶ	急性期・慢性期看護について学ぶ。		急性期・慢性期看護について学ぶ。	4 時間
5.	治療・処置課程における看護機能について学ぶ	代表的な治療方法とその看護について学ぶ。		基礎看護論の箇所について教科書を読んでおくこと。	4 時間
6.	小児期の発育・発達の特徴	小児期の身体・心理・社会的発達について学ぶ。		事前に配布された資料について読んでおくこと。	4 時間
7.	養護教諭の活動と看護的視点について学ぶ	健康相談活動を展開する上で必要な看護能力について学ぶ。		健康相談活動について資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
8.	養護教諭の活動と看護的視点について学ぶ	健康相談活動を展開する上で必要な看護方法について学ぶ。		健康相談活動について資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
9.	養護教諭の活動と看護的視点について学ぶ	健康相談活動を展開する上で必要な連携について学ぶ。		健康相談活動について資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
10.	小児看護	小児の特性、小児疾患とその看護について学ぶ。		小児看護の箇所について教科書を予習しておくこと。	4 時間

11.	小児看護	小児の特性、小児疾患とその看護について学ぶ。		小児看護の箇所について教科書を予習しておくこと。	4時間
12.	思春期看護	思春期の特性、思春期特有の健康問題とその看護について学ぶ。		思春期看護の箇所について教科書を予習しておくこと。	4時間
13.	感染症概論	感染症の要因、発症のメカニズム、予防方法、小児期に特徴的な感染症について学ぶ。		事前に配布された資料について読んでおくこと。	4時間
14.	フィジカルアセスメント論	フィジカルアセスメントとその必要性について学ぶ。		事前に配布された資料について読んでおくこと。	4時間
15.	フィジカルアセスメント方法	フィジカルアセスメントに必要な看護技術について学ぶ。		事前に配布された資料について読んでおくこと。	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	養護および看護におけるレポート、授業態度、出席状況について総合的に評価を行う。レポートはコメントを付して返却する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート		○	○	70%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				30%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	授業内容が理解できたかどうかを確認するため、毎回の授業終了後に「受講後のまとめ」を課す。次回授業時に前回の講義内容を含めてコメントする。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・看護についての講義を通して、養護教諭に必要な知識・技術について学ぶため、十分な学習を求める。 ・出席と、授業参加態度が重視される。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。 				
関連科目	看護学概論、看護学実習				
関連資格	養護教諭				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	養護教諭のための看護学 四訂版	藤井寿美子、山口昭子、佐藤紀久榮、采女智津江	大修館書店	2018	978-4-469-26852-2
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	養護教諭のためのフィジカルアセスメント 見て学ぶ応急処置の基礎基本	大谷尚子、大西文子、五十嵐徹、砂村京子	日本小児医事出版社	2020	978-4-88924-240-9
オフィス アワー	月曜日 16:00～17:30				
GCR	lialcyz				
その他	オンラインで対応する場合は、別途指示をします。連絡先 tt-hoie@sendai-u.ac.jp				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
541090	I-SIS322J-02	スポーツ情報戦略論演習 B																					
科目名(英字)	Technical Method of Sport Intelligence B																						
学科	スポーツ情報マネジメント学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	演習		単位数	2																	
担当教員	石丸 出穂			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	日本代表チーム・プロチームでの選手としてプレー及び、情報戦略(収集・分析)活動の実務活動を有する。																						
授業の概要	スポーツ活動や事業の推進・発展されるためには、素材となる情報を収集し有用な情報(インテリジェンス情報)へと変換しなければならない。また、変換された情報が効果的に活用されるためには、戦略的なフィールド活動や発信が必要となる。実践的な現場を舞台に情報戦略活動を体験するとともに、活動全体として質的な意義について考える。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	スポーツの実践現場にける情報戦略活動について、その必要性やあり方、役割等について退園を通して学ぶとともに、個別性の高い現場で求められる情報戦略活動に必要な応用スキルを身につける。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>スポーツの実践現場での課題・意義について実例を通して知る。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>スポーツの実践現場での情報戦略活動の意義や価値、あるべき姿について本質的かつ創造的な検討を加える視点や態度を身につける。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>スポーツの実践現場での情報戦略活動について、スキルを発展するのに必要な方法論を学び、体験学習を通じてその重要性を理解する。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	スポーツの実践現場での課題・意義について実例を通して知る。		情意的領域	スポーツの実践現場での情報戦略活動の意義や価値、あるべき姿について本質的かつ創造的な検討を加える視点や態度を身につける。		技能表現的領域	スポーツの実践現場での情報戦略活動について、スキルを発展するのに必要な方法論を学び、体験学習を通じてその重要性を理解する。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	スポーツの実践現場での課題・意義について実例を通して知る。																					
	情意的領域	スポーツの実践現場での情報戦略活動の意義や価値、あるべき姿について本質的かつ創造的な検討を加える視点や態度を身につける。																					
	技能表現的領域	スポーツの実践現場での情報戦略活動について、スキルを発展するのに必要な方法論を学び、体験学習を通じてその重要性を理解する。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>スポーツの実践現場での課題・意義について実例を通して知る。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>スポーツの実践現場での情報戦略活動の意義や価値、あるべき姿について本質的かつ創造的な検討を加える視点や態度を身につける。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>スポーツの実践現場での情報戦略活動について、スキルを発展するのに必要な方法論を学び、体験学習を通じてその重要性を理解する。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	スポーツの実践現場での課題・意義について実例を通して知る。		情意的領域	スポーツの実践現場での情報戦略活動の意義や価値、あるべき姿について本質的かつ創造的な検討を加える視点や態度を身につける。		技能表現的領域	スポーツの実践現場での情報戦略活動について、スキルを発展するのに必要な方法論を学び、体験学習を通じてその重要性を理解する。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	スポーツの実践現場での課題・意義について実例を通して知る。																					
	情意的領域	スポーツの実践現場での情報戦略活動の意義や価値、あるべき姿について本質的かつ創造的な検討を加える視点や態度を身につける。																					
	技能表現的領域	スポーツの実践現場での情報戦略活動について、スキルを発展するのに必要な方法論を学び、体験学習を通じてその重要性を理解する。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
スポーツの実践現場での課題・意義について実例を通して知る。	スポーツの実践現場での課題・意義について実例を通して十分に理解している。	スポーツの実践現場での課題・意義について実例を通して理解している。	スポーツの実践現場での課題・意義について実例を通して理解しようとしている。	スポーツの実践現場での課題・意義について実例を通して気づく。	スポーツの実践現場での課題・意義について実例を経験していない。
スポーツの実践現場での情報戦略活動の意義や価値、あるべき姿について本質的かつ創造的な検討を加える視点や態度を身に看ける。	スポーツの実践現場での情報戦略活動の意義や価値、あるべき姿について本質的かつ創造的な検討を加える視点や態度を身に看けている。	スポーツの実践現場での情報戦略活動の意義や価値、あるべき姿について本質的かつ創造的な検討を加える視点や態度がある。	スポーツの実践現場での情報戦略活動の意義や価値について創造的に検討しようとしている。	スポーツの実践現場での情報戦略活動の意義や価値がわかる。	スポーツの実践現場での情報戦略活動の意義や価値を理解していない。
スポーツの実践現場での情報戦略活動について、スキルを発展するのに必要な方法論を学び、体験学習を通じてその重要性を理解する。	スポーツの実践現場での情報戦略活動について、スキルを発展するのに必要な方法論を身に付け、体験学習を通じてその重要性を理解している。	スポーツの実践現場での情報戦略活動について、スキルを発展するのに必要な方法論を身に付けている。	スポーツの実践現場での情報戦略活動について、体験学習を通じてその重要性を理解している。	スポーツの実践現場での情報戦略活動について、スキルを発展するのに必要な方法論を身に付けようとしている。	スポーツの実践現場での情報戦略活動について、スキルを発展するのに必要な方法論を理解していない。
授業計画（全体）	<p>日本代表チーム・プロチームでの選手としてプレー及び、情報戦略(収集・分析)活動を生かし、スポーツの実践現場における情報戦略活動の観点から演習を行う。各授業テーマに沿った講義を現場での活動と講義、グループワークを行う。より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。また、アカデミックパートナー協定を締結している在仙プロ球団もケーススタディとして取り上げ演習を繰り返し行う。授業毎に感想やレポート課題を提出し、理解度・到達度を確認する。</p>				

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員紹介、授業の目標と進め方の説明。成績評価の方法。		シラバスを熟読すること	4 時間
2.	情報戦略活動とは（1）	情報戦略活動について講義を中心に学んでいく。		授業時に連絡	4 時間
3.	情報戦略活動とは（2）	情報戦略活動について講義を中心に学んでいく。		授業時に連絡	4 時間
4.	スポーツ現場での情報戦略活動とは（1）	スポーツ現場での情報戦略活動について講義を中心に学ぶ。		授業時に連絡	4 時間
5.	スポーツ現場での情報戦略活動とは（2）	スポーツ現場での情報戦略活動について講義を中心に学ぶ。		授業時に連絡	4 時間
6.	グループ活動	スポーツ現場の情報戦略について、自身に関するスポーツを題材にグループごとに考える。		授業時に連絡	4 時間
7.	グループ活動	スポーツ現場の情報戦略について、自身に関するスポーツを題材にグループごとに現場を体験する。		授業時に連絡	4 時間
8.	グループ活動	スポーツ現場の情報戦略についてグループごとに現場を体験した経験をもとに分析を行う。		授業時に連絡	4 時間
9.	全体活動	スポーツ現場の情報戦略について、グループごとに各スポーツの情報戦略活動についてプレゼンを行う。		授業時に連絡	4 時間
10.	全体活動	スポーツ現場の情報戦略について、グループごとに各スポーツの情報戦略活動についてプレゼンを行う。		授業時に連絡	4 時間

11.	グループ活動	スポーツ現場の情報戦略について、あらゆるスポーツを他グループの行った活動をもとに学ぶ。		授業時に連絡	4 時間
12.	グループ活動	アカデミックパートナー協定を締結している在仙プロ球団の資料やデータを活用し分析活動を実施する。		授業時に連絡	4 時間
13.	グループ活動	アカデミックパートナー協定を締結している在仙プロ球団の資料やデータを活用し分析活動を行った結果を競技毎に情報共有する。		授業時に連絡	4 時間
14.	全体活動	アカデミックパートナー協定を締結している在仙プロ球団の資料やデータを活用し分析活動を行った結果を競技毎に発表する。		授業時に連絡	4 時間
15.	全体活動	スポーツ現場の情報戦略について、各スポーツの情報戦略活動の改善点などディスカッションを行う。		授業時に連絡	4 時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	評価は、1)活動への貢献度(特に、グループ活動等における情報発信および情報共有)(50%)、2)授業内外レポート(30%)、3)アウトプット<総括レポート>(10%)、4)プレゼンテーション(10%)で行なう。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート		○		10%
	授業外レポート		○		30%
	演習・実技				50%
	授業態度	○	○	○	10%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	各授業においてレポートを作成、フィードバックを行う。グループ活動においては、相互評価も行う。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件) 				
関連科目	スポーツ情報戦略論演習A・C、スポーツ情報戦略論実習				
関連資格	特になし				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	指定しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	指定しない				
オフィス アワー	石丸研究室(E棟2階) 水曜日 10:20-11:50				
GCR	i22sg4s				
その他	なし				

感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
542180	E-EPE421J-01	保育実習指導																					
科目名(英字)	Childcare Practicum Instruction I																						
学科	子ども運動教育学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	演習		単位数																		
					2																		
担当教員	佐々木 和 / 庄子 佳吾			開講の別	同時開講																		
実務経験の有無	幼保連携型認定こども園保育教諭、幼稚園型認定こども園教頭の教員経験を有する																						
授業の概要	3年次で実施される保育実習の事前指導（実習現場の理解、指導計画案の基礎、保育実習への心構え等）及び、事後指導を行う。保育実習に参加する者は、この科目を受講しなければ、実習に参加することはできない。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	保育実習に参加する基礎的・基本的な知識、技能を習得し、併せて保育実習（保育所、施設、認定こども園）に臨むための心構えや態度等を身につける。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>保育実習の意義を理解するとともに、保育実習に必要な基礎的・基本的な知識を身につけ説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>保育実習に参加するための、意欲と見通しを持って説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>保育実習の基礎的・基本的技能（絵本の読み聞かせ、手遊び、運動遊び、マナー等）を実践できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	保育実習の意義を理解するとともに、保育実習に必要な基礎的・基本的な知識を身につけ説明できる。		情意的領域	保育実習に参加するための、意欲と見通しを持って説明できる。		技能表現的領域	保育実習の基礎的・基本的技能（絵本の読み聞かせ、手遊び、運動遊び、マナー等）を実践できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	保育実習の意義を理解するとともに、保育実習に必要な基礎的・基本的な知識を身につけ説明できる。																					
	情意的領域	保育実習に参加するための、意欲と見通しを持って説明できる。																					
	技能表現的領域	保育実習の基礎的・基本的技能（絵本の読み聞かせ、手遊び、運動遊び、マナー等）を実践できる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>保育実習の意義を理解するとともに、保育実習に必要な基礎的・基本的な知識を習得できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>保育実習に参加するための、意欲と見通しがもてる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>保育実習の基礎的・基本的技能（絵本の読み聞かせ、手遊び、運動遊び、マナー等）を習得できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	保育実習の意義を理解するとともに、保育実習に必要な基礎的・基本的な知識を習得できる。		情意的領域	保育実習に参加するための、意欲と見通しがもてる。		技能表現的領域	保育実習の基礎的・基本的技能（絵本の読み聞かせ、手遊び、運動遊び、マナー等）を習得できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	保育実習の意義を理解するとともに、保育実習に必要な基礎的・基本的な知識を習得できる。																					
	情意的領域	保育実習に参加するための、意欲と見通しがもてる。																					
	技能表現的領域	保育実習の基礎的・基本的技能（絵本の読み聞かせ、手遊び、運動遊び、マナー等）を習得できる。																					

評価項目	評価基準					
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない	
	秀	優	良	可	不可・放棄	
ルーブリック	・保育実習の意義を理解するとともに、保育実習に必要な基礎的・基本的な知識を習得する。	・保育実習の現状（保育園、認定こども園）を理解し、具体的な目標を持って立案することができる。0歳～6歳までの発達の特徴がおさえられている。	・保育園、認定こども園の現状を理解し、担当のクラスの子どもの発達の特徴を、おさえられている。	・保育園、認定こども園の特徴や、実習に向けての観察の仕方・記録の重要性について理解している。	・保育実習に必要な基礎的・基本的な知識を習得し、理解できている。観察や記録の重要性についても理解ができている。	保育実習について、理解することができない。実習に対して消極的である。
	・保育実習の意義を理解するとともに、保育実習に必要な基礎的・基本的な知識を習得する。	・保育実習において、自分で計画を立てたり、実習に向けての準備を積極的に進めることができる。	・保育実習に向けて実習先を決めたり、実習に向けて実習先の園について調べたり、自分の考えをレポートにまとめたりすることができる。	・実習に行く保育園や認定こども園について情報を集めたり、実習に向けて自分の考えを持つことができる。	・保育実習に向けて、自分の考えをまとめたりして、意欲と見通しをもって準備ができている。	・保育実習に対して消極的で、提出物を期限内に提出できなかったり、自分の動向をレポートにまとめたりすることができない。
	・保育実習の基礎的・基本的技能（絵本の読み聞かせ、手遊び、運動遊び、マナー等）を習得する。	・未満児、以上児に適した基礎的・基本的技能を身につけ、工夫をしながら実践に移すことができる。また、マナー（言葉遣いや態度）を身につけ、誰に対しても対応することができる。	・未満児、以上児に適した基礎的・基本的技能を身につけ、実践に移すことができる。また、マナー（言葉遣いや態度）を身につけ、行動することができる。	・自分の得意な基礎的・基本的技能を身につけ、人前で実践することができる。また、実習に向けてマナーが必要なことを理解し、自分の行動や態度を振り返り修正することができる。	・自分の得意な基礎的・基本的技能を身につけ、人前で実践することができる。また、実習に向けてマナーが必要なことを理解し、自分の行動や態度を振り返ることができる。	・保育実習の基礎的・基本的技能に関心を示さず、自分から習得しようとししない。
授業計画（全体）	保育実習現場の理解（保育所、認定こども園、施設）、保育実習の心構え、保育実習の方法と流れ、指導計画の作成及び評価の理解等について、講義（又は演習）を行う。					

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介、実習に向けての注意事項、シラバスの理解、成績評価の方法		シラバスを読んでおくこと	4時間
2.	保育実践の理解	保育実践の現状を理解する。		授業内容の復習	4時間
3.	保育実習の種類と方法	保育実習の種類と方法の実際について理解する。		授業内容の復習	4時間
4.	保育実習の種類と方法	保育実習の種類と方法の実際について理解し、具体的な目標を立てる。		授業内容の復習	4時間
5.	保育実習の種類と方法	保育実習の種類と方法の実際について理解し、具体的な目標を立てる。実習時に持参する、書類や教材の確認を行う。		授業内容の復習	4時間
6.	保育における計画と実践	実習の計画と実践を知り、理解を深める。絵本の読み聞かせ、手遊び、運動遊びなどに触れる。		授業内容の復習	4時間
7.	実習における計画と実践	実習における観察、記録及び評価について、理解を深める。		授業内容の復習	4時間
8.	指導計画案について	実際の指導計画案に触れ、必要性や理解を深める。		授業内容の復習	4時間
9.	指導計画案について	指導計画案（部分実習）を、立案する。		授業内容の復習	4時間
10.	保育実習と子どもの理解	保育実習前に、子どものかかわりについて理解を深める。		保育実習前に、子どものかかわりについて理解を深める。	4時間

11.	施設実習について	施設実習の実際を学び、実習の意義を理解する。		授業内容の復習	4時間
12.	施設実習の種類と方法	施設実習の種類と方法の実際について、理解する。		授業内容の復習	4時間
13.	施設実習の種類と方法	施設実習の種類と方法の実際について理解し、具体的な目標を立てる。		授業内容の復習	4時間
14.	施設実習の指導案について	指導計画案の実際に触れ、理解を深める。		授業内容の復習	4時間
15.	まとめ	これまでの授業を総括し、実習への理解を深める。実習に行くにあたってのマナーやオリエンテーションについて理解を深める。		授業内容の復習	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	出席及び実習関連提出書類(レポート、課題発表等)を中心に、評価する。実習に向けての姿勢、意欲、教材研究、向上心等を持って、授業や課題に取り組んでいるのかを、評価する。欠席は原則として、3分の1以上は評価対象外とする。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート				50%
	授業外レポート	○	○	○	20%
	演習・実技		○	○	20%
	授業態度		○		10%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは、授業内で説明をしながら返却をする場合と、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・保育士を目指すものとして、常に課題意識を持ち受講すること。併せて、ピアノのレッスンも積極的に行うこと。 ・実習関連課題の提出、レポート提出等は、期限を厳守すること。 				
関連科目	保育実習				
関連資格	保育士資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	パターンと練習問題でだれでも書けるようになる1保育実習日誌・指導案(幼児教育サポートBOOKS)	浅井拓久也 編著	明治図書	2020	
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	保育所保育指針解説				
	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説				
オフィス アワー	水曜日 11:50~12:40 / 金曜日 14:20~15:50				
GCR	urq42qy				
その他	コロナウイルス感染拡大の状況によっては、実習期間の変更又は中止、実習先の変更の場合有り				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
113130	T-fye231J-01 T-	生徒指導論 A (含進路指導及びキャリア教育の理論及び方法)																					
科目名(英字)	Theory of student guidance A																						
学科	健康福祉学科、スポーツ栄養学科、スポーツ情報メディア学科、現代武道学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	講義	単位数	2																		
担当教員	江尻 雅彦 / 白幡 真紀			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	高校での教員経験を有する																						
授業の概要	本講義では、生徒指導提要並びに学習指導要領に基づき、実際の教育現場で行われる生徒・進路指導及びキャリア教育の意義や原理、児童生徒全体へのその指導やその在り方及び内外部並びに関係機関との連携の在り方、そして校内体制と家庭や関係機関との連携の在り方、個別の児童生徒の生徒指導上、進路指導上の課題に向き合う考指導のえ方とあり方をカウンセリング等の方法も含め概説する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	生徒指導の意義・目的・原理・内容・方法等や自らの生き方・在り方である進路指導の理論・内容・実践等を理解する。また、校内における生徒指導や進路指導体制と家庭や関係機関との連携の在り方、教育相談や発達障害への具体的対応等を理解する。加えて、目まぐるしく変化する生徒指導の現状と課題を理解し、すべての児童生徒の良好な人格形成に繋がられる実践力を養う。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>生徒指導及び進路指導の歴史や意義、原理、目的、内容、方法、理論等について説明できる。さらに、生徒・進路指導上の個別の課題に応じた相談支援の在り方を説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>授業に真剣に取り組むことを理解し、児童生徒や集団にとって有意義で興味深く、充実した学校生活が送れるような支援を目指し、常に生徒理解と研修に励み、他の教員と協働しながら生徒指導に当たる重要性を理解できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>生徒・保護者・地域への対応、関係機関との連携の仕方などについて理解できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	生徒指導及び進路指導の歴史や意義、原理、目的、内容、方法、理論等について説明できる。さらに、生徒・進路指導上の個別の課題に応じた相談支援の在り方を説明できる。		情意的領域	授業に真剣に取り組むことを理解し、児童生徒や集団にとって有意義で興味深く、充実した学校生活が送れるような支援を目指し、常に生徒理解と研修に励み、他の教員と協働しながら生徒指導に当たる重要性を理解できる。		技能表現的領域	生徒・保護者・地域への対応、関係機関との連携の仕方などについて理解できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	生徒指導及び進路指導の歴史や意義、原理、目的、内容、方法、理論等について説明できる。さらに、生徒・進路指導上の個別の課題に応じた相談支援の在り方を説明できる。																					
	情意的領域	授業に真剣に取り組むことを理解し、児童生徒や集団にとって有意義で興味深く、充実した学校生活が送れるような支援を目指し、常に生徒理解と研修に励み、他の教員と協働しながら生徒指導に当たる重要性を理解できる。																					
	技能表現的領域	生徒・保護者・地域への対応、関係機関との連携の仕方などについて理解できる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義や原理、全ての児童生徒を対象として学級・学年・学校における生徒指導・進路指導・キャリア教育の考え方を理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>児童生徒が抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の他の教職員、及び外部の関係機関や専門家等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方や在り方について理解する。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義や原理、全ての児童生徒を対象として学級・学年・学校における生徒指導・進路指導・キャリア教育の考え方を理解する。		情意的領域	児童生徒が抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の他の教職員、及び外部の関係機関や専門家等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。		技能表現的領域	児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方や在り方について理解する。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義や原理、全ての児童生徒を対象として学級・学年・学校における生徒指導・進路指導・キャリア教育の考え方を理解する。																					
	情意的領域	児童生徒が抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の他の教職員、及び外部の関係機関や専門家等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。																					
	技能表現的領域	児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方や在り方について理解する。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
生徒指導とは何か、歴史と理念、意義と原理並びに教育課程における位置づけと領域	生徒指導及び進路指導の歴史や意義、原理、目的、内容、方法、理論等について十分理解した上で、他人に説明できる。	生徒指導及び進路指導の歴史や意義、原理、目的、内容、方法、理論等について十分理解している。	生徒指導及び進路指導の歴史や意義、原理、目的、内容、方法、理論等については理解している。	生徒指導及び進路指導の歴史や意義、原理、目的、内容、方法、理論等について最低限理解している。	意義・原理・目的・内容・方法・理論など理解していない。
常に生徒理解と研修に励み、他の教員と協働しながら生徒指導に当たる重要性を理解している。	常に生徒理解と研修に励み、他の教員と協働しながら生徒指導に当たる重要性を十分理解した上で、他人に説明ができる。	常に生徒理解と研修に励み、他の教員と協働しながら生徒指導に当たる重要性を十分理解している。	常に生徒理解と研修に励み、他の教員と協働しながら生徒指導に当たる重要性をほぼ理解している。	常に生徒理解と研修に励み、他の教員と協働しながら生徒指導に当たる重要性を最低限理解している。	常に生徒理解と研修に励み、他の教員と協働しながら生徒指導に当たる重要性を理解していない。
生徒・保護者・地域への対応、関係機関との連携の仕方などについて理解している。	生徒・保護者・地域への対応、関係機関との連携の仕方などについて十分理解した上で、他人に説明できる。	生徒・保護者・地域への対応、関係機関との連携の仕方などについて十分理解している。	生徒・保護者・地域への対応、関係機関との連携の仕方などについては理解している。	生徒・保護者・地域への対応、関係機関との連携の仕方などについて最低限理解している。	生徒・保護者・地域への対応、関係機関との連携の仕方などについて理解していない。
ルーブリック					
授業計画（全体）	各授業のテーマに基づく講義が中心となる。講義ではこれまで高校の教育現場で経験した生の事例を取り上げ、児童・生徒、教師、保護者、地域住民のそれぞれの立場で考えさせる演習も行う。また、実践的力量を高めるため、授業外学習や教育ボランティアへの積極的参加を勧める。さらに、マスメディアを活用し、国や地方における生徒指導に係る教育施策や法的対応等の動向を把握させ、当事者意識を高揚させ、思考・判断や態度・行動と直結させ、実践力の向上への起点となる。				

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション 生徒指導の基本的な進め方（1） （江尻）	1 本授業の意義、授業計画と内容、授業の進め方、成績評価の方法、留意事項 2 定義、目的 3 実践上の視点		学習指導要領、シラバス及び関係プリントを用い授業全体を確認する。	4 時間
2.	生徒指導の基本的な進め方（2） 生徒指導の基本 （江尻）	1 構造 2 方法 3 取り組みの留意点		教科書p11～p37、学習プリント等で学習を深める。	4 時間
3.	生徒指導の基本的な進め方（3） 生徒指導と教育課程 （江尻）	1 児童生徒の発達を支える教育課程 2 教科と生徒指導 3 道徳と生徒指導 4 探求と生徒指導		教科書p39～66や学習プリントをもとに学習を深める。	4 時間
4.	生徒指導の基本的な進め方（4） チーム学校による生徒指導体制 （江尻）	1 学校組織 2 生徒指導体制 3 教育相談体制 4 チーム支援		教科書p68～96と学習プリントで学習を深める。	4 時間
5.	生徒指導の基本的な進め方（5） チーム学校による生徒指導体制 （江尻）	1 危機管理体制 2 法的運用 3 関係期間との連携		教科書p96～120と学習プリントで学習を深める。	4 時間
6.	個別の課題に対する生徒指導（その1） （江尻）	1 いじめについて 2 組織体制と計画 3 関係機関との連携		教科書p120～139と学習プリントで復習する。	4 時間
7.	個別の課題に対する生徒指導（その2） （江尻）	1 暴力行為 2 少年非行の現状 3 保護者・関係機関との連携		教科書p141～170と学習プリントで学習を深める。	4 時間
8.	個別の課題に対する生徒指導（その3） （江尻）	1 児童虐待の現状 2 自殺の現状 3 中途退学		教科書P171～219と学習プリントで学習を深める。	4 時間
9.	個別の課題に対する生徒指導（その4） （江尻）	1 不登校の現状 3 関連法規 4 学校の組織体制と計画 5 関係機関との連携		教科書P221～238と学習プリントで学習を深める。	4 時間
10.	個別の課題に対する生徒指導（その5） （江尻）	インターネット・携帯電話に関わる問題 1 関連法規 2 組織的取り組み 3 関係機関との連携に在り方		教科書P240～253と学習プリントで学習を深める。	4 時間

11.	個別の課題に対する生徒指導（その6） （江尻）	1 性に関する関連法規 2 性犯罪等の実態 3 性的マイノリティについて 4 課題の早期発見・解決		教科書P255～266と学習プリントで学習を深める。	4時間
12.	多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導	1 発達障害の理解と対応 2 精神疾患の理解と対応 3 健康課題の理解と対応		教科書P268～288と学習プリントで学習を深める。	4時間
13.	多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導 （江尻）	1 支援を要する家庭状況の実態と理解 2 ヤングケアラーについての理解		教科書P280～289と学習プリントで学習を深める。	4時間
14.	進路指導・キャリア教育の進め方（1） （白幡）	1 キャリア教育とは何か 歴史 理論 教育課程への位置づけ			4時間
15.	進路指導・キャリア教育の進め方（2） （白幡）	2 キャリア教育の考え方と指導 キャリア教育の6活動領域 t p 4 領域 組織体制と教員の役割・運営			4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	定期の筆記試験の結果(70%)に、授業態度や授業内レポート・意欲・関心(30%)を加味して評価する。なお、提出されたレポート等は、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。学則に従い総欠席数が6回以上の者は評価対象外(放棄)とする。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				70%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				30%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートの実施に関しては、授業時間内で指示します。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<p>教師になるうという強い意欲のある学生の受講を基本とする。</p> <p>授業態度や確認小テストも評価の観点とし加点し、次時に解説する。また、自己都合による20分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p> <p>資格関連実習や各種公認大会、慶弔等の理由による欠席届は配慮される場合がある。自己都合の欠席や資格関連を伴わない授業演習等は届出を提出しても欠席扱いとする。</p> <p>授業は進み方で内容の前後や変更の可能性もあり得る 詳細については、第一回授業時に紹介す</p>				
関連科目	教育心理、教育相談、その他教職関連科目				
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	生徒指導提要(文部科学省 教育図書出版)				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	学習指導要領(総則・特別活動、含解説)・教育小六法				
オフィス アワー	火曜日 11:00 ~ 12:30				
GCR	ps7xubx				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
524100	N-BCH211J-01	生化学																					
科目名(英字)	Biochemistry																						
学科	スポーツ栄養学科			学年	1年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	柴原 茂樹			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	医学教育現場での実務経験を有する																						
授業の概要	<p>生化学は生命現象を主として化学的知識や手法を用いて解析し、その本質を分子のレベルで理解しようとするものである。本授業では、1) 生体や食物はどのような物質から成り立っているのか、2) それらの物質が生体内でどのような化学変化を遂げて、生体の構成成分やエネルギーの源となるのか、3) これらの過程で細胞・器官、酵素タンパク質、遺伝子などがどのように働いているのかについて学ぶ。</p>																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	<p>栄養学全般を理解する上で必要な解剖生理学的知識と考え方をより深く学び、それに基づいて栄養に関する諸事項を説明できる。或いは、批判する能力を身につける。</p>																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>人体や食品を構成する物質の構造と機能についての基礎的知識を十分身に付けている。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>物質とエネルギーの代謝を中心とする生化学的諸概念を十分に理解している。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	人体や食品を構成する物質の構造と機能についての基礎的知識を十分身に付けている。		情意的領域	物質とエネルギーの代謝を中心とする生化学的諸概念を十分に理解している。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	人体や食品を構成する物質の構造と機能についての基礎的知識を十分身に付けている。																					
	情意的領域	物質とエネルギーの代謝を中心とする生化学的諸概念を十分に理解している。																					
	技能表現的領域																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>人体や食品を構成する物質の構造と機能についての基礎的知識を身に付けている。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>物質とエネルギーの代謝を中心とする生化学的諸概念を理解している。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	人体や食品を構成する物質の構造と機能についての基礎的知識を身に付けている。		情意的領域	物質とエネルギーの代謝を中心とする生化学的諸概念を理解している。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	人体や食品を構成する物質の構造と機能についての基礎的知識を身に付けている。																					
	情意的領域	物質とエネルギーの代謝を中心とする生化学的諸概念を理解している。																					
	技能表現的領域																						

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
人体や食品を構成する物質の種類やそれぞれの構造と機能についての基礎的知識を身に付ける。	人体や食品を構成する物質の構造と機能についての基礎的知識を十分に付けており、的確に説明できる。	人体や食品を構成する物質の構造と機能についての基礎的知識を十分に付けている。	人体や食品を構成する物質の構造と機能についての基礎的知識を身に付けている。	人体や食品を構成する物質の構造と機能についての基礎的知識をほぼ身に付けている。	人体や食品を構成する物質の構造と機能についての基礎的知識を身に付けていない。
物質とエネルギーの代謝を中心とする生化学的諸概念を理解する。	物質とエネルギーの代謝を中心とする生化学的諸概念を十分に理解し、意欲的に学習している。	物質とエネルギーの代謝を中心とする生化学的諸概念を十分に理解している。	物質とエネルギーの代謝を中心とする生化学的諸概念を理解している。	物質とエネルギーの代謝を中心とする生化学的諸概念をほぼ理解している。	物質とエネルギーの代謝を中心とする生化学的諸概念を理解していない。
授業計画(全体)	各回のテーマについて、基本事項を解説し、講義資料をGoogleクラスルームに提示する。				

授業計画(各回のテーマ等)

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	ウイルスを知り、共に生きる：ヒト遺伝学の基礎	ウイルスと人類の進化、人獣共通感染症、新型コロナウイルス感染症、ワクチンの基礎		ウイルス、細菌、細胞の構造について事前に調べておくこと。	4時間
2.	生化学序論	生体成分、有機化合物、水の構造、細胞の構造と機能、生体膜、物質の輸送。		原子と分子の構造について事前に調べておくこと。	4時間
3.	核酸の化学	核酸の基本構造。核酸塩基、ヌクレオシド、ヌクレオチド、DNA、RNA。クロマチンと核タンパク質。		核酸と染色体の構造について事前に調べておくこと。	4時間
4.	核酸の合成	DNAの複製、細胞周期、減数分裂、遺伝子の転写		体細胞分裂と減数分裂について事前に調べておくこと。	4時間
5.	アミノ酸、タンパク質の化学	アミノ酸の種類、構造、性質。タンパク質構成基本アミノ酸。		アミノ酸の種類と構造について事前に調べておくこと。	4時間
6.	アミノ酸、タンパク質の化学	ペプチドとペプチド結合。タンパク質の高次構造、性質、機能。アミロイド病(アルツハイマー病、パーキンソン病、プリオン病)。		タンパク質の構造について事前に調べておくこと。	4時間
7.	酵素	酵素反応の特徴。酵素の構造と活性中心。ビタミンと補酵素。反応速度と阻害。酵素活性の調節。酵素の細胞内分布とイソ酵素。酵素前駆体。		酵素について事前に調べておくこと。	4時間
8.	糖質の化学	糖質の種類、構造、性質：単糖類、オリゴ糖類、多糖類(澱粉、グリコーゲン、複合糖質とグリコサミノグリカン)。		糖質の種類と構造について事前に調べておくこと。	4時間
9.	脂質の化学	脂質の種類、構造、性質：脂肪酸、単純脂質、複合脂質、ステロイド、アラキドン酸、テルペノイド。リポタンパク質。		脂質の種類と構造について事前に調べておくこと。	4時間
10.	物質とエネルギーの代謝総論	物質代謝とエネルギー代謝。生体内代謝の全体像。生体内の酸化還元反応。ATP合成と酸化的リン酸化。		ミトコンドリアの構造について事前に調べておくこと。	4時間

11.	糖質の代謝	グルコースの分解(代謝)。グリコーゲンの合成と分解。		解糖系について事前に調べておくこと。	4時間
12.	糖質の代謝	クエン酸回路。糖新生。ペントースリン酸回路。その他の糖質代謝。糖尿病の病態。		クエン酸回路と糖新生について事前に調べておくこと。	4時間
13.	脂質の代謝	脂肪酸の分解。脂肪酸の生合成。ケトン体。アラキドン酸の代謝。コレステロールの代謝。脂質代謝異常。		脂肪酸、コレステロールの構造について事前に調べておくこと。	4時間
14.	アミノ酸・タンパク質の代謝	基本アミノ酸の合成と分解。尿素回路。アミノ酸の代謝異常症。		アミノ酸の構造について事前に調べておくこと。	4時間
15.	核酸の代謝	ヌクレオチドの合成と分解。再生経路、尿酸と痛風。プリンとピリミジン代謝異常症。		プリンとピリミジン塩基の構造について事前に調べておくこと。	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	最後の講義(16回めの講義)で、全体のまとめと期末試験を実施する。授業の途中で関連課題についてレポートを課す。それらを統合して総合評価する。なお、適宜、提出されたレポートに関し解説する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				80%
	授業内レポート				20%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートの実施に関しては、授業内で指示します。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	予習と復習が重要であり、意欲的な取り組みを期待する。すなわち、授業内容(講義資料)をノートに整理する等、内容理解に努めること。				
関連科目	栄養学				
関連資格	栄養士				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	シンブル生化学(改訂第7版)、監修:林典夫・廣野治子、南江堂。プリントも使用する				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特に指定なし				
オフィス アワー	教育企画に確認すること				
GCR	Imniobf				
その他	悪天候、ウイルス感染状況などにより、適宜、講義をオンラインで実施する。				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
133150	N-CAF331J-06	給食計画論																					
科目名(英字)	Management of Food Service																						
学科	スポーツ栄養学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	岩田 純			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	管理栄養士として病院での実務経験を有する																						
授業の概要	給食の定義や関連する法律について紹介する。給食サービスにおける調理作業計画、栄養管理、衛生安全管理などについて講義を行う。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する基礎的な知識を習得する。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>給食業務を行うために必要な調理作業計画、栄養管理、衛生安全管理などの基礎的事項を理解し、説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>大量調理を想定した献立表、作業工程表、発注書の作成を数回以内の添削による修正で実施可能な状態に仕上げることができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	給食業務を行うために必要な調理作業計画、栄養管理、衛生安全管理などの基礎的事項を理解し、説明できる。		情意的領域			技能表現的領域	大量調理を想定した献立表、作業工程表、発注書の作成を数回以内の添削による修正で実施可能な状態に仕上げることができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	給食業務を行うために必要な調理作業計画、栄養管理、衛生安全管理などの基礎的事項を理解し、説明できる。																					
	情意的領域																						
	技能表現的領域	大量調理を想定した献立表、作業工程表、発注書の作成を数回以内の添削による修正で実施可能な状態に仕上げることができる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>給食業務を行うために必要な調理作業計画、栄養管理、衛生安全管理などの基礎的事項をほぼ理解している。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>大量調理を想定した献立表、作業工程表、発注書の作成を3回以内の添削による修正で実施可能な状態に近づけられる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	給食業務を行うために必要な調理作業計画、栄養管理、衛生安全管理などの基礎的事項をほぼ理解している。		情意的領域			技能表現的領域	大量調理を想定した献立表、作業工程表、発注書の作成を3回以内の添削による修正で実施可能な状態に近づけられる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	給食業務を行うために必要な調理作業計画、栄養管理、衛生安全管理などの基礎的事項をほぼ理解している。																					
	情意的領域																						
	技能表現的領域	大量調理を想定した献立表、作業工程表、発注書の作成を3回以内の添削による修正で実施可能な状態に近づけられる。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
給食サービスにおける基礎的事項についての理解	給食業務を行うために必要な調理作業計画、栄養管理、衛生安全管理などの基礎的事項を具体的な事例を示して分かりやすく説明できる。	給食業務を行うために必要な調理作業計画、栄養管理、衛生安全管理などの基礎的事項を理解し、説明できる。	給食業務を行うために必要な調理作業計画、栄養管理、衛生安全管理などの基礎的事項を理解している。	給食業務を行うために必要な調理作業計画、栄養管理、衛生安全管理などの基礎的事項をほぼ理解している。	給食業務を行うために必要な調理作業計画、栄養管理、衛生安全管理などの基礎的事項を理解していない。
大量調理を想定した献立作成	大量調理を想定した献立の作成を1回の添削による軽微な修正あるいは添削無しで実施可能な状態に上げることができる。	大量調理を想定した献立の作成を数回以内の添削による修正で実施可能な状態に上げることができる。	大量調理を想定した献立の作成を数回の添削による修正でほぼ実施可能な状態に上げることができる。	大量調理を想定した献立の作成を3回以内の添削による修正で実施可能な状態に近づけられる。	大量調理を想定した献立の作成を3回以上の添削による修正でも実施可能な状態に上げられない見通しが立たない。
大量調理を想定した調理作業工程表の作成	大量調理を想定した作業工程表の作成を1度の添削による軽微な修正あるいは添削無しで実施可能な状態に上げることができる。	大量調理を想定した作業工程表の作成を数回以内の添削による修正で実施可能な状態に上げることができる。	大量調理を想定した作業工程表の作成を数回の添削による修正でほぼ実施可能な状態に上げることができる。	大量調理を想定した作業工程表の作成を3回以内の添削による修正で実施可能な状態に近づけられる。	大量調理を想定した作業工程表の作成を3回以上の添削による修正でも実施可能な状態に上げられない見通しが立たない。
大量調理を想定した発注書の作成	大量調理を想定した発注書の作成を添削無しで実施可能な状態に上げることができる。	大量調理を想定した発注書の作成を数回以内の添削による修正で実施可能な状態に上げることができる。	大量調理を想定した発注書の作成を数回の添削による修正でほぼ実施可能な状態に上げることができる。	大量調理を想定した発注書の作成を3回以内の添削による修正で実施可能な状態に近づけられる。	大量調理を想定した発注書の作成を3回以上の添削による修正でも実施可能な状態に上げられない見通しが立たない。
ルーブリック					
授業計画（全体）	給食の概要説明後、3回目に学内の給食実習室の見学を行う。講義で学んだ知識をより確実なものとするために、何回かの小テストを行い、理解度を確認しながら授業を進めていく。また、大量調理を想定した献立、作業工程表、発注書の作成方法を説明し、授業外の課題とする。				

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション、給食の定義と目的	授業計画、成績評価方法を説明した後、ジュニアアスリートへの給食提供をテーマとしたグループディスカッションにより給食の目的を考える。		指定の教科書を購入し、「給食」及び「特定給食施設」の定義を読んでおくこと	4時間
2.	特定給食施設の関係法規と行政指導	特定給食施設の栄養士・管理栄養士の配置や適切な栄養管理、行政指導と罰則の規定について説明する。終盤に小テストを実施する。		健康増進法の特定給食施設に関する規定を読んでおくこと	4時間
3.	集団給食実習室の見学	集団給食実習室での給食の流れや調理機器などを紹介する		給食の流れと調理機器の使い方をノートにまとめておくこと	4時間
4.	給食施設における調理作業の流れ	食材の検収から配膳までの調理作業の流れや調理機器を写真や動画を用いながら説明する。終盤に小テストを実施する。		小テストを見直して理解を深めておくこと	4時間
5.	衛生安全管理（調理従事者）	食材料、施設・設備の衛生安全管理について説明する。終盤に小テストを実施する		小テストを見直して理解を深めておくこと	4時間
6.	衛生安全管理（食材料、施設・設備）	食材料、施設・設備の衛生安全管理について説明する。終盤に小テストを実施する		小テストを見直して理解を深めておくこと	4時間
7.	栄養管理（給与栄養基準量の設定）	献立作成に必要な給与栄養基準量の設定方法について解説する。		日本人の食事摂取基準の使い方を復習しておくこと	4時間
8.	栄養管理（食品構成）	食品構成表や献立表の作成方法について説明する。終盤に小テストを実施する。更に献立作成課題を提示する。		大量調理を想定した1食分（昼食）の献立を作成して提出すること	4時間
9.	食材料管理	食材料管理および発注書の作成方法について説明する。発注書作成課題を提示する。		各自で作成した献立より発注書を作成して提出すること	4時間
10.	作業管理（大量調理の特徴）	作業管理の方法や大量調理の標準化について説明する。終盤に小テストを実施する。		小テストを見直して理解を深めておくこと	4時間

11.	作業管理（給食のシステム）	新調理システムおよび調理作業工程表の作成方法について説明する。作業工程表作成課題を提示する。	各自で作成した献立の作業工程表を作成して提出すること	4時間
12.	給食業務における経営管理	給食の原価管理および経営分析法について説明する。終盤に小テストを実施する。	小テストを見直して理解を深めておくこと	4時間
13.	給食施設の種類と特徴	学校、病院、福祉施設などの給食施設の特徴について紹介する。	各給食施設の特徴を整理しておくこと	4時間
14.	大量調理における献立表・発注書・作業工程表の活用実際	各自が作成した献立表、発注書、作業工程表を実際に現場で使う場合の改善点について考える	献立表、発注書、作業工程表においてそれぞれの改善点をまとめること	4時間
15.	まとめ	最初に小テストを実施する。これまでの講義内容を振り返る。試験範囲の説明をする。小テストを見直して理解を深めておくこと	小テストを見直して理解を深めておくこと	4時間
16.				
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				
23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				

成績評価方法 (方針)	筆記試験(評価割合50%)、授業内で実施する小テスト(評価割合25%)、課題提出(評価割合25%)により総合的に成績評価を行う。筆記試験は翌週に解説を行う。小テストはGoogleフォームの送信後すぐに各自で結果(正誤)を確認することができる。献立表・発注書・作業工程表の課題はGoogleクラスルームより配信する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				50%
	授業内レポート				25%
	授業外レポート				25%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	大量調理を想定した献立、作業工程表、発注書の作成課題は、Googleクラスルームより配信し、提出された課題もGoogleクラスルーム内で返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席が無いと単位修得が出来ない。 ・課題を一つでも提出しない者は筆記試験を受けることができない。 ・この科目は給食運営実習(校外実習)の履修許可基準の一つであるため、3年次にこの科目が修得できなかった場合は、翌年に給食運営実習(校外実習)を履修することができない。 				
関連科目	給食運営実習 給食運営実習(校外実習)				
関連資格	栄養士免許				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	給食経営管理論	片山直美、原正美	株式会社みらい	2018	978-4-86015-464-6
	七訂大量調理施設衛生管理のポイント	中央法規出版	中央法規出版	2021	9784805883525
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特になし				
オフィス アワー	前期：水4時限 後期：月4時限				
GCR	tqplsey				
その他	岩田研究室：D棟2階				

感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
152110	E-TEA031J-01	教育方法論 B																					
科目名(英字)	Educational Methodology B																						
学科	子ども運動教育学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	荒井 龍弥 / 阿部 弘生			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	小学校、高等学校の教員経験、中学校長の実務経験を有する。																						
授業の概要	<p>教師が保育場を創造するために必要な知識・技能という観点から、子どもの学習が効果的に成立するための諸条件の操作を中心に、これまでの知見を紹介する。また、教育において情報通信技術を活用する意義や効果的方法ならびに情報活用能力育成のための指導法を紹介、検討する。これらを通じ、教育場面における指導スタイルの確立や改善技能の獲得を目指す。</p>																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	<p>これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な保育の方法や技術を身に付けるとともに、情報通信技術を効果的に活用した指導や校務推進の在り方、情報活用能力（情報モラルを含む）をに関する基礎的知識・技能を身に付ける。これらを通じ、保育者という立場から児童の反応や応答など、保育場面の展開を想定し計画できる。</p>																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>諸条件を工夫した自らの保育計画・環境構成を構想できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>保育者・指導者の立場から、授業や指導を検討し、自分なりの見解や疑問点を発見することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>指導言に着目した一連の教育支援計画・授業案を作成することができる。また、ICTを用いた指導や業務について多様な計画を具体的に作成することができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	諸条件を工夫した自らの保育計画・環境構成を構想できる。		情意的領域	保育者・指導者の立場から、授業や指導を検討し、自分なりの見解や疑問点を発見することができる。		技能表現的領域	指導言に着目した一連の教育支援計画・授業案を作成することができる。また、ICTを用いた指導や業務について多様な計画を具体的に作成することができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	諸条件を工夫した自らの保育計画・環境構成を構想できる。																					
	情意的領域	保育者・指導者の立場から、授業や指導を検討し、自分なりの見解や疑問点を発見することができる。																					
	技能表現的領域	指導言に着目した一連の教育支援計画・授業案を作成することができる。また、ICTを用いた指導や業務について多様な計画を具体的に作成することができる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>保育の質を左右する指導者側の各種条件を指摘できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>教員・指導者の立場と児童側の立場の違いが例示できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>環境構成をはじめとした保育場面にはさまざまなくふうの余地があることが理解できる。また、ICTを用いた保育業務の特徴や留意点を指摘することができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	保育の質を左右する指導者側の各種条件を指摘できる。		情意的領域	教員・指導者の立場と児童側の立場の違いが例示できる。		技能表現的領域	環境構成をはじめとした保育場面にはさまざまなくふうの余地があることが理解できる。また、ICTを用いた保育業務の特徴や留意点を指摘することができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	保育の質を左右する指導者側の各種条件を指摘できる。																					
	情意的領域	教員・指導者の立場と児童側の立場の違いが例示できる。																					
	技能表現的領域	環境構成をはじめとした保育場面にはさまざまなくふうの余地があることが理解できる。また、ICTを用いた保育業務の特徴や留意点を指摘することができる。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
保育のよしあしや展開を左右する諸条件を指摘し、その改善策を工夫し実施しようとする事ができる。	保育上の諸条件を工夫した自らの支援計画・環境構成を現実的に構想できる。	保育上の諸条件を工夫した自らの支援計画・環境構成を構想できる。	保育上の展開を左右する指導者側の各種条件による展開の変化を想定できる。	保育上の展開を左右する指導者側の各種条件を指摘できる。	保育上の展開を左右する指導者側の各種条件を指摘できない。
児童の学習を支援する側の論理や考え方を理解するとともに関心を持ち、自らもその視座に立ち考えることができる。	保育者の立場から、保育や指導を検討し、自分なりの見解や疑問点を発見し、改善案を作成することができる。	保育者の立場から、保育や指導を検討し、自分なりの見解や疑問点を発見することができる。	保育計画について、保育者と児童の動きを関連付けてみる事ができる。	保育者の立場と児童側の立場の違いが例示できる。	保育実践を行うJ保育者の準備や対応は、それを受ける児童側の考えとは全く違うことが理解できない。
指導言・環境構成といった場面を工夫することができる。また、その変化による生徒の反応の違いを予想することができる。	さまざまな指導言・環境構成を工夫した保育計画・指導案を作成することができる。	指導言や環境構成に着目した一連の保育計画・指導案を作成することができる。	個々の指導言・環境構成について、指導案等で自分なりに工夫ができる。	指導言・環境構成にはさまざまな余地があることが理解できる。	指導言・環境構成にはさまざまな余地があることを理解できない。
ICTを活用した指導や校務推進の在り方、情報活用能力（情報モラルを含む）に関する基礎知識・技能を身に付ける。	ICTを用いた指導や業務について実現可能な多様な計画を具体的に作成することができる。	ICTを用いた指導や業務について多様な計画を具体的に作成することができる。	ICTを用いた指導や業務の特徴や留意点を自らの指導場面に適用することができる。	ICTを用いた指導や業務の特徴や留意点を指摘することができる。	ICTを用いた指導や業務の特徴や留意点を指摘することができない。
ルーブリック					
授業計画（全体）	<p>保育者側として検討すべき観点に焦点をあて、説明、演習を行う。また、実践例からどのような情報が得られるのか、さらにそれらが教育研究上どのような問題として取りあげられていくのかについても説明を加える。これらをもとに保育者の立場から情報通信技術等もふまえた個々のスタイルの確立やの取り組みの改善向上を目指すべく援助していく。</p>				

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション 指導言その1 指示	授業を左右する諸要因のうち、指示について留意点を概説するとともに、自らも指示内容を作成検討してみる。		様々な場面で指示内容を検討改善していただくこと	4時間
2.	指導言その2 説明・発問	説明の種類とその効果、抽象度操作のためのキーワードなどについて紹介する。また特定の内容について説明を試みる。さらに発問の重要性について概説し、文言の違いにより生じる指導の流れの違いを考える。		身近な例で抽象度操作をして説明してみること・特定の内容での発問を自分なりに考えてみる	4時間
3.	板書の手法とノンバーバル・コミュニケーション	板書等の際の留意点について検討すると共に、保育者の立ち位置、巡回方法、視点等の影響について考える。		自分の参与している指導場面で教師の振る舞いを観察し、その理由を考えること	4時間
4.	教育方法の社会的形態の違いとアクティブ・ラーニングの必要性	一方的知識技能伝達による指導法の問題点と社会的形態面からみた各種教育方法について概説する。		身近な教材でアクティブ・ラーニングを促す発問を考えること	4時間
5.	情報機器の活用その1 授業で用いられるメディアの発展	教育場面で用いられる各種メディアとその変遷を紹介し、得失と使用上の留意点を中心に述べる。		自分なりに各種メディアの得失について検討すること。	4時間
6.	情報機器の活用その2 教材提示内容と情報量	情報通信機器を含めた各種メディアによる教材提示の特徴と選択の際の原則（属性記述と対象記述）について概説する		自ら操作することを通じ、各種メディアの特性を体感すること	4時間
7.	情報機器の活用その3 授業での活用例・映像教材の特性と活用	教育における映像教材の使用のメリットを考えると同時に、授業での活用例として自作映像やSTEAM教材等を紹介し、利用上の留意点を概説する。		紹介したライブラリーから任意の教材を視聴するとともに特定の内容で自作映像の内容や構成について考えてみる	4時間
8.	情報機器の活用その5 情報モラル 著作権	教育場面で著作権問題と、情報通信機器利用にあたっての対応について概説する		対面・リモート等各種ケースによる著作権の取り扱いを整理すること	4時間
9.	情報機器の活用その6 情報モラル 個人情報の保護・SNS等の問題	SNS等の問題および学校等教育施設における個人情報保護の必要性と、教師としての個人情報の取り扱いについて概説する		教師の立場で、個人情報保護の観点を整理しておくこと	4時間
10.	情報機器の活用その7 情報機器の校務利用	授業以外の校務にICTや情報機器を用いている事例を概説し、校務のDX（デジタルトランスフォーメーション）化による業務量削減の可能性を検討するとともに、関連アプリケーション（office系）の操作方法の確認を行う。		文書処理ソフトの機能や表計算ソフトの関数などについて復習し、活用できるようにしておくこと	4時間

11.	保育の環境構成	環境構成とは何かについて概説するとともに、保育場面での重要性について検討する。	自分が経験した保育場面での環境構成について検討してみること	4時間
12.	保育の環境構成とは何か	環境構成を検討する際に重要な子ども観・遊び観・保育観について具体的に検討し、その意義や効果について検討する。	自らの子ども観・遊び観・保育観について振り返りまとめておくこと	4時間
13.	環境構成の基本	保育要領や指針に示されている環境構成と現実比較的多く見られる保育場面との差異やその意義について検討する	保育要領や指針の環境構成についてまとめておくこと	4時間
14.	遊びと環境構成	保育者にとっての乳幼児期における遊びの捉え方について概説するとともに、互いにその重要性や意義について話し合う。	児童における遊びの意義についてまとめておくこと	4時間
15.	遊びと環境構成 2・まとめ	児童に対する環境構成の意義について確認するとともに、全体を通じ保育者・教育者として児童に向かい合う際の留意点について検討する。	さまざまな児童を想定し、自らが保育者となった際の環境構成について検討すること。	4時間
16.				
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				
23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				

成績評価方法 (方針)	相互の評価のために、授業内課題を用いる。これらの結果と、レポート試験、出席状況を材料として成績評定を行う。なお、出席状況は単位認定のための必要条件とする(欠席が多い場合には評価対象としない)。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験			○	40%
	授業内レポート	○	○	○	40%
	授業外レポート	○			20%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				加減点要素
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	各種課題に対しては授業内でコメントすることによりフィードバックを行う。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	保育者、教員、指導者など、学習援助者側の視座に立つことを求める。このため、講義で示したことがらについて、自分なりの例を探したり、「自分だったらこうする」など、自分の身に引き寄せて考察する作業をしてほしい。				
関連科目					
関連資格	幼稚園教諭・保育士				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	指定しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	授業に学び授業を創る教育心理学第二版	宇野忍編	中央法規	2002	4-8058-2170-1
オフィス アワー	前期 月曜 14:20-1550、後期 水曜 12:40-14:10 (荒井研究室 A棟309)				
GCR	wgtnew				
その他	自分のPC・タブレットを使う場合があります。この際、前週までには指示します。				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名			
551130	S-MED211J-01 、M-	スポーツ医学概論			
科目名(英字)	Introduction to Sports Medicine				
学科	体育学科、現代武道学科			学年	1年
学期	後期	授業形態	講義		単位数
					2
担当教員	橋本 実			開講の別	単独開講
実務経験の有無	医療現場での実務経験を有する				
授業の概要	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびドーピングを含むスポーツ医学に関する基礎知識を解説する				
DPとの関連性	I	II	III	IV	V
アクティブ・ラーニングについて	課題解決型学習(PBL)		反転学習	ディスカッション	
	ディベート		グループワーク	プレゼンテーション	
	実習		フィールドワーク		
授業の一般目標	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびドーピングを含むスポーツ医学に関する基礎知識を理解する				
授業の履修目標	対象	領域	内容		
		認知的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびドーピングを含むスポーツ医学に関する基礎知識を十分に理解する		
		情意的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびドーピングを含むスポーツ医学に関する基礎知識を活用するよう、十分に努力する		
		技能表現的領域			
授業の到達目標	対象	領域	内容		
		認知的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を理解する		
		情意的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を、活用するよう努力する		
		技能表現的領域			

評価項目	評価基準					
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない	
	秀	優	良	可	不可・放棄	
ルーブリック	知識の理解	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を十分に理解するだけでなく、自ら新たな知識の獲得に努めることができる。	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を十分に理解する	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識をある程度理解する	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を理解する	知識を理解しない
	知識の活用	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を活用するよう、十分に努力するだけでなく、自ら新たな活用に努めることができる。	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を活用するよう、十分に努力する	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を活用するよう、ある程度、努力する	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を、活用するよう努力する	知識を活用しない
授業計画（全体）	<p>授業は毎回講義動画を視聴し、理解を深める。また、講義ノート（教科書）に書き込みながら理解を深める。 授業の終わりに毎回小テストなどをおこない、知識を整理する。</p>					

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	授業の進め方などについて説明		当日配布するプリントを参照すること	4時間
2.	スポーツ医学の基礎	スポーツ医学の基本的なことについて説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
3.	ドーピング	ドーピングに関連する知識について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
4.	ドーピング	ドーピングに関連する防止策や実態について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
5.	呼吸器	スポーツに関連する呼吸器の知識について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
6.	循環器	スポーツに関連する循環器の知識について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
7.	遺伝	スポーツに関連する遺伝の知識について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
8.	前半の振り返りと試験	講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう		講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
9.	体液	スポーツに関連する体液の知識について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
10.	細胞	スポーツに関連する細胞の知識について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間

11.	免疫	スポーツに関連する免疫の知識について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
12.	赤血球	スポーツに関連する赤血球の知識について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
13.	高地トレーニングと貧血	高地トレーニングと貧血に関連する知識について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
14.	骨格筋	スポーツに関連する骨格筋の知識について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
15.	後半の振り返りと試験	講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう		講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	<p>単位認定には、全ての授業の受講が完了、試験に合格、提出を求められた課題を全て提出が必要条件。 各授業はICTツールの記録と小テストで履修状況を把握し、条件に満たない場合は欠席となるので、補講を受けること。 試験は60点以上を合格とする。試験では履修者本人が購入した講義ノートのみ、持ち込みを認める。 小テスト結果及びレポートはLMS上で運用する。 成績はルーブリックに照らし、総合的に判定する。</p>																																							
成績評価方法 (詳細)	<table border="1" data-bbox="308 333 1501 636"> <thead> <tr> <th>評価方法/到達目標</th> <th>認知的領域</th> <th>情意的領域</th> <th>技能表現的領域</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価対象外</td> </tr> <tr> <td>授業外レポート</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>演習・実技</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価対象外</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価対象外</td> </tr> <tr> <td>出席</td> <td colspan="4">欠格条件</td> </tr> </tbody> </table>					評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	定期試験				90%	授業内レポート				評価対象外	授業外レポート	○			10%	演習・実技				評価対象外	授業態度				評価対象外	出席	欠格条件			
評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)																																				
定期試験				90%																																				
授業内レポート				評価対象外																																				
授業外レポート	○			10%																																				
演習・実技				評価対象外																																				
授業態度				評価対象外																																				
出席	欠格条件																																							
レポートの実施・返却(方針)	レポートについては授業内で指示する。																																							
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<p>講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。 能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、自分のPCを用意し、学内メールアドレスを使用出来る事が必要条件となる。</p>																																							
関連科目																																								
関連資格																																								
教科書	<table border="1" data-bbox="308 1225 1501 1547"> <thead> <tr> <th>書名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スポーツ医学概論 講義ノート</td> <td>橋本実</td> <td>ポラーノ出版</td> <td>2024</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					書名	著者	出版社	出版年	ISBN	スポーツ医学概論 講義ノート	橋本実	ポラーノ出版	2024																										
書名	著者	出版社	出版年	ISBN																																				
スポーツ医学概論 講義ノート	橋本実	ポラーノ出版	2024																																					
参考書	<table border="1" data-bbox="308 1554 1501 1877"> <thead> <tr> <th>書名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特になし</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					書名	著者	出版社	出版年	ISBN	特になし																													
書名	著者	出版社	出版年	ISBN																																				
特になし																																								
オフィス アワー	教育企画課で確認して下さい																																							
GCR	r4joq6y																																							
その他																																								

感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
143100	H-MED211J-01	リハビリテーション論																					
科目名(英字)	Rehabilitation																						
学科	健康福祉学科			学年	1年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	笠原 岳人			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	理学療法士として医療機関での実務経験を有する																						
授業の概要	本講義は、リハビリテーション医学を基盤とし、基礎的な知識や技術に関する内容を講義を通して教授する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	わが国におけるリハビリテーション医学の知識や技術を理解し、基礎医学から臨床・保健・福祉などの分野における役割について理解することを目標とする。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>リハビリテーションに関係した基本的な知識や技術について説明</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>疾患別の対処法を理解し、医療や福祉の専門職として関わること</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	リハビリテーションに関係した基本的な知識や技術について説明		情意的領域	疾患別の対処法を理解し、医療や福祉の専門職として関わること		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	リハビリテーションに関係した基本的な知識や技術について説明																					
	情意的領域	疾患別の対処法を理解し、医療や福祉の専門職として関わること																					
	技能表現的領域																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>リハビリテーションに関係した基本的な知識や技術について説明</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>疾患別の対処法を理解し、医療や福祉の専門職として関わること</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	リハビリテーションに関係した基本的な知識や技術について説明		情意的領域	疾患別の対処法を理解し、医療や福祉の専門職として関わること		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	リハビリテーションに関係した基本的な知識や技術について説明																					
	情意的領域	疾患別の対処法を理解し、医療や福祉の専門職として関わること																					
	技能表現的領域																						

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
リハビリテーションに関する基本的な知識を理解している。	リハビリテーションに関する知識を十分に理解した上で、他人に説明することができる。	リハビリテーションに関する基礎的な知識を十分に理解している。	リハビリテーションに関する基礎的な知識をほぼ理解している。	リハビリテーションに関する最低限の基礎的な知識を理解している。	リハビリテーションに関する知識を理解していない。
リハビリテーションの関わりに関する事項についての理解している。	リハビリテーションの関わりについて十分に理解した上で、それぞれの内容の関係性について説明することができる。	リハビリテーションの関わりについて十分に理解することができる。	リハビリテーションの関わりについて基礎的事項を理解し、説明することができる。	リハビリテーションの関わりについてほぼ理解している。	リハビリテーションの関わりについて理解が不十分である。
積極的に授業に参加できる。	授業目標を意識して積極的に授業に参加し、主体的に学ぶことができる。	授業目標を意識して積極的に授業に参加することができる。	授業目標を意識してある程度、授業に参加することができる。	授業目標を意識して授業に参加することができる。	授業目標を意識して授業に参加できない。

ループリク

授業計画 (全体)

各授業、テーマに沿った資料を配布し進めていく。各講義の後半に小テストを行い、理解度・到達度を確認する。(配布された資料等をまとめるファイルを各自で用意すること)

授業計画 (各回のテーマ等)

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	授業の目標と進め方、シラバス、成績評価の方法について説明する		シラバスを熟読しておくこと	4
2.	リハビリテーション医療の歴史と発展	リハビリテーション医療の確立について説明する		リハビリテーションの語源について事前に調べてくること	4
3.	リハビリテーション医療の過程	専門職の視点からリハビリテーションの展開について説明する		リハビリテーション医療の現状と課題について事前に調べてくること	4
4.	リハビリテーション専門職との連携	リハビリテーション医療の専門職の種類と役割について説明する		リハビリテーション医療の専門職について事前に調べてくること	4
5.	人体の構造と機能	身体を構成する運動器(骨・関節・筋肉)について説明する		骨・関節・筋肉の名称と部位について事前に調べてくること	4
6.	運動障害 肢体不自由	身体機能の障害について説明する		身体機能の障害について事前に調べてくること	4
7.	運動機能 廃用症候群	廃用症候群の原因と特徴について説明する		身体活動が不活動で発生する変化について事前に調べてくること	4
8.	疾患別のリハビリテーション 骨・関節疾患	骨・関節疾患におけるリハビリテーションについて説明する		骨や関節の名称と部位について事前に調べてくること	4
9.	疾患別のリハビリテーション 脳血管障害	脳血管障害におけるリハビリテーションについて説明する		脳の機能と役割について事前に調べてくること	4
10.	疾患別のリハビリテーション 精神疾患	躁うつ病におけるリハビリテーションについて説明する		躁うつ病について事前に調べてくること	4

11.	疾患別のリハビリテーション	内部疾患	糖尿病におけるリハビリテーションについて説明する	糖尿病について事前に調べてくること	4
12.	リハビリテーションの展開	スポーツ障害	スポーツ障害におけるリハビリテーションについて説明する	スポーツ場面における障害の種類と特徴について事前に調べてくること	4
13.	リハビリテーションの展開の予防	生活習慣病	生活習慣病の予防におけるリハビリテーションについて説明する	生活習慣病の予防について事前に調べてくること	4
14.	リハビリテーションの展開	介護予防	介護予防におけるリハビリテーションについて説明する	介護予防について事前に調べてくること	4
15.	まとめ		運動障害・疾患別・展開に関するリハビリテーションのまとめを行う	講義内容の復習をしておくこと	4
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	成績評価は、定期試験（評価60%）と、授業内外レポート（評価40%）により、総合的に判断して成績評価を行う。なお、提出されたレポートは、授業内で解説しながら返却する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
	定期試験				60%
	授業内レポート				20%
	授業外レポート				20%
	演習・実技				
	授業態度				減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却（方針）	課したレポート課題のフィードバックは、講義の開始前に担当教員より、前週授業の復習を兼ねて解説を行う。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない学生は、単位を履修することができない ・授業態度が悪く、他の学生の授業を妨害する学生は退出させ、それ以降の講義への出席は認めない ・本シラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行い授業に参加すること 				
関連科目					
関連資格	・介護福祉士 ・福祉レクリエーションワーカー ・障害者スポーツ指導員 ・社会福祉主事任用				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	リハビリテーション論	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規	2007	978-4-8058-2831-1
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	リハビリテーション論	澤村誠志	メデカルフレンド社	1997	978-4-8392-3157-6
オフィス アワー	金曜日 14時20分～15時50分				
GCR	kkun5fu				
その他	tk-kasahara@sendai-u.ac.jp				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
153170	E-EEC032J-01	保育内容指導論																					
科目名(英字)	Childcare Content Instruction Theory																						
学科	子ども運動教育学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	演習		単位数																		
					2																		
担当教員	佐々木 和			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	幼保連携型認定こども園保育教諭、幼稚園型認定こども園教頭の教員経験を有する																						
授業の概要	<p>「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育指導要領」に基づき「環境を通しての教育」「遊びを通しての指導」などの方法的特質と、5領域の「ねらい及び内容」の関連について実践的に学び、指導計画を作成する能力を身につける。具体的に保育現場で行なわれている保育実戦ビデオを視聴したり、「ねらい」と「内容」そして「指導・援助方法」を理解した上で指導案を計画し、模擬保育を行ったりして、保育の振り返りを行うことで省察力や自己課題を明確にする力を身につける。</p>																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	<p>幼児教育において育ててみたい資質能力を理解し、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育指導要領」に示された5領域の「ねらい及び内容」について理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法を身につける。</p>																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>5領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解する。また、幼児の認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育内容の重要性を理解できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>幼児教育の基本、5領域のねらい及び主な内容並びに全体構造を理解し、模擬保育とその振り返りを通して、省察する志から及び保育を再構成する視点を身につけ説明することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育を行ない、振り返りを行なう事で省察力や自己課題を明確にする力を身につけ説明できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	5領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解する。また、幼児の認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育内容の重要性を理解できる。		情意的領域	幼児教育の基本、5領域のねらい及び主な内容並びに全体構造を理解し、模擬保育とその振り返りを通して、省察する志から及び保育を再構成する視点を身につけ説明することができる。		技能表現的領域	指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育を行ない、振り返りを行なう事で省察力や自己課題を明確にする力を身につけ説明できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	5領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解する。また、幼児の認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育内容の重要性を理解できる。																					
	情意的領域	幼児教育の基本、5領域のねらい及び主な内容並びに全体構造を理解し、模擬保育とその振り返りを通して、省察する志から及び保育を再構成する視点を身につけ説明することができる。																					
	技能表現的領域	指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育を行ない、振り返りを行なう事で省察力や自己課題を明確にする力を身につけ説明できる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>5領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解する。また、幼児の認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育内容の重要性を理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>幼児教育の基本、5領域のねらい及び主な内容並びに全体構造を理解し、模擬保育とその振り返りを通して、省察する志から及び保育を再構成する視点を身につけることができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育を行ない、振り返りを行なう事で省察力や自己課題を明確にする力を身につける。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	5領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解する。また、幼児の認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育内容の重要性を理解する。		情意的領域	幼児教育の基本、5領域のねらい及び主な内容並びに全体構造を理解し、模擬保育とその振り返りを通して、省察する志から及び保育を再構成する視点を身につけることができる。		技能表現的領域	指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育を行ない、振り返りを行なう事で省察力や自己課題を明確にする力を身につける。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	5領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解する。また、幼児の認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育内容の重要性を理解する。																					
	情意的領域	幼児教育の基本、5領域のねらい及び主な内容並びに全体構造を理解し、模擬保育とその振り返りを通して、省察する志から及び保育を再構成する視点を身につけることができる。																					
	技能表現的領域	指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育を行ない、振り返りを行なう事で省察力や自己課題を明確にする力を身につける。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
ルーブリック	5. 領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が身に付けていく内容や指導上の留意点や援助の仕方を理解する。また、幼児の認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育内容の重要性を理解する。	5. 領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容や指導上の留意点や援助の仕方を十分理解している。また、幼児の認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育内容の重要性についても十分理解出来ている。	5. 領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が身に付けていく内容や指導上の留意点や援助の仕方を理解している。また、幼児の認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育内容の重要性を理解出来ている。	5. 領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容や指導上の留意点や援助の仕方、幼児の認識、思考及び動きなどの保育内容の重要性を理解出来ている。	5. 領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容や指導上の留意点、援助の仕方が理解出来ていない。
	幼児教育の基本、5領域のねらい及び主な内容並びに全体構造を理解し、模擬保育とその振り返りを通して省察する力及び保育を再構成する視点を身につけることが出来る。	幼児教育の基本、5領域のねらい及び主な内容並びに全体構造を十分理解し、模擬保育とその振り返りを通して省察する力及び保育を再構成する視点を身につけることが出来る。	幼児教育の基本、5領域のねらい及び主な内容並びに全体構造を理解し、模擬保育とその振り返りを通して省察する力及び保育を再構成する視点を身につけることが出来る。	幼児教育の基本、5領域のねらい及び主な内容並びに全体構造を理解し、模擬保育とその振り返りを通して省察する力及び保育を再構成する視点を理解することが出来る。	幼児教育の基本、5領域のねらい及び主な内容並びに全体構造を理解出来ず、模擬保育の振り返りを通して省察したり保育を再構成する視点が出来ない。
	指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した上での指導案を作成し、模擬保育を実施し、振り返りを行ないながら、省察力や自己課題を明確にする力を身につける。	指導案の構造を十分理解し、具体的な保育を想定した上での指導案を作成し、模擬保育を実施し、振り返りを行ないながら、省察力や自己課題を明確にする力を身につける。	指導案の構造を十分理解し、具体的な保育を想定した上での指導案の作成が出来、模擬保育の重要性を理解しながら、省察力や自己課題を明確にする力を身につける。	指導案の構造を十分理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育を実施し、振り返りが必要事を理解しながら、省察力や自己課題を明確にする力を身につける。	指導案の構造の理解や、具体的な保育を想定した指導案の作成、模擬保育の実践、振り返りが出来ない。
授業計画（全体）	<p>保育現場で行なわれている保育実践ビデオを視聴したり、「ねらい及び内容」そひて「指導、援助方法」を理解し、指導案を計画作成し、模擬保育を通して、振り返りを行なう事で、省察力と自己課題を明確化する力を身につける。また、子育て支援、小学校や地域・保護者との連携、障がいのある子ども、発達障害の子どもへの保育等、様々な視点から保育を捉え、事例を基に学習を進めていく。</p>				

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	幼児教育・保育の基本	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み込む。		シラバスを事前に熟読し、内容を加する。	4時間
2.	各領域のねらい及び内容や指導上の留意点（健康）	幼児が経験し身に付けていく「健康」の領域の保育内容を深めていく。		「健康」領域を熟読しておくこと	4時間
3.	各領域のねらい及び内容や指導上の留意点（人間関係）	幼児が経験し身に付けていく「人間関係」の領域の保育内容を深めていく。		「人間関係」領域を熟読しておくこと	4時間
4.	各領域のねらい及び内容や指導上の留意点（環境）	幼児が経験し身に付けていく「環境」の領域の保育内容を深めていく。		「環境」領域を熟読しておくこと	4時間
5.	各領域のねらい及び内容や指導上の留意点（言葉）	幼児が経験し身に付けていく「言葉」の領域の保育内容を深めていく。		「言葉」領域を熟読しておくこと	4時間
6.	各領域のねらい及び内容や指導上の留意点（表現）	幼児が経験し身に付けていく「表現」の領域の保育内容を深めていく。		「表現」領域を熟読しておくこと	4時間
7.	「育ててみたい資質・能力」の3つの柱の理解	3つの柱を理解し、園生活の様々な場面や活動について実際の保育実践事例などを通して子どもの育ちも深めていく。		保育内容5領域を復習しておくこと	4時間
8.	「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」各領域との関連（健康・人間関係）	「健康」「人間関係」との関係の深い「10の姿」を取り上げ、幼児の発達を理解するために必要な保育者の視点について事例を基に考える。		「健康」「人間関係」を復習しておくこと	4時間
9.	「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」各領域との関連（環境・言葉・表現）	「環境」「言葉」「表現」との関係の深い「10の姿」を取り上げ、幼児の発達を理解するために必要な保育者の視点について事例を基に考える。		「環境」「言葉」「表現」を復習しておくこと	4時間
10.	模擬保育「指導案の構造理解」「指導計画づくり」	5領域に分かれて「指導計画案」を作成する。		「指導案」を復習しておくこと	4時間

11.	模擬保育の実施(1)「教材」の効果的活用	保育者役、子ども役になり、模擬保育の実践発表を行なう。終了後は「保育者の視点」「子どもの視点」からの振り返りを行なう。	「教材研究」を復習しておくこと	4時間
12.	模擬保育の実施(2)ICT活用の「振り返り」	保育者役、子ども役になり、模擬保育をおこなう。終了後は「保育者の視点」「子どもの視点」からの振り返りを行なう。ICTを活用し、視覚化する。	「振り返り」内容について復習しておくこと	4時間
13.	模擬保育の実施(3)全体協議での「振り返り」	保育者役、子ども役になり、模擬保育をおこなう。終了後は「保育者の視点」「子どもの視点」からの振り返りを行なう。省察、環境の再構成等について深める。	「振り返り」内容について復習しておくこと	4時間
14.	小学校の教科とのつながりの理解	「教科学習」の理解と学校教育の実践映像や事例を通して、保育を考える。	「教科」と「領域」の違いについて調べておくこと	4時間
15.	保育実践の動向と保育構造の理解とまとめ	まとめとして、保育内容のねらい及び内容について、幼児の発達に応じた保育を再構成する方法や、課題の明確化について学ぶ。	「保育内容」「指導方法」「援助の仕方」「環境の再構成」について復習しておくこと	4時間
16.				
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				
23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				

成績評価方法 (方針)	・授業内の受講態度、授業内レポート、グループディスカッションでの意見発表、態度、意欲等を加味して、評価する。模擬保育は、全員実践すること。・欠席は原則として、3分の1以上は評価対象外とする。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート	○	○		30%
	授業外レポート				
	演習・実技				50%
	授業態度	○			20%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは、授業内で説明をしながら返却をする場合と、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	・保育士、幼稚園教諭、保育教諭を目指すものとして、常に課題意識を持ち、自発的に受講すること。・自分の意見を発表したり、他者の意見を受け入れたりして、活発に討論に参加すること。・提出物、レポート提出等に関しては、期限を厳守すること。				
関連科目	保育内容演習「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」、保育実習指導、保育実習				
関連資格	幼稚園教諭一種免許状、保育士資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	保育内容の指導法		ミネルヴァ書房	2018	
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	幼稚園教育要領解説		文部科学省	2018	
	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説		内閣府 文部科学省 厚生労働省	2018	
	保育所保育指針解説		厚生労働省	2018	
オフィス アワー	水曜日 11:50～12:40				
GCR	evucnle				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
553050	I-SMM321J-01	ジャーナリズム理論																					
科目名(英字)	Journalism Theory																						
学科	ｽﾎｰﾂ情報ｽｽﾒﾃﾞｻﾞ学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	日下 三男 / 齋藤 長行			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	新聞社での実務経験を有する																						
授業の概要	ジャーナリズムとメディアの理論概念について歴史を踏まえて解説する。新聞、放送、インターネットが発するニュースの核心・特徴とは何か。これらの情報は何を目的としているのか。社会との関係性を考えながら説く。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	マスメディアとジャーナリズム研究の基本概念とは何かを知り、そのほかにコミュニケーション理論、ジャーナリズムの倫理観などについても修得する。メディアを批判的な視点から思考する能力を身に付ける。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>ニュースを見たり読んだりして理解し、問題の「核心」を人に説明する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>ニュースを系統だてて整理し考える</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>社会の諸問題に触れ、原因や背景などについて自ら調べる</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	ニュースを見たり読んだりして理解し、問題の「核心」を人に説明する		情意的領域	ニュースを系統だてて整理し考える		技能表現的領域	社会の諸問題に触れ、原因や背景などについて自ら調べる						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	ニュースを見たり読んだりして理解し、問題の「核心」を人に説明する																					
	情意的領域	ニュースを系統だてて整理し考える																					
	技能表現的領域	社会の諸問題に触れ、原因や背景などについて自ら調べる																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>マスメディアとジャーナリズムの基本概念と理論について説明できる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>マスメディアとジャーナリズムといった社会的営為に対して興味と関心を持つようになる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>積極的にニュースに触れ、社会にコミュニケーションする</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	マスメディアとジャーナリズムの基本概念と理論について説明できる		情意的領域	マスメディアとジャーナリズムといった社会的営為に対して興味と関心を持つようになる		技能表現的領域	積極的にニュースに触れ、社会にコミュニケーションする						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	マスメディアとジャーナリズムの基本概念と理論について説明できる																					
	情意的領域	マスメディアとジャーナリズムといった社会的営為に対して興味と関心を持つようになる																					
	技能表現的領域	積極的にニュースに触れ、社会にコミュニケーションする																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
ニュースの核心	ニュースに接して社会的意味として「核心」を分かりやすく解説できる	ニュースの核心を十分に理解できる	ニュースの核心を大体は理解できる	ニュースの核心を理解できる	ニュースの核心を理解できない
ニュースの系統だてた整理	日々のニュースを系統だてて十分に整理できる	ニュースの系統だてた整理が大体はできる	ニュースの系統だてた整理がある程度はできる	ニュースの系統だてた整理が一部はできる	ニュースの系統だてた整理ができない
ニュースの原因追究	ニュースの原因・背景に思いを巡らし、未来に役立てることができる	ニュースの原因・背景に思いを巡らし、ある程度は未来に役立てられる	ニュースの原因・背景に思いを巡らすことはできるものの、未来に役立てるまでには至っていない	ニュースの原因・背景に思いを巡らすレベルで終わり、未来を考えられていない	ニュースの原因・背景に思いを巡らすことも、未来に役立てることも考えられない

ルーブリック

授業計画（全体）	<p>講義形式で進める。授業ごとに課題と感想文を授業内レポートとして提出させながら、理解度を確認する。また、オープンな形で履修生との意見交換と議論の時間も設け、授業各回のテーマを深く掘り下げる。</p>
----------	---

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション（日下）	担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスと成績評価の仕方を説明する。		シラバスを事前に読んでおく。	4 時間
2.	ジャーナリズムは戦争を防げるか（日下）	ナショナリズムとジャーナリズムの関係性を説く。「9条」の言説を考える。		「戦争」「新聞」「憲法」の関連性を調べる。	4 時間
3.	権力監視こそジャーナリズムの責任である（日下）	調査報道による権力監視はどこまで可能か。権力との距離感を探る。		優れた調査報道を調べておく。授業後は人権思想とは何かを予習。	4 時間
4.	ジャーナリズムと人権思想（日下）	犯罪報道と人権を主題に、匿名報道、勧善懲悪、正義感などを考える。		報道被害の実例を調べる。授業後は世論調査の実態を予習。	4 時間
5.	世論を問う（日下）	「世論を作る」「世論を操る」「世論に溺れる」「キャンペーン」の危険性とは何かを解説する。		「世論調査」「アンケート」の意味を調べる。	4 時間
6.	記者クラブ制度は善か悪か（日下）	記者クラブの実態把握と共に、是非論を講義し討議する。		記者クラブの是非論を調べておく。	4 時間
7.	メディア不信とは何か（日下）	「フェイク」が一歩歩き、劣化する既存メディアへの信頼性が損なわれている。危機に瀕するジャーナリズムの現状を解説する。		フェイクチェックの実態を探る。「事実確認」との違いを調べておく。	4 時間
8.	メディア・コミュニケーション理論から諸問題とその対処法を考える（齋藤）	文化帝国主義、陰謀論、皮下注射モデル、プロパガンダ、社会の分断。		メディア・リテラシーの実践事例を調べる。	4 時間
9.	メディア・コミュニケーションの今日的諸課題とその対処法を考える（齋藤）	ヘイトスピーチ、フェイクニュース、フィルターバブル、エコーチェンバー、認知バイアス、サイバースカッド、ネットイナゴ。		ニュースの活用法を考える。	4 時間
10.	雑誌ジャーナリズムの現状（日下）	「田中角栄研究」「疑惑の銃弾」から「文春砲」に至るまでの経緯と課題を説明する。		「文藝春秋」「週刊文春」を調べる。	4 時間

11.	メディアリテラシーを考える(日下)	メディアリテラシーも今後の行方と効果を探る。		N I E にみるメディアリテラシーの実態を調べる。	4 時間
12.	グローバルとローカル(日下)	東京紙と地方紙、世界と地域をジャーナリズムはどう捉えるか?		一般紙の論調の違いを理解する。	4 時間
13.	客観報道と署名記事(日下)	客観報道の歴史を踏まえ、署名記事の役割とは? 一方で無署名の社説・1面コラムはどうあるべきなのかを説く。		署名記事と発表ジャーナリズムの異なる点を調べる。	4 時間
14.	新聞はこんなにも違う(日下)	記事について、各紙の論調をグループごとにディスカッションする。		新聞を読み込んでくる。	4 時間
15.	民主主義の未来とジャーナリズム(日下)	ネットを含めた情報の氾濫のなかでメディアの「この先」を予測する。		ネットジャーナリズムの将来性を考えておく。テストに備える。	4 時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	期末試験(80%)、授業内レポート(20%)。レポート等は提出の翌週に授業内で解説しながら返却する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験	○	○		80%
	授業内レポート	○	○		20%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポート実施する場合は、授業内で指示をします。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	・私語厳禁				
関連科目	メディア関係科目				
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	生き抜くためのメディア読解	小林真大	笠間書院	2021	
	ニュースは生き残るか	文化研究所編	一藝社	2018	
	ジャーナリズムは甦るか	池上彰ほか	慶応義塾大学出版会	2015	
	ジャーナリズムの可能性	原寿雄	岩波書店	2009	
	ジャーナリズムの思想	原寿雄	岩波書店	1997	
オフィス アワー	日下(研究室5体3F) = 木曜10:20~11:50				
GCR	6say2uv				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
111070	S-PHY221J-01	運動生理学																					
科目名(英字)	Exercise Physiology																						
学科	体育学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	内丸 仁			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	スポーツ医科学・健康増進の関連研究機関およびスポーツ医科学サポート現場での実務経験を有する																						
授業の概要	運動生理学では、スポーツ医科学・健康増進の関連研究機関での取り組みや成果、およびトップアスリートのスポーツ医科学サポート現場での実際などの事例を挙げながら、生理学や解剖学を基礎として、活動（運動時）状態における人体の働きについて、生理学的な機能あるいは構造学的変化について体系的に講義を行う。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	運動時の筋・神経・呼吸・循環系の生理学的な機能および働きあるいは構造学的変化について学ぶ。また、競技力向上のためのトレーニング、ウォームアップおよびクールダウンの重要性、疲労、健康に及ぼす運動の効果についても理解する。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>活動（運動時）の人体の生理学的な応答・適応について理解する。運動・トレーニングの生理学的効果について理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>授業に欠かさず出席する。実際の活動（運動・トレーニング）において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解して取り組むことができるようになる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	活動（運動時）の人体の生理学的な応答・適応について理解する。運動・トレーニングの生理学的効果について理解する。		情意的領域	授業に欠かさず出席する。実際の活動（運動・トレーニング）において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解して取り組むことができるようになる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	活動（運動時）の人体の生理学的な応答・適応について理解する。運動・トレーニングの生理学的効果について理解する。																					
	情意的領域	授業に欠かさず出席する。実際の活動（運動・トレーニング）において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解して取り組むことができるようになる。																					
	技能表現的領域																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>活動（運動時）の人体の生理学的な応答・適応について理解する。運動・トレーニングの生理学的効果について理解し、説明することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>授業に欠かさず出席する。実際の活動（運動・トレーニング）において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解して取り組むことができ、説明することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	活動（運動時）の人体の生理学的な応答・適応について理解する。運動・トレーニングの生理学的効果について理解し、説明することができる。		情意的領域	授業に欠かさず出席する。実際の活動（運動・トレーニング）において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解して取り組むことができ、説明することができる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	活動（運動時）の人体の生理学的な応答・適応について理解する。運動・トレーニングの生理学的効果について理解し、説明することができる。																					
	情意的領域	授業に欠かさず出席する。実際の活動（運動・トレーニング）において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解して取り組むことができ、説明することができる。																					
	技能表現的領域																						

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
活動（運動時）の人体の生理学的な応答・適応について理解する。運動・トレーニングの生理学的効果についての理解	活動（運動時）の人体の生理学的な応答・適応や運動・トレーニングの生理学的効果について十分に理解している	活動（運動時）の人体の生理学的な応答・適応や運動・トレーニングの生理学的効果について十分に理解している	活動（運動時）の人体の生理学的な応答・適応や運動・トレーニングの生理学的効果については理解している	最低限の活動（運動時）の人体の生理学的な応答・適応や運動・トレーニングの生理学的効果について理解している	活動（運動時）の人体の生理学的な応答・適応や運動・トレーニングの生理学的効果について理解していない
実際の活動（運動・トレーニング）において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解	非常の高いレベルで実際の活動（運動・トレーニング）において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解している	高いレベルで実際の活動（運動・トレーニング）において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解している	実際の活動（運動・トレーニング）において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解している	最低限の実際の活動（運動・トレーニング）において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解している	実際の活動（運動・トレーニング）において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解していない
積極的に授業に参加できる。	授業目標を意識して積極的に授業に参加し、主体的に学ぶことができる	授業目標を意識して積極的に授業に参加することができる	授業目標を意識してある程度、授業に参加することができる	授業目標を意識して授業に参加することができる	授業目標を意識して授業に参加できない
授業計画（全体）	<p>各回の授業テーマについて、PowerPointを用いた講義が中心となる。また、各授業毎に振り返り課題やクイズを実施し、理解を深める。</p> <p>今年度は、大学の新型コロナウイルスに関するガイドラインに準拠し、感染の流行拡大の予防に注意を払い、対面授業あるいは大学の指定するGoogle class roomを通してのオンライン授業を行う。なお、大学の指定するGoogle class roomを通しての資料掲載および連絡事項等を行う。</p>				

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライ	授業外学修	時間数
1.	運動生理学とは？	運動生理学の授業の進め方と生理学、運動生理学についての説明		シラバスをよく読んでおくこと	4
2.	運動と骨格筋	筋の分類と運動を起こす骨格筋の微細構造、筋収縮のメカニズムについて説明する		テキストの該当する項目をよく読んでおくこと	4
3.	運動と骨格筋	筋収縮におけるATPの役割と無酸素的および有酸素的エネルギー供給機構と筋線維組成について説明する		テキストの該当する項目をよく読んでおくこと	4
4.	運動と骨格筋	筋力発揮特性について説明する。骨格筋の適応と変化、筋力トレーニングの効果について説明する。		テキストの該当する項目をよく読んでおくこと	4
5.	運動と神経	神経の名称と働き、および運動に関連する神経機構、運動単位および反応と反射について説明する		テキストの該当する項目をよく読んでおくこと	4
6.	運動と神経	脳の働きと運動、および神経系のトレーニングの効果について説明する		テキストの該当する項目をよく読んでおくこと	4
7.	運動と内分泌系とストレス	運動時に生体内で分泌されるホルモンの名称と働き、運動によるストレスの変化やトレーニングによるストレスへの適応について説明する		テキストの該当する項目をよく読んでおくこと	4
8.	運動と呼吸循環	運動時の呼吸の調整と肺換気メカニクス、ガス交換および無酸素性作業閾値について説明する		テキストの該当する項目をよく読んでおくこと	4
9.	運動と呼吸循環	心臓および血管の循環系による血液運搬、運動時の血圧の変化、および運動や姿勢変化による循環系への影響について説明する。		テキストの該当する項目をよく読んでおくこと	4
10.	運動と呼吸循環	運動における呼吸循環応答、酸素摂取量、酸素借および酸素負債について説明する		テキストの該当する項目をよく読んでおくこと	4

11.	運動と呼吸循環	運動トレーニングにおける呼吸循環系の適応について説明する	テキストの該当する項目をよく読んでおくこと	4
12.	運動と免疫	運動における呼吸循環応答、酸素摂取量、酸素借および酸素負債について説明する	テキストの該当する項目をよく読んでおくこと	4
13.	運動と外部（高温、高地、水中他）環境と水分摂取・体温調節	暑熱、寒冷、高地、水中といった異なる環境下での運動時の生理学的な応答について体温調節や水分摂取について説明する	テキストの該当する項目をよく読んでおくこと	4
14.	運動と体力・トレーニング	体力の定義とスポーツ選手を中心としたの体力特性、体力維持・増進のためのトレーニング、ウォームアップとクールダウンについて説明する	テキストの該当する項目をよく読んでおくこと	4
15.	運動と健康および加齢	健康に及ぼす運動の効果、加齢に伴う健康の問題点やその予防方法としての運動について説明する	テキストの該当する項目をよく読んでおくこと	4
16.				
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				
23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				

成績評価方法 (方針)	筆記テスト(持込不可)を1回実施する(評価割合70%)。また、振り返り課題や小テストと出席状況や授業態度(評価割合30%、減点あり)を含めた成績評価を行う。なお、授業態度が授業進行上において悪いと判断した場合には減点の対象とする。出席が2/3(10回)未満の学生は失格条件となる。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				60%
	授業内レポート				30%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)					
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。 ・教科書とノートを必ず用意して受講すること。 ・講義中に私語などで他の学生の迷惑になる、あるいは授業に支障をきたすと判断した場合には退出してもらう。授業中の私語や携帯電話の使用は厳禁とする(減点あり)。 ・予習・復習を行うこと。 ・授業計画は授業の進行状況により多少前後および内容を変更することがある。 				
関連科目	スポーツ生理学、スポーツ医学A、スポーツ医学B、解剖・生理学、体力相談と運動処方、スポーツトレーナーコース関連科目 他				
関連資格	中学校・高等学校教諭一種普通免許状(保健体育)、健康運動指導士、CSCS、JPSUスポーツトレーナー 他				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	スポーツ指導者に必要な生理学と運動生理学の知識 改訂2版	村岡功編著	市村出版	2023年	978-4-902109-64-1
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	運動生理学	石河利寛、杉浦正輝共著	建帛社	1989年	978-4-7679-1829-7
	運動生理学 生理学の基礎から疾病予防まで	小山勝弘、安藤大輔編著	三共出版	2013年	978-4-7827-0687-9
オフィス アワー	月曜日 16:00-17:00				
GCR	tftkdhj				
その他	特になし				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
112140	N-F0D221J-01	食品学（含食品加工学）																					
科目名(英字)	Food Science																						
学科	スポーツ栄養学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	早川 公康			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	管理栄養士、公認スポーツ栄養士、NR・SA、食品保健指導士、食育指導士、衛生検査員の実務経験を有する																						
授業の概要	食の意味、食品加工の歴史および食品の構成成分について解説する。さらに、調理、加工および保蔵中の食品成分の変化や、食品成分と人の健康についても解説する。他者の意見からも学び合いながら専門性の理解を深めるために、適宜、ディスカッションも行う。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	食の意味、食品加工の歴史および食品の構成成分について理解する。さらに、調理、加工および保蔵中の食品成分の変化や、食品成分と人の健康についても理解する。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>食品に関する基本的な科学理論を十分に説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>食品に関する問題の解決に向けた見解をもてる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	食品に関する基本的な科学理論を十分に説明できる。		情意的領域	食品に関する問題の解決に向けた見解をもてる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	食品に関する基本的な科学理論を十分に説明できる。																					
	情意的領域	食品に関する問題の解決に向けた見解をもてる。																					
	技能表現的領域																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>食品に関する基本的な科学理論を最低限説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>食品に関する問題の解決に向けた最低限の見解をもてる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	食品に関する基本的な科学理論を最低限説明できる。		情意的領域	食品に関する問題の解決に向けた最低限の見解をもてる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	食品に関する基本的な科学理論を最低限説明できる。																					
	情意的領域	食品に関する問題の解決に向けた最低限の見解をもてる。																					
	技能表現的領域																						

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
食品に関する基本的な科学理論を説明できる。	食品に関する基本的な科学理論を十分に体系的な説明できる。	食品に関する基本的な科学理論を十分に説明できる。	食品に関する基本的な科学理論をある程度説明できるが、十分ではない。	食品に関する基本的な科学理論を最低限説明できる。	食品に関する基本的な科学理論を説明できない。
食品に関する問題の解決に向けた見解をもてる。	食品に関する問題の解決に向けた正しい見解をもてる。	食品に関する問題の解決に向けた見解をもてる。	食品に関する問題の解決に向けて、ある程度考えることができる。	食品に関する問題の解決に向けた最低限の見解をもてる。	食品に関する問題の解決に向けて、考えることができない。
ルーブリック 全体					
授業計画（全体）	<p>食の意味、食品加工の歴史および食品の構成成分について解説する。さらに、調理、加工および保蔵中の食品成分の変化や、食品成分と人の健康について解説する。管理栄養士、公認スポーツ栄養士、NR・サプリメントアドバイザー、食品保健指導士、食育指導士、衛生検査員、防災士等の実務経験をふまえて講義する。状況に応じてICT等を活用する。</p>				

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション（早川）	教員の紹介、授業予定・概要について説明する		オリエンテーションの内容を振り返る	4時間
2.	食品とは（早川）	食の意味、食品の定義について解説する		食の意味、食品の定義に関する資料を見直す	4時間
3.	食品の三つの機能（早川）	食品の栄養機能・嗜好機能・生理機能について解説する		食品の三つの機能に関する資料を見直す	4時間
4.	食品の特殊成分と物性（早川）	色素成分、呈味成分、香り成分、食品の特性について解説する		食品の特殊成分と物性に関する資料を見直す	4時間
5.	農産食品（早川）	米・麦等の穀類について解説する		米・麦等の穀類に関する資料を見直す	4時間
6.	豆類（早川）	豆類について解説する		豆類に関する資料を見直す	4時間
7.	野菜類・果物類（早川）	野菜類・果物類について解説する		野菜類・果物類に関する資料を見直す	4時間
8.	食肉類（含む加工品）（早川）	食肉類（含む加工品）について解説する		食肉類（含む加工品）に関する資料を見直す	4時間
9.	魚介類（含む加工品）（早川）	魚介類（含む加工品）について解説する		魚介類（含む加工品）に関する資料を見直す	4時間
10.	乳類（含む乳製品）・卵類（早川）	乳類（含む乳製品）・卵類について解説する		乳類（含む乳製品）・卵類に関する資料を見直す	4時間

11.	キノコ類・海藻類・嗜好飲料(茶類)(早川)	キノコ類・海藻類・嗜好飲料(茶類)について解説する	キノコ類・海藻類・嗜好飲料(茶類)に関する資料を見直す	4時間
12.	油脂類・発酵食品(早川)	油脂類・発酵食品について解説する	油脂類・発酵食品に関する資料を見直す	4時間
13.	サプリメント・健康食品(早川)	サプリメント・健康食品の定義について解説する	サプリメント・健康食品に関する資料を見直す	4時間
14.	サプリメント・健康食品(早川)	サプリメント・健康食品の正しい考え方について解説する	サプリメント・健康食品に関する資料を見直す	4時間
15.	総まとめ	全授業内容を振り返り、要点を確認する	全授業内容を振り返り、要点を見直す	4時間
16.				
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				
23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				

成績評価方法 (方針)	原則毎回の授業の終わりに実施する確認テスト(小テスト)、定期試験、授業出席日数、受講態度、レポート等を総合的に評価する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				70%
	授業内レポート				20%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				10%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは必要に応じて(授業内で)解説をしながら返却する				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・遅刻2回は欠席1回とみなす。 ・授業計画は、状況に応じて、多少変更することがある。 				
関連科目	食品衛生学 食品学実験 食品学実習 食品学演習				
関連資格	栄養士免許等				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	スタンダード食品学	五明紀春	アイケイコーポレーション		978-4-87492-317-7
	スポーツ・健康のための食事・サプリメント学	早川公康	現代図書	2020年3月	978-4-434-26989-9
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	トップアスリートの指導者に学ぶ	阿部肇、早川公康	現代図書	2021年4月	978-4-434-28778-7
オフィス アワー	月曜14:30~16:00				
GCR	wzkxeuo				
その他	早川公康研究室(F206)				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
122080	H-CAW211J-01	介護概論																					
科目名(英字)	Introduction to Nursing Care																						
学科	健康福祉学科			学年	1年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	大山 さく子			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	介護現場（施設・在宅現場）での実務経験を有する																						
授業の概要	介護福祉士を取り巻く状況や背景について、介護の歴史を通して理解し、介護福祉士の社会的役割や利用者の主体性や自立支援の重要性について解説する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、その人らしさを学び、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深める。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>介護の歴史や関連法規を理解し、介護の意義と役割、専門性についての基礎的事項を理解している。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>介護福祉に対する関心を持ち、介護に向けた課題に意欲的に取り組むことが出来るようになる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>介護福祉に対する関心と介護に向けた課題に意欲的に取り組み、課題解決できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	介護の歴史や関連法規を理解し、介護の意義と役割、専門性についての基礎的事項を理解している。		情意的領域	介護福祉に対する関心を持ち、介護に向けた課題に意欲的に取り組むことが出来るようになる。		技能表現的領域	介護福祉に対する関心と介護に向けた課題に意欲的に取り組み、課題解決できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	介護の歴史や関連法規を理解し、介護の意義と役割、専門性についての基礎的事項を理解している。																					
	情意的領域	介護福祉に対する関心を持ち、介護に向けた課題に意欲的に取り組むことが出来るようになる。																					
	技能表現的領域	介護福祉に対する関心と介護に向けた課題に意欲的に取り組み、課題解決できる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>介護の歴史や関連法規を理解し、介護の意義と役割、専門性についての基礎的事項を理解し、説明することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>介護福祉に対する関心を持ち、介護に向けた課題に意欲的に取り組むことが出来、説明することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>介護福祉に対する関心と課題に意欲的に取り組み、課題解決について考察し、自分の意見を述べる事ができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	介護の歴史や関連法規を理解し、介護の意義と役割、専門性についての基礎的事項を理解し、説明することができる。		情意的領域	介護福祉に対する関心を持ち、介護に向けた課題に意欲的に取り組むことが出来、説明することができる。		技能表現的領域	介護福祉に対する関心と課題に意欲的に取り組み、課題解決について考察し、自分の意見を述べる事ができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	介護の歴史や関連法規を理解し、介護の意義と役割、専門性についての基礎的事項を理解し、説明することができる。																					
	情意的領域	介護福祉に対する関心を持ち、介護に向けた課題に意欲的に取り組むことが出来、説明することができる。																					
	技能表現的領域	介護福祉に対する関心と課題に意欲的に取り組み、課題解決について考察し、自分の意見を述べる事ができる。																					

評価項目	評価基準					
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない	
	秀	優	良	可	不可・放棄	
ルーブリック	介護の歴史や関連法規を理解し、介護の意義と役割、専門性について	介護の歴史や関連法規が説明できる。また、介護の意義と役割を十分に理解した上で、その専門性について説明することができる。	介護の成り立ちや介護福祉の基本理念および関連法規を理解した上で、介護福祉の役割と機能について説明できる。	介護の成り立ちや介護福祉の基本理念および関連法規は理解し、説明可能である。	介護の成り立ちや介護福祉の基本理念、関連法規をほぼ理解している。	介護の成り立ちや介護福祉の基本理念、関連法規が身に付いていない
	介護福祉に対する関心を持ち、介護に向けた課題についての理解	介護福祉に対する関心を持ち、介護に向けた課題に意欲的に取り組み、課題を十分に理解した上で、実践上の課題について述べる事が出来る。	介護福祉に対する関心を持ち、介護に向けた課題意欲的に取り組むことができ、十分に説明することができる。	介護福祉に対する関心を持ち、介護に向けた課題に取り組むことができ、説明可能である。	介護福祉に対する関心を持ち、介護に向けた課題をほぼ理解している。	介護福祉に対する関心や介護についての課題への理解が不足している。
	介護福祉に対する関心と課題に意欲的に取り組み、課題解決についての考察	介護福祉に対する関心を持ち、介護に向けた課題に意欲的に取り組むことができ、課題を十分に理解した上で、実践上の課題についても考察し、論ずることが出来る。	介護福祉に対する関心を持ち、介護に向けた課題に意欲的に取り組むことができ、課題を十分に理解し、課題について自分の意見を述べることができる。	介護福祉に対する関心を持ち、介護に向けた課題に意欲的に取り組むことができ、課題解決の説明が可能である。	介護福祉に対する関心を持ち、介護に向けた課題に意欲的に取り組むことができ、課題解決の方法をほぼ理解している。	介護福祉に対する関心や課題について、意欲的に取り組むことができず、理解が不足している。
授業計画（全体）	各授業テーマに沿い教科書および資料を用いた講義を展開するが、介護をより身近に、そして理解を深めるため事例を用いながら進める。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。介護職としての実務経験や資格を活かし、知識、実践に基づき講義を行う。					

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法		シラバスを熟読し、教科書の目次をチェックすること	4 時間
2.	人間と生活の理解 1	生活の考え方と私たちの生活の理解について説明する		‘人間’と‘生活’について、その本質を復習しておくこと	4 時間
3.	人間と生活の理解2	生活の個性・多様性、複雑性について説明する		教科書を復習すること	4 時間
4.	介護福祉士を取り巻く状況 1	わが国の介護の歴史について説明する		資料を基に復習しておくこと	4 時間
5.	介護福祉士を取り巻く状況 2	介護問題の背景と介護の社会化、介護保険制度について説明する		教科書や資料を基に復習しておくこと	4 時間
6.	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ 1	社会福祉士及び介護福祉士法の目的と概要を説明、また、倫理規定について説明する		社会福祉士及び介護福祉士法の誕生と目的、概要を発表できる	4 時間
7.	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ2	専門職能団体の活動と役割、機能を説明する		介護福祉士の担う社会的役割と機能について説明できる	4 時間
8.	介護福祉士の倫理	介護実践における専門職としての倫理と日本介護福祉士会倫理綱領について説明する		教科書を復習しておくこと	4 時間
9.	介護を必要とする人の理解 1	人間の多様性・複雑性について説明する		資料を基に復習しておくこと	4 時間
10.	介護を必要とする人の理解 2	さまざまな高齢者の暮らしや介護が必要になった事例を紹介する		高齢者の暮らしを理解しておくこと	4 時間

11.	介護を必要とする人の理解 3	さまざまな障害者の暮らしと生活ニーズについて説明する		障害者の暮らしを理解しておくこと	4 時間
12.	介護を必要とする人の理解 4	介護を必要とする人の生活環境とその人らしさについて説明する		資料を基に復習しておくこと	4 時間
13.	自立に向けた介護	自立の意味、重要性について説明する		資料を基に復習しておくこと	4 時間
14.	生活支援としての介護	さまざまな生活支援とその意義について説明する		教科書や資料を基に復習しておくこと	4 時間
15.	尊厳を支える介護	QOL、ノーマライゼーションの考え方について説明する		教科書や資料を基に復習しておくこと	4 時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	試験は、期末試験を1回実施する(評価割合80%)。また、授業内レポート(評価割合20%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加え、欠格条件となる。レポートはコメントを付して返却し、試験は個別に解説する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				80%
	授業内レポート				20%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポート・試験については解説をしながら返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得不可(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業中は携帯電話の電源を切り、かばんの中にする。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。 ・介護福祉士国家試験の内容も含まれているため、別途、国家試験対策を各自で講じることが望ま 				
関連科目	介護概論、リハビリテーション論、生活と生活支援(1年)				
関連資格	介護福祉士国家試験受験資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新・介護福祉士養成講座3 介護の基本 第2版				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	関係資料配布 ならびに 別途指示				
オフィス アワー	火曜日 12:40~14:10				
GCR	kvmqlcg				
その他	原則、オンラインでの授業を行う。なお、対面での授業再開となった場合には、改めて周知する。				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
966620	H-CAW041J-01	医療的ケア実施の基礎																					
科目名(英字)	The basics of medical care for care work																						
学科	健康福祉学科			学年	4年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	堀江 竜弥 / 福田 伸雄			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	介護福祉士としての実務経験、医療現場（病院・在宅）での実務経験を有する																						
授業の概要	医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握など、医療的ケアを安全・適切に実施するための基礎について学習する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	医療的ケアを安全かつ適切に実施するために必要な基礎的知識を身につける。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握といった医療的ケアを実践する上での基礎的知識が安全かつ適切なケアに欠かせないことが理解できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>観察に基づく情報収集からの確かなアセスメントができ、医療職との連携・協力の必要性を理解することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>医療的ケアを安全かつ適切に実施するために必要な一次救命などの基礎的技術が理解できる</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握といった医療的ケアを実践する上での基礎的知識が安全かつ適切なケアに欠かせないことが理解できる。		情意的領域	観察に基づく情報収集からの確かなアセスメントができ、医療職との連携・協力の必要性を理解することができる。		技能表現的領域	医療的ケアを安全かつ適切に実施するために必要な一次救命などの基礎的技術が理解できる						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握といった医療的ケアを実践する上での基礎的知識が安全かつ適切なケアに欠かせないことが理解できる。																					
	情意的領域	観察に基づく情報収集からの確かなアセスメントができ、医療職との連携・協力の必要性を理解することができる。																					
	技能表現的領域	医療的ケアを安全かつ適切に実施するために必要な一次救命などの基礎的技術が理解できる																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握といった医療的ケアを実践する上での基礎的知識が安全かつ適切なケアに欠かせないことが説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>観察に基づく情報収集からの確かなアセスメントができ、医療職との連携・協力の必要性を説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>医療的ケアを安全かつ適切に実施するために必要な一次救命などの基礎的技術が習得できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握といった医療的ケアを実践する上での基礎的知識が安全かつ適切なケアに欠かせないことが説明できる。		情意的領域	観察に基づく情報収集からの確かなアセスメントができ、医療職との連携・協力の必要性を説明できる。		技能表現的領域	医療的ケアを安全かつ適切に実施するために必要な一次救命などの基礎的技術が習得できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握といった医療的ケアを実践する上での基礎的知識が安全かつ適切なケアに欠かせないことが説明できる。																					
	情意的領域	観察に基づく情報収集からの確かなアセスメントができ、医療職との連携・協力の必要性を説明できる。																					
	技能表現的領域	医療的ケアを安全かつ適切に実施するために必要な一次救命などの基礎的技術が習得できる。																					

評価項目	評価基準					
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない	
	秀	優	良	可	不可・放棄	
ルーブリック	法制度や倫理、関連職種、救急発生、感染予防など、医療的ケアを実践する基礎的知識が安全かつ適切なケアに必要だと理解できる。	医療的ケアを行うにあたって必要な基礎的知識が十分身についた上で、実践の在り方に関して様々な観点から成り立っていることについて根拠を以て十分に説明できる。	医療的ケアを行うにあたって必要な基礎的知識が十分身についた上で、実践の在り方に関して様々な観点から成り立っていることについてある程度説明できる。	医療的ケアを行うにあたっての基礎的知識は身につけているが、実践の在り方に関して様々な観点から検討する必要性について十分説明できない。	医療的ケアを行うにあたっての基礎的知識は身につけているが、実践の在り方に関して様々な観点から検討する必要性について説明できない。	利用者の安全に配慮し、医療的ケアを実践する上での基礎的知識が身につけていない。
	観察に基づく情報収集からの確かなアセスメントができ、医療職との連携・協力の必要性を理解することができる。	観察に基づく情報収集からの確かなアセスメントを行う必要性について説明でき、医療職との連携・協力の必要性と方法について根拠に基づき説明できる。	観察に基づく情報収集からの確かなアセスメントを行う必要性について説明でき、医療職との連携・協力の必要性と方法について説明できる。	観察に基づく情報収集からの確かなアセスメントを行う必要性について説明できるが、医療職との連携・協力の必要性と方法について十分に説明できない。	観察に基づく情報収集からの確かなアセスメントを行う必要性について説明できるが、医療職との連携・協力の必要性と方法について説明できない。	観察に基づく情報収集、医療職との連携・協力に関する基本的知識が身につけていない。
	医療的ケアを安全かつ適切に実施するために必要な一次救命などの基礎的技術が習得できる。	医療的ケアを安全かつ適切に実施するために必要な一次救命の基礎知識を理解した上で、適切な救命処置方法が迅速に実施できる。	医療的ケアを安全かつ適切に実施するために必要な一次救命の基礎知識を理解した上で、適切な救命処置方法が実施できる。	必要性の説明は不十分だが、適切な救命処置方法が実施できる。	必要性の説明はないが、適切な救命処置方法が実施できる。	一次救命処置に関する基本的知識が身に付いておらず、救命方法を適切に実施できない。
授業計画（全体）	医療職との連携のもとで医療的ケアを安全適切に実施できるよう必要な知識・技術を習得することにある。医療的ケアは講義実時間50時間が必須となっている。「医療的ケア実施の基礎」「喀痰吸引」「経管栄養」で、基礎知識と実施手順を学習し、「医療的ケア演習」で安全かつ適切な実施手順を習得できるよう教授する。看護職としての実務経験、老年看護学における教育研究の経験を活かし、知識に基づいた医療支援を提供する観点から講義を行う。					

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	個人の尊厳と自立（堀江）	個人の尊厳と自立とは何かを資料をもとに学習する		テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	4時間
2.	医療の倫理（堀江）	医療における倫理について、様々な医療関連職の倫理も含めて学習する		前回配布資料を基に復習しておくこと	4時間
3.	利用者や家族の気持ち、説明と同意（堀江）	医療的ケアを受ける利用者や家族の気持ちについて概説し、説明と同意の必要性と基本的事項について学習する		テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	4時間
4.	保健医療に関する制度（堀江）	保健医療に関する制度と何か、介護保険制度も含めて学習する		テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	4時間
5.	医行為に関する法律（堀江）	医行為に関する法律について説明し、介護福祉士が行う医療的ケアに関連する法律について学習する		テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	4時間
6.	チーム医療と介護職との連携（堀江）	医療的ケアを実施するチーム医療と運営方法、介護職との連携について学習する		テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	4時間
7.	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施（堀江）	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施とその方法論について学習する		テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	4時間
8.	感染予防（堀江）	医療的ケアを実施するために必要な感染予防とその方法について学習する		テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	4時間
9.	職員の感染予防（堀江）	職員が起こり得る感染と感染管理方法について学習する		テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	4時間
10.	療養環境の清潔、消毒法（堀江）	医療的ケアを行うために必要な療養環境の清潔、消毒法について学習する		テキスト及び映像資料による学習をしておくこと	4時間

11.	滅菌と消毒（堀江）	日常生活場面と医療における清潔と不潔、滅菌と消毒の概念について学習する	テキスト及び映像資料による学習しておくこと	4時間
12.	身体・精神の健康（堀江）	医療的ケアを受ける者における身体・精神の健康と維持の必要性について学習する	テキスト及び映像資料による学習しておくこと	4時間
13.	健康状態を知る項目（バイタルサインなど）（堀江）	健康状態を知る項目（バイタルサインなど）と測定方法について学習する	テキスト及び映像資料による学習しておくこと	4時間
14.	急変状態について（福田）	医療的ケア上の体調不良を含む急変状態について学習する	テキスト及び映像資料による学習しておくこと	4時間
15.	救急蘇生法（福田）	救急蘇生法について学習し、シミュレーターによる演習を通して学習する	テキスト及び映像資料による学習しておくこと	4時間
16.				
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				
23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				

成績評価方法 (方針)	試験は、医療的ケアの安全・適切な実施に必要な基礎知識の習得状況を確認する目的で行う。 試験における評価基準は、厚生労働省より示されている内容に準拠する。試験結果は個別に解説する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				90%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				10%
	授業態度				減点対象
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	授業終了後に、内容を確認できたかどうか、受講後のまとめを毎回課す。 学びの内容について次回授業時にコメントする。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得不可(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業中は携帯電話の電源を切り、かばんの中にしてしまうこと。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。 ・介護福祉士国家試験の内容も含まれているため、別途、国家試験対策を各自で講じることが望ま 				
関連科目	こころとからだ ・ 、喀痰吸引、経管栄養、医療的ケア演習				
関連資格	介護福祉士国家試験受験資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	医療的ケア	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2019	978-4-8058-5775-5
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	なし				
オフィス アワー	月曜日 16:00~17:30				
GCR	jgotojl				
その他	オンラインで対応する場合は、別途指示します。連絡先 tt-horie@sendai-u.ac.jp				

感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
114310	H-CAW312J-01	生活支援技術の基礎																					
科目名(英字)	Lifestyle support skill Basic																						
学科	健康福祉学科			学年	1年																		
学期	前期	授業形態	演習		単位数	2																	
担当教員	福田 伸雄 / 後藤 満枝			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	介護現場での実務経験を有する 医療現場での実務経験を有する																						
授業の概要	介護・医療現場での実務経験を活かし、介護の実践現場に求められる介護福祉士養成の観点から講義・演習を行う。 具体的には、自立支援の視点を踏まえ、介護を必要とする人々の安全で快適な環境の整備、食事、入浴、排泄、移動、身じたく等の日常生活援助について、基本的知識・技術を習得できるよう、解説をもとに授業を展開する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	介護に必要な基本的知識を身につけ、介護を必要とする人々の身体的状況や、心理的状況などについて理解することができる。また、対象者の日常生活の自立を促し、対象者の状態に応じた安全で、安楽な基本的介護技術を展開することができる。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>介護に必要な基本的知識・支援技術について理解し、説明することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>介護を必要とする人々の立場に立ち、介護者として、対象者の身体的状況や心理的状況に配慮し、実践することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>対象者の状態に応じた安全で安楽な基本的介護技術を理解し、実践することができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	介護に必要な基本的知識・支援技術について理解し、説明することができる。		情意的領域	介護を必要とする人々の立場に立ち、介護者として、対象者の身体的状況や心理的状況に配慮し、実践することができる。		技能表現的領域	対象者の状態に応じた安全で安楽な基本的介護技術を理解し、実践することができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	介護に必要な基本的知識・支援技術について理解し、説明することができる。																					
	情意的領域	介護を必要とする人々の立場に立ち、介護者として、対象者の身体的状況や心理的状況に配慮し、実践することができる。																					
	技能表現的領域	対象者の状態に応じた安全で安楽な基本的介護技術を理解し、実践することができる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>介護に必要な基本的知識について理解することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>介護を必要とする人々の立場に立ち、介護者として、対象者の身体的状況や心理的状況に配慮することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>対象者の状態に応じた安全で安楽な基本的介護技術を理解することができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	介護に必要な基本的知識について理解することができる。		情意的領域	介護を必要とする人々の立場に立ち、介護者として、対象者の身体的状況や心理的状況に配慮することができる。		技能表現的領域	対象者の状態に応じた安全で安楽な基本的介護技術を理解することができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	介護に必要な基本的知識について理解することができる。																					
	情意的領域	介護を必要とする人々の立場に立ち、介護者として、対象者の身体的状況や心理的状況に配慮することができる。																					
	技能表現的領域	対象者の状態に応じた安全で安楽な基本的介護技術を理解することができる。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
介護に必要な基本的知識について理解することができる。	介護に必要な基本的知識・支援技術について十分に理解し、説明することができる。	介護に必要な基本的知識・支援技術について理解し、説明することができる。	介護に必要な基本的知識・支援技術について理解し、概ね説明することができる。	介護に必要な基本的知識について理解することができる。	介護に必要な基本的知識についての理解が乏しい。
介護を必要とする人々の立場に立ち、介護者として、対象者の身体的状況や心理的状況に配慮することができる。	介護を必要とする人々の立場に立ち、介護者として、対象者の身体的状況や心理的状況を十分に配慮し、実践することができる。	介護を必要とする人々の立場に立ち、介護者として、対象者の身体的状況や心理的状況を配慮し、実践することができる。	介護を必要とする人々の立場に立ち、介護者として、対象者の身体的状況や心理的状況を配慮し、概ね実践することができる。	介護を必要とする人々の立場に立ち、介護者として、対象者の身体的状況や心理的状況に配慮することができる。	介護を必要とする人々の立場に立ち、介護者として、対象者の身体的状況や心理的状況に配慮が欠ける。
対象者の状態に応じた安全で安楽な基本的介護技術を理解することができる。	対象者の状態に応じた安全で安楽な基本的介護技術を十分に理解し、実践することができる。	対象者の状態に応じた安全で安楽な基本的介護技術を理解し、実践することができる。	対象者の状態に応じた安全で安楽な基本的介護技術を理解し、概ね実践することができる。	対象者の状態に応じた安全で安楽な基本的介護技術を理解することができる。	対象者の状態に応じた安全で安楽な基本的介護技術についての理解が乏しい。
ループリク					
授業計画（全体）	<p>各授業テーマに沿って、教科書や視聴覚教材を用いて解説を加えながら、内容の確認を行う。特に重要な項目や技術については、デモンストレーションを取り入れ、その後グループごとに演習を展開し、技術の習得につなげる。教員が随時技術指導・確認を行うが、授業終了時に感想等を聞き、助言を行うなど、まとめとして、補足説明を加える。なお、授業で得た知識や学び等をレポートにまとめ、提出してもらおう課題を課す場合もある。</p>				

授業計画（各回のテーマ等）					
回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	生活支援とは何か（福田）	生活を理解する視点と生活支援の基本的な考え方について解説する。		生活支援とはについて教科書の該当箇所を読み予習復習をすること。	4時間
2.	アセスメントとは何か（福田）	アセスメントの意味と手法について解説する。		アセスメントについて教科書の該当箇所を読み予習復習をすること。	4時間
3.	自立に向けた移動の介護1（福田）	ボディメカニクスの原理・原則について解説をもとに演習を行う。		ボディメカニクスについて教科書の該当箇所を読み予習復習をすること。	4時間
4.	自立に向けた移動の介護2（福田）	介護場面に必要となる姿勢の種類の説明、要介護者の移動介助の演習を行う。		姿勢・移動介助方法について教科書の該当箇所を読み予習復習をすること。	4時間
5.	自立に向けた移動の介護3（福田）	車椅子の扱い方や、ベッドと車椅子間の移動介助について演習を行う。		車椅子の支援方法について教科書の該当箇所を読み予習復習をすること。	4時間
6.	自立に向けた居住環境の整備1（後藤）	居住環境や居住環境の整備における意義・目的・実際について説明する。		居住環境の整備について、教科書の該当箇所を読み予習復習をすること。	4時間
7.	自立に向けた居住環境の整備2（後藤）	寝具の整え方について説明し、ベッドメイキングの演習を行う。		自宅でベッドメイキングについて復習してみる。	4時間
8.	自立に向けた居住環境の整備3（後藤）	ベッドメイキングの技術確認を行う。		自宅でベッドメイキングについて復習してみる。	4時間
9.	自立に向けた身じたくの介護1（後藤）	身だしなみを整えることの意義を説明し、衣服の着脱介助の方法について演習を行う。		脱着患の原則を理解し、実際に自宅で復習してみる。	4時間
10.	自立に向けた身じたくの介護2（後藤）	口腔内清潔保持の意義について説明し、実際の方法について演習を行う。		実際に演習を行うため、歯ブラシとコップを持参すること。	4時間

11.	自立に向けた入浴・清潔保持の介護1（後藤）	身体を清潔に保つ方法として、安全で的確な入浴介助の技法について実際に演習を行う。	実際に入浴するため、水着とバスタオルを持参すること。	4時間
12.	自立に向けた入浴・清潔保持の介護2（後藤）	身体を清潔に保つ方法として、安全で的確な食事介助の方法について演習を行う。	実際に足浴を行うため、タオルを持参すること。	4時間
13.	自立に向けた食事の介護（後藤）	摂食のメカニズムについて解説し、安全で適切な食事介助の方法について演習を行う。	実際に食事の介助を行うため、エプロンを持参すること。	4時間
14.	自立に向けた排泄の介護（後藤）	排泄のメカニズムについて解説し、ポータブルトイレでの排泄介助について演習を行う。	演習の際、実習着の下にハーフパンツを着用すること。	4時間
15.	授業のまとめ（福田）	これまでの授業を振り返り、解説する。	これまでの授業について、教科書の該当箇所を読み予習復習をすること。	4時間
16.				
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				
23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				

成績評価方法 (方針)	筆記試験、実技試験の結果に基づき総合的に評価する。ただし、出席3分の2以上が前提となる。 なお、試験については試験実施後に随時質問に応じて解説する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				60%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				40%
	授業態度				加点・減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートはコメントを付けた上で返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席がない学生は単位を修得することができない。(欠格条件)。 ・本授業は学外の「介護実習」に直接つながる授業であり、毎回演習や体験を通しての学習になるため、授業をできるだけ休まないようにすること。 ・授業態度によっては、成績評価の加点・減点を行うこともあり、身だしなみも授業態度として評価する。また、介護実習室では実習着、体育館シューズを着用すること。授業計画は、進捗状況により、多少前後することがある。 				
関連科目	介護概論、コミュニケーション技術論、生活と生活支援、生活支援技術の基礎				
関連資格	介護福祉士国家試験受験資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術【第2版】	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規	2022	978-4-8058-8395-2
	最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術【第2版】	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規	2022	978-4-8058-8396-9
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
オフィス アワー	火曜日 14:20～15:50 (研究室：福田研究室：G棟2階212)				
GCR	ag5p5sb				
その他	問い合わせ先：nb-fukuda@sendai-u.ac.jp				

感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
153030	S-MED221J-01	運動障害救急法（含実習）																					
科目名(英字)	Emergency Care for Sports injury																						
学科	体育学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	遠隔授業		単位数																		
					2																		
担当教員	橋本 実			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	医療現場での実務経験を有する																						
授業の概要	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害の知識と対処方法について解説する スポーツドクターの立場から固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDの使用方法を解説し、実習もおこなう																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	スポーツ現場でおこる、外傷、障害にたいし正しい対処ができるようになる 固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDを適切におこなえるようになる																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を十分に理解する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと積極的に努力する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を十分に理解する		情意的領域	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと積極的に努力する		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を十分に理解する																					
	情意的領域	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと積極的に努力する																					
	技能表現的領域																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する		情意的領域	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する																					
	情意的領域	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する																					
	技能表現的領域																						

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
外傷、障害などの知識と対処方法	外傷、障害などの知識と対処方法を十分に理解した上で、他人に伝えることができる	外傷、障害などの知識と対処方法を十分に理解する	外傷、障害などの知識と対処方法がある程度、理解する	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する	外傷、障害などの知識と対処方法を理解しない
スポーツ現場でおきた外傷、障害の対応	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと積極的に努力しながら、自ら新たな課題に取り組むことができる	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと積極的に努力する	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようとする程度、努力する	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力しない
ルーブリック					

授業計画（全体）	授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート（教科書）に書き込みながら理解を深める 授業の終わりに毎回小テストなどをおこない、知識を整理する
----------	---

授業計画（各回のテーマ等）					
回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	授業の進め方などについて説明する		プリントを配布するので参考にすること	4時間
2.	外傷	外傷の分類、重症度などについて説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
3.	外傷の新しい治療	外傷の新しい治療について説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
4.	固定法	様々な方法による上肢の固定法について説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
5.	止血法	様々な方法による止血法について説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
6.	脳震盪	脳震盪の分類、重症度などについて説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
7.	頭部外傷	頭部外傷の分類、重症度などについて説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
8.	救急処置（実習）	包帯、三角巾の使用方法、RICE、傷の治療を実習する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
9.	前半の振り返りと試験	講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう		講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
10.	熱中症	熱中症の分類、重症度などについて説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間

11.	熱中症	熱中症の対処方法、予防法などについて説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
12.	心肺蘇生法	心肺蘇生法について説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
13.	AEDを使った心肺蘇生法	AEDを使った心肺蘇生法について説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
14.	救急処置（実習）	AED、AED実習器具を使って実習する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
15.	後半の振り返りと試験	講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう		講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	欠席する場合は必ず欠席届を提出すること。特に試験は無断欠席は認めないので注意すること。出欠はICTツールで毎回の小テストと学びの提出状況で確認する。試験結果は返却し、レポートは必要に応じて返却する。試験の際に持ち込みできるのは講義ノートのみなので、必ず購入すること。成績は相対評価と絶対評価で総合的に判定する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				95%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート	○			5%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートについては、授業内で指示します。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。 能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。				
関連科目					
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	運動障害救急法 講義ノート	橋本実	ポラーノ出版	2022	
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特になし				
オフィス アワー	教育企画課で確認して下さい				
GCR	tgjebly				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
522030	I-SMM321J-03	スポーツ取材・報道演習 A																					
科目名(英字)	Sports Reporting and Writing A																						
学科	スポーツ情報メディア学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	演習		単位数	2																	
担当教員	日下 三男 / 佐藤 修			開講の別	同時開講																		
実務経験の有無	新聞社での実務経験を有する																						
授業の概要	<p>マスメディアの中で最も歴史がある新聞報道の特徴などについて記者経験を基にして講義する。日本の新聞の構成と内容、さらにスポーツニュースの特徴について説明する。授業の展開は内容分析という手法を使ってメディアの送り出す情報を実証的に分析することを目標とする。社説やコラムからメッセージを読み取り、キーワードをコード(記号)化して分析する。</p>																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	<p>新聞がどのような記事や広告で構成・編集されているのか。新聞の特徴や特性を知ることによって、報道全般に理解を深める。スポーツ記事については日本の一般紙、スポーツ紙を比較分析するなどして特徴を浮き立たせる。内容分析でメディアの構造を知った後は実践へ。スポーツ取材を通して記事執筆し、表現技法を学ぶ。</p>																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>時事問題を把握し背景をできる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>時事問題を系統立てて整理し、ジャーナリズムの価値観を共有する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>社会の問題に対して自分の意見を明らかにする。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	時事問題を把握し背景をできる。		情意的領域	時事問題を系統立てて整理し、ジャーナリズムの価値観を共有する。		技能表現的領域	社会の問題に対して自分の意見を明らかにする。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	時事問題を把握し背景をできる。																					
	情意的領域	時事問題を系統立てて整理し、ジャーナリズムの価値観を共有する。																					
	技能表現的領域	社会の問題に対して自分の意見を明らかにする。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>新聞の社説やコラムがどう構成され、各紙の特徴は何かを説明出来る。スポーツ面については客観性をもって読むことができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>新聞を身近なメディアとして捉えられるようになる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>ジャーナリズム精神に基づき、自分の意見を示すことができるようになる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	新聞の社説やコラムがどう構成され、各紙の特徴は何かを説明出来る。スポーツ面については客観性をもって読むことができる。		情意的領域	新聞を身近なメディアとして捉えられるようになる。		技能表現的領域	ジャーナリズム精神に基づき、自分の意見を示すことができるようになる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	新聞の社説やコラムがどう構成され、各紙の特徴は何かを説明出来る。スポーツ面については客観性をもって読むことができる。																					
	情意的領域	新聞を身近なメディアとして捉えられるようになる。																					
	技能表現的領域	ジャーナリズム精神に基づき、自分の意見を示すことができるようになる。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
時事問題の把握	地域から世界まで時事問題の把握ができ、わが事として十分に捉えられる	時事問題の把握が一定程度でき、わが事としても捉えられる	時事問題の把握の範囲が限られ、わが事として想像できることが限定的	時事問題の把握が何とかできる	時事問題の把握ができない
ニュースの整理	ニュース全般を系統立てて整理できる	ニュースを多くの分野で系統立てて整理できる	ニュースを系統立てて整理できるもの、分野が限られる	ニュースを系統立てて整理できるのが限定的	ニュースを系統立てて整理できない
ジャーナリズム精神	ジャーナリズム精神を定義し人に説明できる	ジャーナリズム精神をある程度は理解し人に説明できる	ジャーナリズム精神を大枠で理解し人に何とか説明できる	ジャーナリズム精神の理解が限定的	ジャーナリズム精神を理解できない

ループリク

授業計画（全体）

大きく三つに分け、授業テーマに沿った資料を用いながら新聞の特性を知る。理解度・到達度を確認するために内容分析に取り組む。社説やコラムを実際に執筆し発表する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法も知らせる。		シラバスを熟読する。	4時間
2.	新聞の内容と構成	全国紙、地元紙を読み比べながら、それぞれの特徴を説明する。「内容分析」のデザインと実践へ。		少なくとも一紙を読んでその新聞の特徴をまとめてくる。	4時間
3.	新聞の社説とコラム	新聞の社説とコラムについて講義する。		説とコラムをそれぞれ一つ読んで感想をまとめる。	4時間
4.	新聞の社会面	国紙、地元紙の社会面を読んで紙面や記事を分析する。		社会面の特集記事を読んで感想をまとめてくる。	4時間
5.	新聞のスポーツ面	全国紙、地元紙のスポーツ面を読んで紙面や記事を分析する。		スポーツ面の特集記事を読んで感想をまとめてくる。	4時間
6.	各紙の特徴と個性	「内容分析」でディスカッション		各紙の読み込み	4時間
7.	各紙の特徴と個性	「内容分析」でディスカッション		各紙の読み込み	4時間
8.	各紙の特徴と個性	「内容分析」でディスカッション		各紙の読み込み	4時間
9.	各紙の特徴と個性	「内容分析」でディスカッション		各紙の読み込み	4時間
10.	社説とコラム執筆&ディスカッション	各自テーマ設定し社説やコラムを執筆する。		参考記事読解	4時間

11.	社説とコラム執筆&ディスカッション	各自テーマ設定し社説やコラムを執筆する。		参考記事読解	4時間
12.	社説とコラム執筆&ディスカッション	各自テーマ設定し社説やコラムを執筆する。		参考記事読解	4時間
13.	合評会	執筆するという実践を通して学んだことを基に合評する。		感想文	4時間
14.	執筆	時事テーマを基に取材し、社説とコラムを執筆する。		記事を完成させる。	4時間
15.	成果を発表	ジャーナリズムとは何か。新聞観、ニュース観を各自披露する。		各紙の読み込み	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	授業外レポート(評価割合80%)、授業内レポート(20%)を課す。これらの結果を総合して成績評価を行う。提出されたレポートは解説をしながら返却する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート				20%
	授業外レポート				70%
	演習・実技				10%
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	授業内で講評する				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	スポーツ取材の現場に実際に踏み込む場合があるので、該当競技の知識を蓄えておくこと。				
関連科目	メディア系科目全て				
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	増補版メディアの議題設定機能	竹下俊郎	学文社	2008	
	内容分析の方法	有馬明恵	ナカニシヤ出版	2021	
	内容分析の進め方	ダニエル・リフほか	勁草書房	2018	
	メッセージ分析の技法	クラウス・クリップENDORF	勁草書房	1989	
	流言蜚語	清水幾太郎	筑摩書房	2011	
オフィス アワー	日下(5体3F) = 水10:20~11:50				
GCR	5bqqht6				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
524090	H-HEA211J-01	社会福祉概論																					
科目名(英字)	The General Theory of Social Welfare																						
学科	健康福祉学科			学年	1年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	南條 正人			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	「 - 」																						
授業の概要	<p>相談援助と介護実践の基礎となる「社会福祉」の知識と考え方について体系的に講義する。まず、社会福祉の基礎を学ばせ、その思想や理論そして「社会福祉法」等を土台に据えた法制度の全体像を理解させる。次に、法制度の中でも実務上において特に重要な介護保険制度とその背景及び目的および昨今の動向について解説する。</p>																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	<p>社会福祉の原理をめぐる思想・哲学を理解する。社会福祉の歴史的展開と社会福祉の特性を理解する。社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。福祉政策を捉える基本的な概念や理念を理解する。福祉政策の関連施策や包括的支援について理解する。福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。</p>																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>社会福祉の基礎的な概念、制度、方法について説明する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>ボランティア活動など社会福祉の活動に対し、主体的な取り組みを行う。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	社会福祉の基礎的な概念、制度、方法について説明する。		情意的領域	ボランティア活動など社会福祉の活動に対し、主体的な取り組みを行う。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	社会福祉の基礎的な概念、制度、方法について説明する。																					
	情意的領域	ボランティア活動など社会福祉の活動に対し、主体的な取り組みを行う。																					
	技能表現的領域																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>社会福祉の基礎的な概念、制度、方法について説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>ボランティア活動など社会福祉の活動に対し、主体的な取り組みを行えるようになる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	社会福祉の基礎的な概念、制度、方法について説明できる。		情意的領域	ボランティア活動など社会福祉の活動に対し、主体的な取り組みを行えるようになる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	社会福祉の基礎的な概念、制度、方法について説明できる。																					
	情意的領域	ボランティア活動など社会福祉の活動に対し、主体的な取り組みを行えるようになる。																					
	技能表現的領域																						

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
社会福祉の基礎的な概念、制度、方法について説明できる。	社会福祉の基礎的な概念、制度、方法に関する十分な知識を有し、他者に説明できる。	社会福祉の基礎的な概念、制度、方法に関する知識を有し、他者に説明できる。	社会福祉の基礎的な概念、制度、方法に関する知識を有し、概ね他者に説明できる。	社会福祉の基礎的な概念、制度、方法に関する最低限の知識を持っている。	社会福祉の基礎的な概念、制度、方法に関する知識が不十分である。
ボランティア活動など社会福祉の活動に対し、主体的な取り組みを行えるようになる。	ボランティア活動など社会福祉の活動に対し、主体的な取り組みを行え、その必要性について十分に説明することができる。	ボランティア活動など社会福祉の活動に対し、主体的な取り組みを行え、その必要性について説明することができる。	ボランティア活動など社会福祉の活動に対し、主体的な取り組みを行え、その必要性について概ね説明することができる。	ボランティア活動など社会福祉の活動に対し、主体的な取り組みを行うことができる。	ボランティア活動など社会福祉の活動に対し、主体的な取り組みが乏しい。
授業計画（全体）	<p>・テキストと用意した資料を用いて講義を行う。（国家試験の受験者はテキストを必ず購入し、受験しない学生の購入については各人の判断に委ねる。）</p> <p>・授業は最初から終わりまで視聴覚教材を用いて行い、「用意した資料（配布資料）＝視聴覚教材」というかたちで講義を進め、授業効率を高める。</p>				

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	社会福祉の原理（思想と哲学の理解）	導入と動機付け。社会福祉の歴史、思想・哲学、理論、社会福祉の原理と実践、社会福祉学の構造と特徴		高校までに見聞きした「社会福祉」について、自分なりのイメージをまとめる。	4時間
2.	社会福祉の歴史	歴史観、政策史、実践史、時代区分・日本と欧米の社会福祉の比較史の視点		前回講義の復習を行い、社会福祉について「自分なりの定義」を行う。	4時間
3.	日本の社会福祉の歴史的展開	慈善事業、博愛事業・社会事業・社会福祉事業・社会福祉		日本の社会福祉の歴史について整理しておくこと。	4時間
4.	欧米の社会福祉の歴史的展開	救貧法・慈善事業、博愛事業・社会事業、社会保険・福祉国家、福祉社会・国際的潮流		日本と欧米の社会福祉の比較し、その違い等について整理しておくこと。	4時間
5.	社会福祉の思想・哲学	社会福祉の思想・哲学の考え方・人間の尊厳・社会正義・平和主義等		社会福祉の思想・哲学について整理しておくこと。	4時間
6.	社会福祉の理論	社会福祉の理論の基本的な考え方・戦後社会福祉の展開と社会福祉理論・社会福祉の理論（政策論、技術論、固有論、統合論、運動論、（経営論）・欧米の社会福祉の理論		社会福祉の理論の基本的な考え方について整理しておくこと。	4時間
7.	社会福祉の論点	公私関係、効率性と公平性、普遍主義と選別主義、自立と依存、自己選択・自己決定とパターンリズム、参加とエンパワメント、ジェンダー、社会的承認		社会福祉の論点について整理しておくこと。	4時間
8.	社会福祉の対象とニーズ	ニーズと需要の概念・社会福祉の対象とニーズ・ニーズの種類と次元・ニーズの理論とその課題		社会福祉の対象とその対象のニーズについて整理しておくこと。	4時間
9.	現代における社会問題	貧困、孤立、失業、要援護性、偏見と差別、社会的排除、ヴァルネラビリティ、ニューリスク、依存症、自殺		現代社会の社会問題について新聞記事等を調べて整理しておくこと。	4時間
10.	社会問題の構造的背景	低成長経済、グローバル化、少子高齢化、人口減少社会、格差、貧困、社会意識・価値観の変化		現代社会の社会問題について新聞記事等を調べて整理しておくこと。	4時間

11.	福祉政策の概念・理念	現代の社会問題と福祉政策・福祉政策の概念・理念・福祉政策と社会保障、社会政策・福祉レジームと福祉政策	身近で見聞きした福祉政策のニーズを整理する。	4時間
12.	福祉政策におけるニーズと資源	ニーズの種類と内容・把握方法、資源種類と内容・把握方法・開発方法	前回講義の内容を、自分の言葉で説明できるようにしておく。	4時間
13.	福祉政策の構成要素	福祉政策の構成要素とその役割・機能・政府、市場（経済市場、準市場、社会市場）、事業者、国民（利用者を含む）・措置制度・多元化する福祉サービス提供方式	福祉政策の構成要素についてまとめておくこと。	4時間
14.	福祉政策の過程	政策決定、実施、評価・福祉政策の方法・手段・福祉政策の政策評価・行政評価・福祉政策と福祉計画	福祉政策と関連施策・制度の詳細を調べておくこと。	4時間
15.	介護保険法の概要及び福祉政策の動向と課題	介護保険法の成り立ちから現状及び社会福祉法・地域包括ケアシステム・地域共生社会・多文化共生・持続可能性（SDGs等）について解説する	介護や介護保険について見聞きしたことを自分なりにまとめる。	4時間
16.				
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				
23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				

成績評価方法 (方針)	<ul style="list-style-type: none"> ・期末に行う筆記試験と出席日数、及び発言や質問の回数に基づき評価する。(60点以上の者に単位を認定する。) ・各々の評価割合は、次の通り。 : 筆記試験の成績(80%)、発言や質問の回数(20%) ・提出したレポートは相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。 				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				80%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				20%
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートの実施に関しては、授業内で指示します。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・常に、日常の生活や身近な話題あるいは時事問題と関連づけながら学ぶこと。学問は、観念的な知識や現実離れした理想ではなく、絶えず現実の中に、そして現実と共にある。このような「学問的实践」によって、卒業後の人生や職業の中で、大学において学んだことを生かせるようになる。 ・20分以上の遅刻は、欠席とする。 				
関連科目	社会福祉概論、社会保障論、公的扶助論、老人福祉論、障害者福祉論、ソーシャルワークの基盤と専門職、その他				
関連資格	社会福祉士、介護福祉士、社会福祉主事任用資格、高等学校教諭一種免許状(福祉)				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	社会福祉の原理と政策	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8234-4
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	なし				
オフィス アワー	水曜日2限				
GCR	qj3eg3l				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
131180	M-CSS031J-01	警備ビジネス論																					
科目名(英字)	Ssecurity and business																						
学科	現代武道学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	田中 智仁			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	警備員としての実務経験を有する。																						
授業の概要	昭和中期から今日に至るまでの経済発展に伴い、産業構造の高度再編・多様化するとともに、IT、金融、流通等の経済のサービス化も進行してきた。その一環で、生活安全産業として専門多様化した警備ビジネスについて、経済学的視点と社会学的視点から考察し、今後の警備ビジネスのあり方について学ぶ。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	社会の安全・安心を確保する上で、大きな一翼を担う警備ビジネスについて、経済発展に伴いいかに誕生・発展・成熟を遂げてきたか、その果たす役割と生活安全産業としての産業構造と特性について経済学と社会学の両面から考察し、経済発展と警備ビジネスに関する知識を身につける。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>社会の安全・安心に貢献する警備ビジネスの考察に必要な産業の基礎理解、もしくは、警備ビジネスの社会経済的役割のどちらか一方を十分に説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>経済発展の中での警備ビジネスの役割を理解し、積極的に企業情報を収集するか、もしくは、警備ビジネス関連分野の展示会等に参加することが積極的に行える。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>警備ビジネスの専門化を踏まえて適切な警備料金を算出するか、もしくは、警備計画を提案することが十分にできる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	社会の安全・安心に貢献する警備ビジネスの考察に必要な産業の基礎理解、もしくは、警備ビジネスの社会経済的役割のどちらか一方を十分に説明できる。		情意的領域	経済発展の中での警備ビジネスの役割を理解し、積極的に企業情報を収集するか、もしくは、警備ビジネス関連分野の展示会等に参加することが積極的に行える。		技能表現的領域	警備ビジネスの専門化を踏まえて適切な警備料金を算出するか、もしくは、警備計画を提案することが十分にできる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	社会の安全・安心に貢献する警備ビジネスの考察に必要な産業の基礎理解、もしくは、警備ビジネスの社会経済的役割のどちらか一方を十分に説明できる。																					
	情意的領域	経済発展の中での警備ビジネスの役割を理解し、積極的に企業情報を収集するか、もしくは、警備ビジネス関連分野の展示会等に参加することが積極的に行える。																					
	技能表現的領域	警備ビジネスの専門化を踏まえて適切な警備料金を算出するか、もしくは、警備計画を提案することが十分にできる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>社会の安全・安心に貢献する警備ビジネスの考察に必要な産業の基礎理解、もしくは、警備ビジネスの社会経済的役割のどちらか一方を説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>経済発展の中での警備ビジネスの役割を理解し、積極的に企業情報を収集するか、もしくは、警備ビジネス関連分野の展示会等に参加することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>警備ビジネスの専門化を踏まえて適切な警備料金を算出するか、もしくは、警備計画を提案することができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	社会の安全・安心に貢献する警備ビジネスの考察に必要な産業の基礎理解、もしくは、警備ビジネスの社会経済的役割のどちらか一方を説明できる。		情意的領域	経済発展の中での警備ビジネスの役割を理解し、積極的に企業情報を収集するか、もしくは、警備ビジネス関連分野の展示会等に参加することができる。		技能表現的領域	警備ビジネスの専門化を踏まえて適切な警備料金を算出するか、もしくは、警備計画を提案することができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	社会の安全・安心に貢献する警備ビジネスの考察に必要な産業の基礎理解、もしくは、警備ビジネスの社会経済的役割のどちらか一方を説明できる。																					
	情意的領域	経済発展の中での警備ビジネスの役割を理解し、積極的に企業情報を収集するか、もしくは、警備ビジネス関連分野の展示会等に参加することができる。																					
	技能表現的領域	警備ビジネスの専門化を踏まえて適切な警備料金を算出するか、もしくは、警備計画を提案することができる。																					

評価項目	評価基準					
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない	
	秀	優	良	可	不可・放棄	
ルーブリック	社会の安全・安心に貢献する警備ビジネスの考察に必要な産業の基礎理解、もしくは、警備ビジネスの社会経済的役割のどちらか一方を説明できる。	社会の安全・安心に貢献する警備ビジネスの考察に必要な産業の基礎理解、もしくは、警備ビジネスの社会経済的役割のどちらか一方を極めて十分に説明できる。	社会の安全・安心に貢献する警備ビジネスの考察に必要な産業の基礎理解、もしくは、警備ビジネスの社会経済的役割のどちらか一方を十分に説明できる。	社会の安全・安心に貢献する警備ビジネスの考察に必要な産業の基礎理解、もしくは、警備ビジネスの社会経済的役割のどちらか一方をおおむねに説明できる。	社会の安全・安心に貢献する警備ビジネスの考察に必要な産業の基礎理解、もしくは、警備ビジネスの社会経済的役割のどちらか一方を最低限に説明できる。	社会の安全・安心に貢献する警備ビジネスの考察に必要な産業の基礎理解、もしくは、警備ビジネスの社会経済的役割のどちらか一方を全く説明できない。
	経済発展の中で警備ビジネスの役割を理解し、積極的に企業情報を収集するか、もしくは、警備ビジネス関連分野の展示会等に参加することができる。	経済発展の中で警備ビジネスの役割を理解し、積極的に企業情報を収集するか、もしくは、警備ビジネス関連分野の展示会等に参加することが極めて積極的に行うことができる。	経済発展の中で警備ビジネスの役割を理解し、積極的に企業情報を収集するか、もしくは、警備ビジネス関連分野の展示会等に参加することができる。	経済発展の中で警備ビジネスの役割を理解し、積極的に企業情報を収集するか、もしくは、警備ビジネス関連分野の展示会等に参加することがおおむねに行うことができる。	経済発展の中で警備ビジネスの役割を理解し、積極的に企業情報を収集するか、もしくは、警備ビジネス関連分野の展示会等に参加することが最低限に行うことができる。	経済発展の中で警備ビジネスの役割を理解し、積極的に企業情報を収集するか、もしくは、警備ビジネス関連分野の展示会等に参加することが全くできない。
	警備ビジネスの専門化を踏まえて適切な警備料金を算出するか、もしくは、警備計画を提案することができる。	警備ビジネスの専門化を踏まえて適切な警備料金を算出するか、もしくは、警備計画を提案することが極めて十分にできる。	警備ビジネスの専門化を踏まえて適切な警備料金を算出するか、もしくは、警備計画を提案することができる。	警備ビジネスの専門化を踏まえて適切な警備料金を算出するか、もしくは、警備計画を提案することがおおむねにできる。	警備ビジネスの専門化を踏まえて適切な警備料金を算出するか、もしくは、警備計画を提案することが最低限にできる。	警備ビジネスの専門化を踏まえて適切な警備料金を算出するか、もしくは、警備計画を提案することが全くできない。
授業計画（全体）	昭和から令和にかけての日本社会の変動と、それに伴うライフスタイルの変化を、主に社会学と経済学に依拠してマクロな視点で捉える。その上で、産業構造の変化や都市化の進行による警備ビジネスの需要の生起・拡大、雇用慣行や人事考課制度の実態と課題を概説する。					

授業計画（各回のテーマ等）					
回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	日本における警備業の誕生	日本における草創期の警備業について、映像資料等を用いながらビジネスモデル形成の過程を概説する。		映像資料等の要点をまとめ、同時期の日本社会の主要な出来事について調べる。	4時間
2.	日本における警備業の誕生	日本において警備業が誕生した経緯と、国民の自主防犯活動を補完代行する生活安全産業としての警備業について概説する。		高度経済成長期の産業構造の変化をGDP等の指標に着目して調べる。	4時間
3.	日本における警備業の発展	高度経済成長期に警備業務の需要が高まった時代背景と、警備業法制定の経緯について概説する。		1960年代後半の労使紛争と学園紛争について調べる。	4時間
4.	社会安全のためのインフォーマルなコントロール	高度経済成長期を経たことで国民の自主防犯活動の形態がどのように変化し、警備業務の需要が生じたのかを概説する。		『国民生活白書』等を参照して日本人のライフスタイルの変化を調べる。	4時間
5.	社会安全のためのセミフォーマルなコントロール	警備業務の普及により官民協働の体制がどのように変化し、その中で警備業がいかなる役割を担うようになったのかを概説する。		警察法と警備業法の条文を読み比べ、官民の差異を調べる。	4時間
6.	警備業法の概要と論点	警備業務を実施する上で理解しておくべき法的制約について、警備業法の条文に基づいて概説する。		警備業法における「警備業の要件」等の条文を確認し、その意味を調べる。	4時間
7.	警備業の人材獲得戦略	警備員の年齢・性別等の構成を確認した上で、有効求人倍率等の指標も踏まえながら、人材獲得戦略について概説する。		警備員の求人票を複数検索し、待遇等の雇用条件を調べる。	4時間
8.	警備業の労務管理	警備業の労務管理について、人事考課制度と「パートナシップ型/ジョブ型」の違いに着目して概説する。		「職種」と「業種」の違いと、「日本的経営」の雇用慣行について調べる。	4時間
9.	警備業の産業構造	請負業と派遣業の違いを踏まえ、警備員に対する指揮命令システムと労働環境について概説する。		労働者派遣法の内容を調べる。	4時間
10.	警備業の産業構造	警備料金や労務単価がどのように決定されているのか、ダンピングや下請け構造を踏まえて概説する。		交通誘導警備業務の警備料金を試算する。	4時間

11.	日本における雑踏警備の誕生	日本で雑踏警備が実施されるようになった時代背景と経緯について、映像資料等を用いながら概説する。	映像資料等の要点をまとめ、同時期の日本社会の主要な出来事について調べる。	4時間
12.	警備業と雑踏・人口集中	なぜ雑踏が生まれ、そこで発生する事故が問題視されるようになったのか等、過去の雑踏事故とその社会的背景を踏まえて概説する。	高度経済成長期の人口動態を調べる。	4時間
13.	警備業と雑踏・人口集中	弥彦神社雑踏事故と明石歩道橋事故を題材として、高度経済成長期以降の人口動態による警備業務の需要について概説する。	明石歩道橋事故の調査報告書を読む。	4時間
14.	警備業と監視社会	警備業や防犯設備業が提供する監視カメラやセンサー等が、人々のプライバシーにどのような影響を与えるのかについて概説する。	防犯設備の市場規模を調べる。	4時間
15.	AI・ロボット等を用いた警備業務	最新のAI・ロボット等を用いた警備業務について紹介し、防犯設備業も含めた警備ビジネスの展望を概説する。	AI・ロボット等を用いた警備業関連サービスについて調べる。	4時間
16.				
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				
23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				

成績評価方法 (方針)	起承転結の論理構造、 社会学的及び経済学的な説明の妥当性、 実務への応用思考等を基準に評価する。暗記偏重ではなく、思考力に重点を置いた論理的記述を求める。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)
	定期試験			○	70%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート	○	○		30%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	定期試験およびレポートの原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会の安全・安心概論」の内容が基礎知識になるため、復習しておくことが望ましい。 ・「社会の安全・安心概論」を履修していない者の受講も可能であるが、警備業務の種類と特徴を予習しておくことが望ましい。 ・社会学及び経済学の基礎知識がない者の受講を想定しているが、可能な限り社会学及び経済学を予習しておくことが望ましい。 				
関連科目	社会の安全・安心概論				
関連資格	なし				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特に指定しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	警備ビジネスで読み解く日本	田中智仁	光文社	2018	
オフィス アワー	火曜日12:40~14:10				
GCR	7zoerq3				
その他	田中研究室 tm-tanaka@sendai-u.ac.jp				

感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
541180	N-NUT321J-01	臨床栄養学概論																					
科目名(英字)	Introduction Clonical Nutriton																						
学科	スポーツ栄養学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	真野 芳彦			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	管理栄養士として医療・介護施設での実務経験を有する																						
授業の概要	本授業は、これまで学習してきた栄養学ならびに解剖・生理学を基礎に、栄養摂取および栄養代謝と、生体の生理機能ならびに疾病との関経連を学習する。特に生活習慣に関連した患者の病因・病態における栄養の役割について重点的に取りあげる。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	将来、医療・介護および健康管理に従事する栄養士および管理栄養士に必要な知識を身につけるとともに、各種患者の病因・病態の基礎的な医学知識を習得する。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>医療・介護および健康管理に従事する専門職として、病態を理解した上で、疾病に対する食事療法と栄養管理を説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>全人的医療を基に専門職として役割を果たせるように、必要最低限の病態栄養の説明ができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	医療・介護および健康管理に従事する専門職として、病態を理解した上で、疾病に対する食事療法と栄養管理を説明できる。		情意的領域	全人的医療を基に専門職として役割を果たせるように、必要最低限の病態栄養の説明ができる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	医療・介護および健康管理に従事する専門職として、病態を理解した上で、疾病に対する食事療法と栄養管理を説明できる。																					
	情意的領域	全人的医療を基に専門職として役割を果たせるように、必要最低限の病態栄養の説明ができる。																					
	技能表現的領域																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>医療・介護および健康管理に従事する専門職として、病態の知識を持った上で食事療法と栄養管理を理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>全人的医療を基に専門職として役割を果たせるように、栄養管理が疾病の予防や重症化予防に役立つことを理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	医療・介護および健康管理に従事する専門職として、病態の知識を持った上で食事療法と栄養管理を理解する。		情意的領域	全人的医療を基に専門職として役割を果たせるように、栄養管理が疾病の予防や重症化予防に役立つことを理解する。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	医療・介護および健康管理に従事する専門職として、病態の知識を持った上で食事療法と栄養管理を理解する。																					
	情意的領域	全人的医療を基に専門職として役割を果たせるように、栄養管理が疾病の予防や重症化予防に役立つことを理解する。																					
	技能表現的領域																						

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
医療・介護および健康管理に従事する専門職として、病態の知識を持った上で食事療法と栄養管理を理解する	病態の知識を持った上で、非常に高いレベルの食事療法と栄養管理を理解している。	病態の知識を持った上で、高いレベルの食事療法と栄養管理を理解している。	病態の知識を持った上で、食事療法と栄養管理をおおむね理解している。	病態の知識を持った上で、食事療法と栄養管理を最低限理解している。	病態および食事療法と栄養管理の理解が不十分。
全人的医療を基に専門職として役割を果たせるように、栄養管理が疾病の予防や重症化予防に役立つことを理解する	全人的医療を基に専門職として役割を果たせるように、非常に高いレベルの病態栄養の説明ができる。	全人的医療を基に専門職として役割を果たせるように、高いレベルの病態栄養の説明ができる。	全人的医療を基に専門職として役割を果たせるように、病態栄養をおおむね説明ができる。	全人的医療を基に専門職として役割を果たせるように、病態栄養を最低限説明ができる。	専門職の役割および病態栄養の理解が不十分

ルーブリック

授業計画（全体）

下記の授業計画に沿って、教科書ならびに教員が用意する関連資料を用いて講義を行う。特に病態と栄養管理の関連を学び、医療・介護施設における給食管理に必要な食事療法の理解と栄養アセスメントと栄養管理の技術を習得することが目的である。

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	臨床栄養学概念、医療従事者としての栄養士・管理栄養士の役割を示し、栄養ケアマネジメントを学習する。		シラバスを読んでおくこと	4時間
2.	代謝疾患（1）メタボリックシンドローム・肥満症	メタボリックシンドロームおよび肥満症の概要、病因、病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。		解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
3.	代謝疾患（2）脂質異常症と動脈硬化症	脂質異常症および動脈硬化症の概要、病因、病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。		解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
4.	代謝疾患（3）先天性代謝異常と糖尿病	先天性代謝異常および糖尿病の概要、病因、病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。		解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
5.	代謝疾患（3）糖尿病	糖尿病治療に用いる薬剤と薬剤の機序に基づいて栄養生理を理解する。		解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
6.	消火器疾患（1）急性肝炎・慢性肝炎	肝機能および栄養代謝を復習する。急性肝炎および慢性肝炎の概要、病因、病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。		解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
7.	消火器疾患（2）脂肪肝・肝硬変	脂肪肝および肝硬変の概要、病因、病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。		解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
8.	消火器疾患（3）胆石症・胆のう炎	胆石症および胆のう炎の概要、病因、病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。		解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
9.	骨粗鬆症	骨粗鬆症の概要、病因、病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。		解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
10.	消化管疾患（4）胃・十二指腸潰瘍	胃・十二指腸潰瘍の概要、病因、病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。		解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間

11.	消化管疾患（5）胃・十二指腸潰瘍、胃摘出後の栄養食事管理	胃・十二指腸潰瘍と胃摘出後の栄養モニタリング。早期および後期ダンピング症候群の食事栄養管理。		解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
12.	消化管疾患（5）炎症性腸疾患	潰瘍性大腸炎およびクローン病の概要、病因、病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。		解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
13.	循環器疾患（1）高血圧症・虚血性心疾患	高血圧症および虚血性心疾患の概要、病因、病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。		解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
14.	腎疾患（1）	腎臓の生理と病態栄養、腎疾患の症状、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群の病態と病因を理解する。		解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
15.	腎疾患（2）糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病、腎不全	各腎疾患の病因および病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。		解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	・試験は、学生自身が模擬問題を見直し、解答の正誤を確認する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験	○	○	○	100%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	適宜、提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・本科目は生理学・解剖生理学との関連が強いため、関連科目の知識を深めることが要求される。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件) 				
関連科目	解剖生理学				
関連資格	栄養士				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	臨床栄養学	本田佳子	中山書店		
	糖尿病食事療法のための食品交換表	日本糖尿病協会	文光堂		978-4-8306-6046-7
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	病気がみえるシリーズ		MEDIC MEDIA		978-4-89632-324-5
オフィス アワー	全期：水曜3時限				
GCR	ffu6pr3				
その他	真野研究室：F棟2階				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
543030	S-SMM031J-01	スポーツとマスメディア																					
科目名(英字)	Sport and Massmedia																						
学科	体育学科			学年	3年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	日下 三男			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	新聞社で記者経験を有する																						
授業の概要	スポーツとマスメディアの関係を、歴史や実例に基づき多角的な観点から講義する。実務経験を活かし、折に触れてスポーツに絡む時事ニュースについても背景と真相を説く。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	メディアが報じるスポーツの記事や番組が、どこに力点を置いて作られているかを考察する。その過程を知ることによってスポーツとメディアの関係性について理解を深める。同時にスポーツ報道にどう接したらいいかを考えるようになり、徐々にメディアリテラシーを身に付ける。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>メディアとスポーツの関係性を知り、社会に及ぼす影響を深堀りする</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>スポーツ報道全般のなかで記事の良し悪しを判断する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>スポーツ振興を考えてより良いスポーツ報道を提言する</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	メディアとスポーツの関係性を知り、社会に及ぼす影響を深堀りする		情意的領域	スポーツ報道全般のなかで記事の良し悪しを判断する		技能表現的領域	スポーツ振興を考えてより良いスポーツ報道を提言する						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	メディアとスポーツの関係性を知り、社会に及ぼす影響を深堀りする																					
	情意的領域	スポーツ報道全般のなかで記事の良し悪しを判断する																					
	技能表現的領域	スポーツ振興を考えてより良いスポーツ報道を提言する																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>メディア全体の概要、その置かれた状況を学ぶ。特にスポーツを伝えるメディアの特性を理解できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>スポーツによる感動をメディアはどう伝えるていのかを考えられる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>授業内レポートの作成で、メディアの伝える技術を実際に身に付ける。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	メディア全体の概要、その置かれた状況を学ぶ。特にスポーツを伝えるメディアの特性を理解できる。		情意的領域	スポーツによる感動をメディアはどう伝えるていのかを考えられる。		技能表現的領域	授業内レポートの作成で、メディアの伝える技術を実際に身に付ける。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	メディア全体の概要、その置かれた状況を学ぶ。特にスポーツを伝えるメディアの特性を理解できる。																					
	情意的領域	スポーツによる感動をメディアはどう伝えるていのかを考えられる。																					
	技能表現的領域	授業内レポートの作成で、メディアの伝える技術を実際に身に付ける。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
メディアとスポーツの関係性	メディアとスポーツの特性を深く知り、その強い結びつきを理解するとともにあるべき姿を提言できる	メディアとスポーツの特性を知り、その強い結びつきを理解できる	メディアとスポーツの関係性を理解できる	メディアとスポーツの関係性にある程度関心を持つが、理解力がやや不足	メディアとスポーツの特性が理解できていない
スポーツの感動	スポーツの感動をメディアから十分読み取り、内容を第三者に伝えられる	スポーツの感動をメディアから十分に読み取れる	スポーツの感動をメディアの役割であることを理解できる	スポーツ報道における感動がある程度は受け止められる	スポーツの感動をメディアから読み取れない
スポーツの振興	スポーツの振興に向けて報道の良し悪しを理解し実際に発信できる	スポーツ振興に向けて報道の仕方を理解し実際にできる	報道の仕方を理解できる	報道の仕方は分かるが、実際にできない	報道の仕方が理解不十分で実際にできない

ループリク

授業計画（全体）	各回ごとにテーマを設定し講義する。これらのテーマは授業概要に記した大きなテーマと目的に応じて具体化した内容になっている。授業は新聞の紙面やテレビ報道を示しながら、メディアとスポーツのかかわりを深く掘り下げる。
----------	--

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	何を学ぶか	メディアとスポーツの密接な関係性と学ぶ意義を説明する。		図書館などで新聞やテレビ、雑誌のスポーツ報道に接する。	4時間
2.	メディアとは何か	マスメディアが置かれている現在の状況を説明するなかで、メディアとスポーツのかかわりを示す。		新聞やテレビの報道に日頃から接し、それぞれの特徴を知る。	4時間
3.	ヒーローの形成	力道山、長嶋茂雄、円谷幸吉、イチローらのヒーローはいかにして生まれたか。メディアの果たした役割を考える。		一般紙、スポーツ紙を読み比べする。	4時間
4.	メガイイベントとメディア	五輪やW杯サッカーに代表されるビッグ大会にメディアはどう関わっているのかを探る。		テレビのスポーツ中継の成り立ちを調べる。	4時間
5.	スポーツの産業化とマスメディアの発達	「ゴールデン・カップル」の誕生を、歴史をさかのぼって考える。		図書館でメディアとスポーツあるいはスポーツ報道の関係書物を探す。	4時間
6.	スポーツイベントと広告	スポーツの世界において広告の果たす役割を説明する。		スポーツ関係の有名キャッチコピーを調べる。	4時間
7.	伝統競技とメディア	日本スポーツ界において独特な歩みをみせる大相撲はどのようにして生まれたのか。メディア対応からひも解く。		大相撲関係のニュースをピックアップする。	4時間
8.	物語ジャーナリズムとは何か	メディアは「物語」「ドラマ」でスポーツを語ろうとする特徴がある。その功罪を説明する。		日頃のスポーツ報道から「物語」を探す。	4時間
9.	海外のスポーツ報道	米国や欧州のメディアはスポーツをどのように伝えているのか。日本とのスタンスの違いを考え、そして確認する。		海外の代表的なスポーツ関係のメディアを調べておく。	4時間
10.	スポーツ報道とジェンダー	女性アスリートや障害者をメディアはどう報じているかを検証し課題を説明する。		メディアにおける女性アスリートの伝え方を調べる。	4時間

11.	スポーツと芸術	スポーツと芸術は密接なかかわりを持つ。映画、文学、詩などの分野から優れた作品を鑑賞し関係性を考える。	スポーツ関係の芸術作品に接する。	4時間
12.	スポーツとAI	メディアはスポーツ報道でAI導入を進めている。メディア、そしてスポーツは新しい技術によってどう変わろうとしているのかを説明する。	これまでの講義内容を復習し最終レポートにつなげる。	4時間
13.	勝者と敗者の視点	力道山vs木村政彦の一戦などをビデオ鑑賞させ、勝者と敗者それぞれの立場から「戦評」を書かせる。	地方紙、全国紙の書き方の違いを学んでおく。	4時間
14.	ステレオタイプの報道	スポーツの持つ芳醇な世界観を矮小化する動きとして「画一的な見方」による報道があることを説明し、「メディアの危機」も考えさせる。	「メディアの危機」の意味を下調べする。	4時間
15.	まとめ	これまでの学修内容を総括する。	授業各回のポイントを整理してくる。テストに向けて予習復習する。	4時間
16.				
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				
23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				

成績評価方法 (方針)	出席状況と授業内レポートを加味し、定期試験(評価割合90%)の結果で総合評価する。提出されたレポートは(授業内で)解説しながら返却する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				90%
	授業内レポート				10%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度	○	○	○	減点対象
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	授業で課したレポートは相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	私語厳禁。				
関連科目	メディア関係科目				
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	現代スポーツを読む	佐伯年詩雄	世界思想社	2006	
	スポーツ雑誌のメディア史	佐藤彰宣	勉誠出版	2018	
	近代スポーツ批判	中村敬雄	三省堂	1977	
オフィス アワー	研究室 5 体3F35 木曜10:20~11:50				
GCR	j4wgfz4				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
152090	M-CSS321J-04	応用武道護衛																					
科目名(英字)	Guard of applied martial arts																						
学科	現代武道学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	荒木 貞義 / 岩淵 孝二			開講の別	同時開講																		
実務経験の有無	皇宮護衛官、警察官の実務経験を有する。																						
授業の概要	皇宮護衛官、警察官の実務経験を活かし、天皇、皇族及び総理大臣等の要人の身辺護衛について、その歴史的背景や過去の事例、根拠、限界等について概説するほか、身辺護衛に必要な運動能力と術技等を体験させ、武道の応用展開をもたらす意義と効果、さらに、公共の安全と秩序の維持に従事する警察等の意義と重要性について解説する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	皇宮護衛官、警察官が、身辺護衛の対象を守り、公共の安全と秩序を維持するために必要とされる知識と運動能力及び術技等を、段階をおって理解し修得する。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>身辺護衛に関する基礎的な知識、技能を理解し説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>身辺護衛における基本的な対応を理解し、公共の安全と秩序維持に寄与できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>身辺護衛に従事する警察官等に、必要とされる基本的な術技を実践できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	身辺護衛に関する基礎的な知識、技能を理解し説明できる。		情意的領域	身辺護衛における基本的な対応を理解し、公共の安全と秩序維持に寄与できる。		技能表現的領域	身辺護衛に従事する警察官等に、必要とされる基本的な術技を実践できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	身辺護衛に関する基礎的な知識、技能を理解し説明できる。																					
	情意的領域	身辺護衛における基本的な対応を理解し、公共の安全と秩序維持に寄与できる。																					
	技能表現的領域	身辺護衛に従事する警察官等に、必要とされる基本的な術技を実践できる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>身辺護衛の意義、目的、法的根拠、重要性及び必要な運動能力と術技を理解し、解説できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>武道が身辺護衛の術技に応用され、公共の安全と秩序の維持の礎になっていることを理解し、説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>身辺護衛に従事する警察官等に必要とされる術技を理解し、基本的な技の施術ができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	身辺護衛の意義、目的、法的根拠、重要性及び必要な運動能力と術技を理解し、解説できる。		情意的領域	武道が身辺護衛の術技に応用され、公共の安全と秩序の維持の礎になっていることを理解し、説明できる。		技能表現的領域	身辺護衛に従事する警察官等に必要とされる術技を理解し、基本的な技の施術ができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	身辺護衛の意義、目的、法的根拠、重要性及び必要な運動能力と術技を理解し、解説できる。																					
	情意的領域	武道が身辺護衛の術技に応用され、公共の安全と秩序の維持の礎になっていることを理解し、説明できる。																					
	技能表現的領域	身辺護衛に従事する警察官等に必要とされる術技を理解し、基本的な技の施術ができる。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
身辺護衛に関する基礎的な事項を理解している。	基礎的な事項を、十分理解している。	基礎的な事項を、理解している。	基礎的な事項を、ほとんど理解している。	最低限の基礎的な事項を、りかいしている。	基礎的な事項を、理解していない。
術技習得に関する論理的な思考や状況判断ができる。	基本的な術技を、十分実践することができる。	基本的な術技を、実践することができる。	事本的な術技を、概ね実践できる。	最低限の基本的な術技を、実践することができる。	基本的な術技を、実践できない。
積極的に授業に参加できる。	授業に積極的に参加できる。指示された課題に、創造性を持って取り組める。	授業に積極的に参加できる。指示された課題に、適切に取り組める。	授業に積極的に参加できる。指示された課題に、ある程度適切に取り組める。	授業に積極的に参加し、指示された課題に、最低限取り組める。	授業に積極的に参加できず、指示された課題に、最低限取り組めない。
授業計画（全体）	配布資料を中心とする講義、並びに「護衛術技」「実戦実技演習」等の体験等により、実践形式の授業を進める。				

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	授業の目的及び概要の解説、授業の進め方と評価方法について解説する。		シラバスを熟読すること。	4時間
2.	護衛の意義目的と歴史及び対象	警察業務の警衛及び警護の意義目的と歴史及び法的根拠を解説するとともに、警察の組織機構と警護対象との比較を概説する。		護衛について調べておく。	4時間
3.	護衛に関わる過去の事例研究と皇室行事	警衛及び警護における歴史的に著名な事件を列挙、問題点等を解説するとともに、皇室行事の事例等について概説する。		配布資料を復習する。	4時間
4.	一般社会における防護活動の手法と限界	一般社会における身辺の安全・安心確保の対応手法と事例検討及び法的根拠、限界を概説する。		一般社会における防護活動について調べておく。	4時間
5.	試験	第 - 回までの授業の理解の程度を判定する。		試験対策して臨むこと。	4時間
6.	警衛・警護に必要な運動能力と体力の強化	皇宮護衛官、警察官が警衛・警護に従事するために必要とされる基礎体力と運動能力等を体験して、その概念と必要性及び鍛錬方法を修得する。		事前トレーニングをしておく。	4時間
7.	警衛・警護時の制圧・逮捕要領の体験と実践	暴漢等の制圧逮捕に必要な術技能力を解説し、警衛・警護における防護技の要領を体験、修得する。		授業内容を復習する。	4時間
8.	護衛術技	要人に接近しようとする者の制止・排除の術技を解説して、前方から接近する者への排除要領等を体験、修得する。		授業内容を復習する。	4時間
9.	護衛術技	要人へ接近しようとする者の制止・排除の術技を解説して、背後から接近する者への排除要領等を体験、修得する。		授業内容を復習する。	4時間
10.	護衛術技	要人へ駆け足で接近する等、緊急性の高い場合の制止・排除の術技を解説して、「タックル」等の要領を体験、修得する。		授業内容を復習する。	4時間

11.	護衛術技	要人に凶器を所持し、危害目的で接近する者の制止・排除の術技を解説して、「タックル」、「突き倒し」等の要領を体験、修得する。		授業内容を復習する。	4時間
12.	護衛実戦実技演習	要人が徒歩移動中における送迎者列からの接近、襲撃に対する位置取り、及び単独・複数による防禦体制を体験、修得する。		授業内容を復習する。	4時間
13.	護衛実戦実技演習	要人の車両移動及び乗降時における接近、襲撃等に対する防禦体制を体験、修得する。		授業内容を復習する。	4時間
14.	護衛実戦実技演習	想定による要人防禦計画の策定と実践方法を体験、修得する。		授業内容を復習する。	4時間
15.	試験	第 - 回までの授業の理解の程度を判定する。		試験対策をして臨むこと。	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	授業内容の筆記試験・実技試験及び術技の習熟度、授業態度で総合評価する。ただし、出席回数2/3以下の場合は、成績評価対象外とする。評価結果については、試験終了後に解説、質疑応答を行い確認する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験			○	40%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				40%
	授業態度	○		○	20%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポート実施する場合は、授業内で指示する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・実技授業は、相対動作が多いことから、柔道着を着用し、時計等の貴金属類を外すこと。 ・実技授業中の不注意による受傷事故防止と実技技能向上に伴う乱用、授業外での悪用の防止を徹底すること。 				
関連科目	応用武道実技 応用武道実技				
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	安全安心の礎	伊藤重孝	仙台大学出版		
オフィス アワー	火曜日10:30~12:00				
GCR	yduo36s				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
511020	S-ESN221J-01	スポーツ栄養学																					
科目名(英字)	Sport Nutrition																						
学科	体育学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	真野 芳彦 / 平良 拓也			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	アスリートへのスポーツ栄養活動の実務経験有する																						
授業の概要	運動と栄養について基礎的な理論の解説、および競技力向上や健康の保持増進のためのトレーニング(運動)・栄養(食事)・休養の組み合わせ方と食べ方について講義する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	競技力向上や健康の保持増進のためのトレーニング(運動)・栄養(食事)・休養の組み合わせ方やその食べ方について理解できる。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>スポーツ・運動と栄養についての係りに関する基礎および応用知識を理解している。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>「運動・栄養・休養」を基本とした競技力向上や健康増進のプログラムの運営に役立てることを意識できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>授業目標を意識して、スポーツと栄養を学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	スポーツ・運動と栄養についての係りに関する基礎および応用知識を理解している。		情意的領域	「運動・栄養・休養」を基本とした競技力向上や健康増進のプログラムの運営に役立てることを意識できる。		技能表現的領域	授業目標を意識して、スポーツと栄養を学ぶ。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	スポーツ・運動と栄養についての係りに関する基礎および応用知識を理解している。																					
	情意的領域	「運動・栄養・休養」を基本とした競技力向上や健康増進のプログラムの運営に役立てることを意識できる。																					
	技能表現的領域	授業目標を意識して、スポーツと栄養を学ぶ。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>スポーツ・運動と栄養についての係りに関する知識を習得することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>「運動・栄養・休養」を基本とした競技力向上や健康増進のプログラムの運営に役立つこと意識して取り組むことができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>授業目標を意識して積極的に授業に参加し、スポーツと栄養に関して主体的に学ぶことができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	スポーツ・運動と栄養についての係りに関する知識を習得することができる。		情意的領域	「運動・栄養・休養」を基本とした競技力向上や健康増進のプログラムの運営に役立つこと意識して取り組むことができる。		技能表現的領域	授業目標を意識して積極的に授業に参加し、スポーツと栄養に関して主体的に学ぶことができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	スポーツ・運動と栄養についての係りに関する知識を習得することができる。																					
	情意的領域	「運動・栄養・休養」を基本とした競技力向上や健康増進のプログラムの運営に役立つこと意識して取り組むことができる。																					
	技能表現的領域	授業目標を意識して積極的に授業に参加し、スポーツと栄養に関して主体的に学ぶことができる。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
知識を理解している	知識を十分に理解した上で、他人に説明することができ、さらに評価することができる。	基礎および応用知識を十分に理解しながら、分析をすることができる。	基礎および応用知識を様々な場面で応用することができる。	最低限の基礎知識を理解している。	知識を理解していない。
競技力向上や健康増進のプログラムの運営に役立てることを意識できる。	非常に高いレベルで意識的に取り組むことができる。	高いレベルで意識的に取り組むことができる。	意識的に取り組むことができる。	最低限の意識的をもって取り組むことができる。	意識的な取り組みが出来ない。
積極的に授業に参加できる。	授業目標を意識して積極的に授業に参加し、主体的に学ぶことができる。	授業目標を意識して積極的に授業に参加することができる。	授業目標を意識してある程度、授業に参加することができる。	授業目標を意識して授業に参加することができる。	授業目標を意識して授業に参加することができない。

ルーブリック

授業計画（全体）

教員が用意する関連情報や知見を基にPower Pointを用いて授業を進め、必要に応じて資料を配布する。毎回の授業は、原則として授業課題についての基礎知識、応用知識、実践(演習)の形式で進める。また、導入時に授業課題にとらわれず、将来の栄養等の指導に役立つように、スポーツ、健康、食事・栄養に関係する最近の話題をニュース等からピックアップして紹介することがある。

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション、スポーツと栄養について	担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明、スポーツ・運動時の栄養学とは何かを理解する。（真野・平良）		シラバスを熟読しておくこと	4時間
2.	トレーニングにおける栄養素の役割（トレーニングと糖質）	スポーツ・運動時の糖代謝について理解する。（平良）		書き写したノートを復習しておくこと。	4時間
3.	トレーニングにおける栄養素の役割（トレーニングと脂質）	スポーツ・運動時の脂質代謝について理解する。（平良）		書き写したノートを復習しておくこと。	4時間
4.	トレーニングにおける栄養素の役割（トレーニングとタンパク質）	スポーツ・運動時のタンパク質代謝について理解する。（平良）		書き写したノートを復習しておくこと。	4時間
5.	トレーニングにおける栄養素の役割（トレーニングとビタミン・ミネラル）	スポーツ・運動時のビタミン・ミネラル代謝について理解する。（平良）		書き写したノートを復習しておくこと。	4時間
6.	基礎体力を高める食事	基礎体力を高めるために必要な食事量を理解する。（平良）		書き写したノートを復習しておくこと。	4時間
7.	基礎体力を高める食事	基礎体力を高めるために必要な栄養バランスについて理解する。（平良）		書き写したノートを復習しておくこと。	4時間
8.	中間テスト	授業の理解度・到達度を確かめるために中間テストを行う（平良）		テストに備えて復習をすること	4時間
9.	スポーツ選手の栄養管理の実践	運動中のエネルギー基質を理解する。（真野）		模擬問題を復習すること	4時間
10.	スポーツ選手の栄養管理の実践	糖質の特徴と利用方法（真野）		模擬問題を復習すること	4時間

11.	スポーツ選手の栄養管理の実践	アスリートへの糖質制限食の応用（真野）		授業内で紹介した引用文献を調べる。	4時間
12.	スポーツ選手の栄養管理の実践	持久力向上と糖代謝の関係、エイコサペンタエン酸の生理作用（真野）		授業内で紹介した引用文献を調べる。	4時間
13.	スポーツ選手の栄養管理の実践	脂質の利用方法とたんぱく質の至適摂取量、至適吸収量、摂取バランスについて考える（真野）		授業内で紹介した引用文献を調べる。	4時間
14.	スポーツ選手の栄養管理の実践	酸化ストレスとコンディショニング（真野）		模擬問題を復習すること	4時間
15.	まとめ（スポーツと栄養について）	免疫と栄養（真野）		模擬問題を復習すること	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	<ul style="list-style-type: none"> 試験については(授業内で)解説をしながら返却する。 試験の正解は学生自身が模擬問題と授業内容を見直して確認する。 				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				100%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度		○		減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	<ul style="list-style-type: none"> 適宜、提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。 				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> 学則に示された出席数に満たない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。 授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。 授業進行の妨げとなるので、遅刻は厳禁とする。 原則として運動生理学、運動生化学は履修済みのこと。 				
関連科目	健康と栄養・食事、運動生理学、運動生化学				
関連資格	レクリエーション・コーディネーター、健康運動指導士、健康運動実践指導者、トレーナー資格関係				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	スポーツ栄養学：トレーニングの基礎と栄養管理の実践	岩田純	アイ・ケイコーポレーション	2022	978-4874923832
	適宜資料配布				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	なし				
オフィス アワー	真野：全期水3コマ、平良：金2コマ				
GCR	aenefxp				
その他	真野研究室：F棟2階、平良研究室：D棟1階 前半の担当は「平良」、後半の担当は「真野」です。後半では教科書を使用しません。				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
141080	I-SIM222J-01	映像基礎（演習）																					
科目名(英字)	Basic Editing Analysis for Imagry Intelligences																						
学科	スポーツ情報メディア学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	演習		単位数	2																	
担当教員	藤本 晋也			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	日本代表サポートチームや競技団体での情報戦略（映像）活動の実務経験を有する																						
授業の概要	ビデオカメラや映像編集機器といったIT関連機器の普及は、スポーツ活動現場においても顕著であり、コーチングやプロモーションなど、さまざまな場面で欠かせないものとなっている。この状況に伴い、撮影を専門的に行なうスタッフのニーズも高まってきている。本演習では、実務経験を活かしてスポーツ情報を効果的に伝えるために必要な「映像の基礎と撮影の観点や方法」について演習形式で授業を展開する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	基本的なスポーツ活動での映像の種類やその特性を学ぶとともに、映像（スポーツ情報）に対する現場のニーズを把握する。その上で状況に応じた適切な映像（スポーツ情報）を効果的に伝えることができるようになるために、映像の基礎と撮影の観点や方法を体系的かつ実践的に学ぶことで、現場のニーズに対応できる情報アプローチの観点とスキルを身につける。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>スポーツ現場における映像活用の現状を説明でき、競技に即した映像が果たす役割やその特徴を具体的に例を示しながら説明することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>映像提供対象の視点に立ち、その対象に対してどのような効果が出れば成功かを考えられる。映像を用いた情報を効果的に伝えることができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>映像撮影の観点や編集に必要な基礎的スキルを身につけ、場面に応じた機器の選択・活用することができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	スポーツ現場における映像活用の現状を説明でき、競技に即した映像が果たす役割やその特徴を具体的に例を示しながら説明することができる。		情意的領域	映像提供対象の視点に立ち、その対象に対してどのような効果が出れば成功かを考えられる。映像を用いた情報を効果的に伝えることができる。		技能表現的領域	映像撮影の観点や編集に必要な基礎的スキルを身につけ、場面に応じた機器の選択・活用することができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	スポーツ現場における映像活用の現状を説明でき、競技に即した映像が果たす役割やその特徴を具体的に例を示しながら説明することができる。																					
	情意的領域	映像提供対象の視点に立ち、その対象に対してどのような効果が出れば成功かを考えられる。映像を用いた情報を効果的に伝えることができる。																					
	技能表現的領域	映像撮影の観点や編集に必要な基礎的スキルを身につけ、場面に応じた機器の選択・活用することができる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>スポーツ現場における映像活用の現状を説明できる。映像が果たす役割やその特徴を説明することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>映像提供対象の視点に立つことができ、その対象に対してどのような効果が出れば成功かを考えられる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>映像撮影の観点や編集に必要な基礎的スキルを身につける。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	スポーツ現場における映像活用の現状を説明できる。映像が果たす役割やその特徴を説明することができる。		情意的領域	映像提供対象の視点に立つことができ、その対象に対してどのような効果が出れば成功かを考えられる。		技能表現的領域	映像撮影の観点や編集に必要な基礎的スキルを身につける。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	スポーツ現場における映像活用の現状を説明できる。映像が果たす役割やその特徴を説明することができる。																					
	情意的領域	映像提供対象の視点に立つことができ、その対象に対してどのような効果が出れば成功かを考えられる。																					
	技能表現的領域	映像撮影の観点や編集に必要な基礎的スキルを身につける。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
知識の再生や知的技能の発達について	競技の映像活用の現状を説明できるだけでなく、映像に関わる最新技術がスポーツどのように影響するかについて私見も含め説明することができる。	スポーツ現場における映像活用の現状を説明でき、競技に即した映像が果たす役割やその特徴を具体的に例を示しながら説明することができる。	スポーツに映像がもたらす効果を理解し、効果的に提供することが出来る。	スポーツ現場における映像活用の現状を説明できる。映像が果たす役割やその特徴を説明することができる。	映像活用の現状を把握できておらず、映像が果たす役割やその特徴を説明することができない。
興味・態度・価値観の変容、適応力	映像提供対象の視点に立ち、その対象に対してどのような効果が出れば成功かを考えられる。映像を用いた情報を効果的に伝えることができる。	映像提供対象の視点に立ち、その対象に対してどのような効果が出れば成功かを考えられる。映像を用いた情報を効果的に伝えることができる。	基本的編集作業はでき映像を作成することはできる。また製作者本位の考え方はなく、効果的に情報を伝える工夫や態度がみられる。	映像提供対象の視点に立つことができ、その対象に対してどのような効果が出れば成功かを考えられる。	映像編集ができず、課題に該当する映像を作成することができない。
運動技能や操作技能	映像撮影の観点や編集のための基礎的スキルを使って映像を作成できる。また、コンセプトに基づき、計画を立て、映像素材を選択し編集することができる。	映像撮影の観点や編集に必要な基礎的スキルを身につけ、場面に応じた機器の選択・活用することができる。	基礎的な映像編集はできるが、コンセプトや企画に基づいた計画的な行動を立てることが出来る。	映像撮影の観点や編集に必要な基礎的スキルをつける。	基礎的編集ができないだけでなく、作成しようとする映像についてのコンセプトを立てることができない。
授業計画（全体）	日本代表チームやナショナルチームでの情報戦略活動などトップスポーツ現場による実務経験を活かし、情報を効果的に伝える観点から講義（演習）を行う。各授業は資料および視聴覚教材を用いた講義を行なう。またスポーツ活動現場のニーズを踏まえた実践的な方法論を学ぶため、各競技団体/チームの事例や現場を活用し、グループワークや実習も行なう。学生は各授業毎に、授業の理解度及び達成度を明らかにするためのフィードバックを小レポート形式で提出する。				

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法		シラバスを熟読すること	4 時間
2.	スポーツにおける映像の果たす役割	スポーツ現場で求められる「映像」とはなにか。なぜそれが求められているのかを考える。		授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4 時間
3.	映像の基礎	映像の種類と特性について学ぶ。		授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4 時間
4.	映像の基礎	映像素材収集（撮影）の観点と方法について学ぶ。		授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4 時間
5.	映像の基礎	映像撮影機器種類と特性について学ぶ		授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4 時間
6.	映像の基礎	映像分析・編集機器の種類と特性について学ぶ。		授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4 時間
7.	映像の基礎	映像素材の管理と利活用について学ぶ。		授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4 時間
8.	映像活用の実例 < 競技現場編 >	コーチングにおける映像の果たす役割と実例		授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4 時間
9.	映像活用の実例 < 競技現場編 >	ミーティング場における映像の果たす役割と実例		授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4 時間
10.	映像活用の実例 < 競技現場編 >	情報戦略活動における映像の果たす役割と実例		授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4 時間

11.	映像活用の実際 <組織活動編>	JOC、JISS会議における映像の果たす役割と実例		授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4時間
12.	映像活用の実際 <組織活動編>	組織的情報後方支援活動における映像の果たす役割と実例		授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4時間
13.	グループ演習 <収集・分析>	グループ毎にテーマと対象を決定し、関連映像の収集と分析を行なう。		課題の撮影・編集と授出題課題について調べ、レポートをまとめる	4時間
14.	グループ演習 <編集>	収集・分析した映像を編集する。		課題の編集作業と授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4時間
15.	グループ演習 <アウトプット>	編集した映像について指定する観点に基づきドキュメンテーション(文書化)するとともに、その内容をプレゼンテーションする。		最終課題映像についてのプレゼンテーションの準備をする	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	評価は、授業時間中および時間外に求められるレポートや提出物に関する評価、1) レポート(50%)、2) 最終ドキュメンテーション(30%)、で行なう。さらに実際に行われた活動に対する評価、3) プレゼンテーション(20%)を行う。出席は、評価割合に加え欠格条件となる。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート				30%
	授業外レポート				30%
	演習・実技				20%
	授業態度				20%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	授業毎及び最終課題等、適宜教員より出題し、科目GCRにてレポートの提出を行い、返却もGCRで行います。その際、個々にコメントする場合と、授業内で全体に解説する場合。また、相互理解のためディスカッション等を行いながら返却する。 レポートは感想文ではなく出題されたテーマに関しての“知識”や“理解度”を示すもので、文書は「である」調を使う。まずは、テーマについて徹底的に調べ、しっかり考えること。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・各受講クラスの担当教員の指示に従い、レポート、ポートフォリオ成果の課題を確実にクリアすること。 ・授業計画は、授業の進度により多少前後することがあります。 ・授業内レポート提出等でメールを使用するので添付ファイルが送受信可能なメールアドレス(学内アドレス及びプライベートアドレス)を用意すること。 				
関連科目	映像実践論、スポーツ情報戦略論実習、スポーツ情報戦略論実習				
関連資格	該当なし				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特に指定しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	授業内で紹介、または参考資料を配布				
オフィス アワー	藤本研究室 F棟2階 月10:20~11:50				
GCR	ux5zu3p				
その他	対面不可の場合、本学のコロナウイルスガイドラインに準拠し感染拡大防止策を講じ原則オンラインで実施。				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
143210	E-CME032J-02	障害児保育																					
科目名(英字)	Care for Children with Disabilities																						
学科	子ども運動教育学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	演習		単位数																		
					2																		
担当教員	渡邊 康男			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	県教育委員会・特別支援教育センターで障害幼児の療育相談・就学相談、教育相談に従事した実経験を有する。																						
授業の概要	人間の一生の中で心身の発達が最も著しいのは乳幼児期であり、障害のある乳幼児は様々な領域で発達の制限や支障が生ずる。さらに療育者である親の精神的な動揺も大きく影響する。ここでは、知的障害や発達障害等の障害のある子供の特性を明らかにし、実務経験を活かし適切な支援の方法等を具体的に解説する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	障害児保育に必要な基礎的知識を身につけるとともに、障害に応じた支援の在り方を考える。プレゼンテーションやグループでの話し合いをとおして、障害のある幼児の育ちと支援について自分なりに考えることができる。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>幼児期にみられる障害(7障害+発達障害)の障害特性をおおむね理解している。障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考えて、説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>障害のある幼児を持つ親や家族の心情を思い、困り感を共有することができ、親との連携の仕方を多面的に捉えて、具体的に考えることができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考えて、具体的な支援の仕方等を説明できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	幼児期にみられる障害(7障害+発達障害)の障害特性をおおむね理解している。障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考えて、説明できる。		情意的領域	障害のある幼児を持つ親や家族の心情を思い、困り感を共有することができ、親との連携の仕方を多面的に捉えて、具体的に考えることができる。		技能表現的領域	障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考えて、具体的な支援の仕方等を説明できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	幼児期にみられる障害(7障害+発達障害)の障害特性をおおむね理解している。障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考えて、説明できる。																					
	情意的領域	障害のある幼児を持つ親や家族の心情を思い、困り感を共有することができ、親との連携の仕方を多面的に捉えて、具体的に考えることができる。																					
	技能表現的領域	障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考えて、具体的な支援の仕方等を説明できる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>幼児期にみられる障害(感覚障害や肢体不自由など)の障害特性をおおむね理解している。障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考えることはできる。他に発表することは難しい。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>障害のある幼児を持つ親や家族の心情を思い、困り感を共有することができる。親や家族との連携の仕方までは考えることが難しい。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考えることはできる。他に発表することは難しい。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	幼児期にみられる障害(感覚障害や肢体不自由など)の障害特性をおおむね理解している。障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考えることはできる。他に発表することは難しい。		情意的領域	障害のある幼児を持つ親や家族の心情を思い、困り感を共有することができる。親や家族との連携の仕方までは考えることが難しい。		技能表現的領域	障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考えることはできる。他に発表することは難しい。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	幼児期にみられる障害(感覚障害や肢体不自由など)の障害特性をおおむね理解している。障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考えることはできる。他に発表することは難しい。																					
	情意的領域	障害のある幼児を持つ親や家族の心情を思い、困り感を共有することができる。親や家族との連携の仕方までは考えることが難しい。																					
	技能表現的領域	障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考えることはできる。他に発表することは難しい。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
幼児にみられる様々な障害についての理解	幼児期にみられる障害(7障害+発達障害)の障害特性をおおむね理解した上で、それぞれの内容について説明することができる。	幼児期にみられる障害(7障害+発達障害)の障害特性をおおむね理解している。	幼児期にみられる発達障害の障害特性をおおむね理解している。	幼児期にみられる障害(感覚障害や肢体不自由など)の障害特性をおおむね理解している。	幼児期にみられる障害(感覚障害や肢体不自由など)の障害特性が理解不十分である。
幼児にみられる障害に応じた支援の仕方についての理解	障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考え、個別の実態に応じた内容について説明できる。	障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考えて、説明できる。	障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考えることができる。	障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考えることは難しい。他に発表することは難しい。	障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考えることが難しい。
障害のある幼児の親や家族の心情についての理解	障害のある幼児を持つ親や家族の心情を思い、困り感を共有することができる。親との連携の仕方を多面的に捉えて、具体的に考えることができる。	障害のある幼児を持つ親や家族の心情を思い、困り感を共有することができる。このことをもとに親との連携の仕方を具体的に考えることができる。	障害のある幼児を持つ親や家族の心情を思い、困り感を共有することができる。親との連携を考えることができる。	障害のある幼児を持つ親や家族の心情を思い、困り感を共有することができる。親や家族との連携の仕方までは考えることが難しい。	障害のある幼児を持つ親や家族の心情を思い、困り感を共有することが難しい。
障害特性に応じた支援の仕方について	障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考えて、具体的な支援の仕方等を説明できる。	障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考えて、具体的な支援の仕方等を説明できる。	障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考えることはできる。	障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考えることは難しい。他に発表することは難しい。	障害に応じた支援の仕方を障害特性をもとに考えることが難しい。
授業計画(全体)	障害のある幼児の障害特性やその支援方法について講義と演習をとおして具体的に学ぶ。幼児にみられる障害やつまづきについて、プレゼンテーションやロールプレイ等で実践する。				

授業計画(各回のテーマ等)

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション 障害児保育の歴史と概念	授業の進め方、評価や等について確認する。障害児保育の歴史やその考え方について		障害のある幼児保育について、自分の考えをまとめておくこと	4時間
2.	障害とはなにかを考える	ICIDHとICFについて、解説する。		国際障害分類と国際生活機能分類について事前に調べておくこと	4時間
3.	障害特性の理解と支援	視覚障害・聴覚障害について		感覚障害について整理してまとめておくこと	4時間
4.	障害特性の理解と支援	知的障害について		知的障害について整理してまとめておくこと	4時間
5.	障害特性の理解と支援	肢体不自由について		肢体不自由について整理してまとめておくこと	4時間
6.	障害特性の理解と支援	LD・ADHDについて		LD・ADHDについて整理してまとめておくこと	4時間
7.	障害特性の理解と支援	自閉症について		自閉症について整理してまとめておくこと	4時間
8.	障害特性の理解と支援	その他の障害について		その他の障害について整理してまとめておくこと	4時間
9.	障害のある幼児のアセスメント	遠城寺式乳幼児分析的発達検査について		考えられる発達検査等について事前に調べておくこと	4時間
10.	成育歴を読む	成育歴から支援を考える。グループごとに検討し発表する。		遠城寺式乳幼児分析的発達検査について復習しておくこと	4時間

11.	成育歴を読む	成育歴から支援を考える。 グループごとに検討し発表する。		遠城寺式乳幼児分析的発達検査 について復習しておくこと	4時間
12.	障害のある幼児の保護者との連携	保健・福祉・医療との連携		保健福祉の窓口について事前に 調べておくこと	4時間
13.	支援方法の工夫	事例を取り上げて、支援の工夫についてグループごとに検討 し発表する。		障害特性と支援・アセスメント について復習しておくこと	4時間
14.	支援方法の工夫	事例を取り上げて、支援の工夫についてグループごとに検討 し発表する。		障害特性と支援・アセスメント について復習しておくこと	4時間
15.	個別の支援計画・学校教育・インクルーシ ブ教育システムについて	個別支援計画の作成や学校教育への連携 インクルーシブ教育システムの構築について		個別支援計画やインクルーシブ 教育システムについて、調べて おくこと	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	授業内のプレゼンテーションやグループワーク(25%)と定期試験(75%)等の結果により総合的に評価する。 試験や授業内レポートは解説しながら返却する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				75
	授業内レポート				
	授業外レポート				
	演習・実技				25
	授業態度				減点アリ
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは解説しながら返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	演習として、グループワーク、プレゼンテーションやディスカッションを多く取り入れるので積極的に考え発言すること。 ・電子黒板やタブレット端末を活用するので、各自安全なusbを準備すること。				
関連科目	乳幼児保育				
関連資格	保育士資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	気になる子どもの保育と育児	村井憲男他	福村出版		
オフィス アワー	教育企画課で確認すること				
GCR	担当教員の指示に従ってGCRに参加してください				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
532100	E-0UE432J-01	子どもの食と栄養																					
科目名(英字)	Children's Diet and Nutrition																						
学科	子ども運動教育学科			学年	3年																		
学期	後期	授業形態	演習		単位数	2																	
担当教員	長橋 雅人 / 久保 佳子			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	社会福祉施設での栄養士実務経験を有する(11~14回を除く)																						
授業の概要	乳幼児期の子どもの発育、発達に適した栄養について学ぶ。児童福祉施設における食育の目的と方法、食物アレルギーなど特別な配慮が必要な子どもへの対応等について学ぶ。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の食事の役割と意義について理解する。 ・子どもの状態に適した栄養上の対応を考えることができる。 ・健やかな子どもの成長を考え食育を計画することができる。 																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>幼少期の発育・発達について理解しており、成長段階に合わせた食事、栄養について栄養学的根拠とともに説明できる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>授業内容について予習・復習を行い、主体的に課題に取り組むことができる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>対象者の発達段階に適した食教育のねらいを設定し、その目標が達成できる教育媒体を作製し実施することができる</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	幼少期の発育・発達について理解しており、成長段階に合わせた食事、栄養について栄養学的根拠とともに説明できる		情意的領域	授業内容について予習・復習を行い、主体的に課題に取り組むことができる		技能表現的領域	対象者の発達段階に適した食教育のねらいを設定し、その目標が達成できる教育媒体を作製し実施することができる						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	幼少期の発育・発達について理解しており、成長段階に合わせた食事、栄養について栄養学的根拠とともに説明できる																					
	情意的領域	授業内容について予習・復習を行い、主体的に課題に取り組むことができる																					
	技能表現的領域	対象者の発達段階に適した食教育のねらいを設定し、その目標が達成できる教育媒体を作製し実施することができる																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>幼少期の発育・発達について理解している</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>課題に取り組むことができる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>教育媒体を作製し実施することができる</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	幼少期の発育・発達について理解している		情意的領域	課題に取り組むことができる		技能表現的領域	教育媒体を作製し実施することができる						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	幼少期の発育・発達について理解している																					
	情意的領域	課題に取り組むことができる																					
	技能表現的領域	教育媒体を作製し実施することができる																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
成長過程や状態に適した栄養について理解できている	幼少期の発育・発達について十分に理解しており、成長段階に合わせた食事、栄養について栄養学的根拠とともに説明できる	幼少期の発育・発達について理解しており、成長段階に合わせた食事、栄養について栄養学的根拠とともに説明できる	幼少期の発育・発達について理解しており、成長段階に合わせた食事、栄養について説明できる	幼少期の発育・発達について理解している	幼少期の発育・発達について理解する必要がある
積極的な態度で授業に参加する	授業内容について予習・復習が定着しており、主体的に課題に取り組むことができる	授業内容について予習・復習を行い、主体的に課題に取り組むことができる	授業内容について予習・復習を行い、課題に取り組むことができる	課題に取り組むことができる	各回の授業内容について予習・復習を行い、課題に取り組む必要がある
教育媒体を用いて食育を計画実施できる	対象者の発達段階に適した食教育のねらいを設定し、その目標が達成できる教育媒体を様々な手法を用いて作製し実施することができる	対象者の発達段階に適した食教育のねらいを設定し、その目標が達成できる教育媒体を作製し実施することができる	食教育のねらいの設定をし、その目標が達成できる教育媒体を作製し実施することができる	教育媒体を作製し実施することができる	対象者の発達段階に適した食教育のねらいを設定し、その目標が達成できる教育媒体を作製する必要がある

ルーブリック

授業計画（全体）

教科書および各種ガイドラインの資料を用いて子どもの栄養について説明し、成長段階や環境、個性に適した食事や食育について学ぶ。調乳操作や食育の計画、媒体の制作を行う。授業の連絡、課題や資料の提示等はGoogleクラスルーム（GCR）を通じて行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション（長橋・久保）	担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法、受講するにあたっての注意事項等		シラバスを読んでおくこと	4
2.	子ども健康と食生活の意義（久保）	子どもの心身の健康と食生活、子どもの食生活の現状と課題について		教科書「子どもの食生活と栄養」について読んでおくこと	4
3.	栄養に関する基本的知識（久保）	栄養の基本的概念、栄養素の種類と機能について		教科書「栄養に関する基礎知識」について読んでおくこと	4
4.	栄養に関する基本的知識（久保）	食事摂取基準の概要と献立作成の考え方、調理の基本について		授業の内容を復習しておくこと	4
5.	子どもの発育・発達と食生活（久保）	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について		教科書「乳児期の食生活」について読んでおくこと	4
6.	子どもの発育・発達と食生活（久保）	幼児期、学童期の心身の発達と食生活、生涯発達と食形成について		教科書「幼児期の食生活」について読んでおくこと	4
7.	食育の基本と内容（久保）	食育における養護と教育の一体性、地域関係機関や職員間の連携、食生活指導及び食を通じた保護者への支援について		教科書「食育」について読んでおくこと	4
8.	食育の計画（久保）	食育の推進施策（主な制度、目標と現状、具体的な取り組み）について		授業の内容を復習しておくこと	4
9.	家庭や児童福祉施設における食事と栄養（久保）	家庭における食事と栄養、児童福祉施設における食事と栄養について		教科書「家庭や児童福祉施設における食生活」について読んでおくこと	4
10.	特別な配慮を要する子どもの食と栄養（久保）	疾病または体調不良の子ども、障がいのある子ども、食物アレルギーをもつ子どもへの対応、宗教食について		教科書「特別な配慮を要する子どもの食と栄養」について読んでおくこと	4

11.	食育の計画（長橋）	食育の計画、媒体の作成		課題に取り組むこと	4
12.	食育の計画（長橋）	食育の計画、媒体の作成		課題に取り組むこと	4
13.	食育の実施と評価（長橋）	制作した食育媒体の発表と評価		課題に取り組むこと	4
14.	食育の実施と評価（長橋）	制作した食育媒体の発表と評価		課題に取り組むこと	4
15.	試験 食育の実施と評価（まとめ） （長橋・久保）	授業の理解度、達成度を確かめるために期末テストを実施する 全体をふりかえる		授業の内容を復習しておくこと	4
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト(評価割合30%)、授業外課題(評価割合30%)、授業態度(20%)、授業内課題(20%)を総合的に評価する。 ・欠席、遅刻(やむを得ない理由を除く)は、授業態度に含まれ、注意しても改善が見られない場合は減点となる。 ・出席回数が2/3未満の場合は成績評価対象外とする。 				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				30%
	授業内レポート	○			20%
	授業外レポート	○			30%
	演習・実技				
	授業態度				20%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	<ul style="list-style-type: none"> ・試験については(授業内で)解説をしながら返却する。 				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・20分以上の遅刻は欠席となる。 ・欠席届は、事前に担当教員に提出こと(根拠書類の添付を求める)。 ・授業計画は、多少前後することがある(その場合は、事前に説明する)。 ・授業内の課題は、指定された期日までに提出すること(提出遅れは減点)。 				
関連科目					
関連資格	保育士				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	子どもの食生活	上田玲子	ななみ書房	2022	978-4-903355-98-6
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	授業の都度、必要な資料を配布する				
オフィス アワー	長橋：木曜1限(D棟2階) <ms-nagahashi@sendai-u.ac.jp> 久保：木曜3限(A棟5階) <ys-kubo@sendai-u.ac.jp>				
GCR	jth6hfk				
その他	オリエンテーションでは履修上の注意事項等重要な説明を行います。必ず出席すること。				

感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
545070	H-CAW321J-01	介護過程																					
科目名(英字)	The process of Nursing care																						
学科	健康福祉学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	演習		単位数																		
					2																		
担当教員	後藤 満枝			開講の別	同時開講																		
実務経験の有無	介護福祉士としての実務経験を有する																						
授業の概要	介護福祉士としての実務経験を活かし、介護の実践現場に求められる介護福祉士養成の観点から演習を運営する。この授業では、介護過程の意義・目的・目標について解説するとともに、実際の事例に基づいた介護計画の立案、実施、評価について講義する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	他科目で学習した知識や技術を統合して、ICFの視点に基づいた介護過程を展開し、介護計画を立案することができる。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>ICFの視点に基づいた介護過程の意義・目的・目標を十分に説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>利用者の視点に立って適切に介護過程を展開できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>事例に基づき、適切に介護過程を展開できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	ICFの視点に基づいた介護過程の意義・目的・目標を十分に説明できる。		情意的領域	利用者の視点に立って適切に介護過程を展開できる。		技能表現的領域	事例に基づき、適切に介護過程を展開できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	ICFの視点に基づいた介護過程の意義・目的・目標を十分に説明できる。																					
	情意的領域	利用者の視点に立って適切に介護過程を展開できる。																					
	技能表現的領域	事例に基づき、適切に介護過程を展開できる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>ICFの視点に基づいた介護過程の意義・目的・目標を説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>利用者の視点に立って介護過程を展開できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>事例に基づき、介護過程を展開できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	ICFの視点に基づいた介護過程の意義・目的・目標を説明できる。		情意的領域	利用者の視点に立って介護過程を展開できる。		技能表現的領域	事例に基づき、介護過程を展開できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	ICFの視点に基づいた介護過程の意義・目的・目標を説明できる。																					
	情意的領域	利用者の視点に立って介護過程を展開できる。																					
	技能表現的領域	事例に基づき、介護過程を展開できる。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
ICFの視点に基づいた介護過程の意義・目的・目標を理解している。	ICFに基づいた介護過程の意義・目的・目標を十分に理解し具体的に人に説明できる。	ICFの視点に基づいた介護過程の意義・目的・目標を十分に説明できる。	ICFに基づいた介護過程の意義・目的・目標の要点を理解し説明できる。	ICFに基づいた介護過程の意義・目的・目標を説明できる。	ICFに基づいた介護過程の意義・目的・目標を理解していない。
利用者の視点に立って介護過程を展開できる。	利用者のニーズに沿って適切に介護過程を展開できる。	利用者の視点に立って適切に介護過程を展開できる。	利用者の視点に立ってほぼ適切に介護過程を展開できる。	利用者の視点に立って介護過程を展開できる。	利用者の視点に立って介護過程を展開することができない。
事例に基づき、介護過程を展開できる。	事例の内容を的確にとらえた上で、適切に介護過程を展開できる。	事例に基づき、適切に介護過程を展開できる。	事例に基づき、ほぼ適切に介護過程を展開できる。	事例に基づき、介護過程を展開できる。	事例に沿った介護過程を展開することができない。

ルーブリック

授業計画（全体）

ICFの視点に基づいた介護過程とは何か、どんな目的があるのかについて解説した後、事例を用いて、利用者の情報収集、アセスメント、介護計画の立案と評価について演習を行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	介護過程の意義・目的・目標について	ICFの視点に基づいた介護過程とは何かについて解説する。		講義内容を授業資料と教科書で整理しておくこと。	4時間
2.	情報収集の方法	ICFの視点に基づいた情報収集の意義と方法について解説する。		情報収集の方法について、授業資料と教科書で整理しておくこと。	4時間
3.	情報収集 1	事例における情報収集の方法について解説する。		情報収集の方法について、授業資料と教科書で整理しておくこと。	4時間
4.	情報収集 2	事例における情報収集の方法について解説する。		情報収集の方法について、授業資料と教科書で整理しておくこと。	4時間
5.	アセスメントとは何か アセスメントの方法 1	ICFの視点に基づいたアセスメントの意義と方法について解説する。		アセスメントの方法について、授業資料と教科書で整理しておくこと。	4時間
6.	アセスメントの方法 2	事例におけるアセスメントの方法と実際について解説する。		アセスメントの方法について、授業資料と教科書で整理しておくこと。	4時間
7.	アセスメントの方法 3	事例におけるアセスメントの方法と実際について解説する。		アセスメントの方法について、授業資料と教科書で整理しておくこと。	4時間
8.	介護計画立案の方法について	介護過程における介護計画の立案について解説する。		介護計画の立案について、授業資料と教科書で整理しておくこと。	4時間
9.	介護計画の立案 1	ICFの視点に基づいた介護計画の立案の方法について解説する。		介護計画の立案方法について、授業資料と教科書で整理しておくこと。	4時間
10.	介護計画の立案 2	ICFの視点に基づいた介護計画の立案の方法について解説する。		介護計画の立案方法について、授業資料と教科書で整理しておくこと。	4時間

11.	介護計画の立案 3	ICFの視点に基づいた介護計画の立案の方法について解説する。		介護計画の立案方法について、授業資料と教科書で整理しておくこと。	4 時間
12.	介護計画の実施と評価	介護計画の実施と評価方法について解説する。		介護計画の実施と評価について、授業資料と教科書で整理しておくこと。	4 時間
13.	介護計画の実施 1	介護計画における実施の方法をロールプレイングを通して学習する。		介護計画の実施と記録について、授業資料と教科書で整理しておくこと。	4 時間
14.	介護計画の実施 2	介護計画における実施の方法をロールプレイングを通して学習する。		介護計画の実施と記録について、授業資料と教科書で整理しておくこと。	4 時間
15.	介護計画の評価	介護計画の評価方法について解説し、実際に介護計画の評価を行う。		介護計画の評価方法について、授業資料と教科書で整理しておくこと。	4 時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	筆記試験と授業内レポートの結果に基づき、総合的に評価する。ただし、授業出席の3分の2以上が前提となる。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				70%
	授業内レポート				30%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				加点・減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートについては授業内で解説しながらフィードバックする。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	・介護過程の授業は、毎回の授業の積み重ねが基本となるため、できるだけ、欠席のないように授業に出席すること。				
関連科目	介護過程、介護過程、介護実習、介護実習				
関連資格	介護福祉士国家試験受験資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新版 介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規	2022	978-4-8058-8398-3
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
オフィス アワー	木曜日 14:20～15:50				
GCR	mxut6un				
その他	後藤研究室：F棟2階202				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名			
131050	S-TRM321J-01 、M-	スポーツトレーナー概論			
科目名(英字)	Introduction to Sports Trainer				
学科	体育学科、現代武道学科、子ども運動教育学科			学年	2年
学期	前期	授業形態	講義	単位数	2
担当教員	小勝 健司 / 竹村 英和 / 山口 貴久			開講の別	オムニバス開講
実務経験の有無	身体能力測定およびアスレティックトレーナー現場での実務経験を有する。				
授業の概要	スポーツトレーナーにとって最も基礎的な内容について、実務経験を活かして具体的な内容を交え講義する。				
DPとの関連性	I	II	III	IV	V
アクティブ・ラーニングについて	課題解決型学習 (PBL)		反転学習	ディスカッション	
	ディベート		グループワーク	プレゼンテーション	
	実習		フィールドワーク		
授業の一般目標	スポーツトレーナーに必要な「トレーニング・栄養・休養」を基本とした運動プログラムの立案、分析、評価やスポーツ傷害の予防、受傷後のケアと管理法について研究するための専門的基礎を身につける。				
授業の履修目標	対象	領域	内容		
		認知的領域	スポーツトレーナーの役割と活動に関する基礎的な知識を十分に理解している。		
		情意的領域	授業目標を意識して積極的に授業に参加することができる。		
		技能表現的領域			
授業の到達目標	対象	領域	内容		
		認知的領域	スポーツトレーナーの役割と活動に関する最低限の基礎的な知識を理解している。		
		情意的領域	授業目標を意識して最低限、授業に参加することができる。		
		技能表現的領域			

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
スポーツトレーナーの役割と活動について理解している。	スポーツトレーナーの役割と活動を十分に理解した上で、他人に説明することができる。	スポーツトレーナーの役割と活動に関する基礎的な知識を十分に理解している。	スポーツトレーナーの役割と活動に関する基礎的な知識をほぼ理解している。	スポーツトレーナーの役割と活動に関する最低限の基礎的な知識を理解している。	スポーツトレーナーの役割と関する知識を理解していない。
スポーツトレーナーに関わる知識について、科学的視点から捉えることができる。	スポーツトレーナーに関わる知識について、科学的視点から捉え他人に説明することができる。	スポーツトレーナーに関わる知識について、科学的視点から十分に捉えることができる。	スポーツトレーナーに関わる知識について、おおむね科学的視点から捉えることができる。	スポーツトレーナーに関わる知識について、最低限の科学的視点から捉えることができる。	スポーツトレーナーに関わる知識について、科学的視点から捉えることができない。
積極的に授業に参加できる。	授業目標を意識して積極的に授業に参加し、主体的に学ぶことができる。	授業目標を意識して積極的に授業に参加することができる。	授業目標を意識してある程度、授業に参加することができる。	授業目標を意識して最低限、授業に参加することができる。	授業目標を意識して授業に参加することができない。
授業計画（全体）	授業テーマに沿った内容について、資料を用いて解説する。授業では主に基本的な理論と実践を取りあげて行う。				

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション/アスレティックトレーナー 以下A T とは（小勝）	授業の目標と進め方、シラバス説明/ JSPOの定めるアスレティックトレーナーについて、歴史、活動、必要な専門領域について解説する		シラバスを熟読すること/ATへの理解を授業資料を基にまとめること	4 時間
2.	ATに求められる資質と役割 業務 （小勝）	A Tに求められる資質と役割 業務 について、解説する。		ATに求められる資質と役割について授業資料を基にまとめること	4 時間
3.	科学的根拠に基づいた運営 検査・測定・評価 （小勝）	ATに求められる科学的根拠に基づいた業務として、メディカルチェックにおける検査・測定を例に解説する。		科学的根拠に基づいた運営について授業資料を基にまとめること	4 時間
4.	科学的根拠に基づいた運営 傷害予防 （小勝）	ATに求められる科学的根拠に基づいたリスク管理について、傷害予防を例に解説する。		科学的根拠に基づいた運営について授業資料を基にまとめること	4 時間
5.	チームにおけるATの役割 救急対応 （山口）	スポーツ医・科学チームの一員として果たすべきATの役割と連携について、救急対応を例に解説する。		チームにおけるATの役割について授業資料を基にまとめること	4 時間
6.	チームにおけるATの役割 リコンディショニング （小勝）	スポーツ医・科学チームの一員として果たすべき役割と連携について、リコンディショニングを例に解説する		チームにおけるATの役割について授業資料を基にまとめること	4 時間
7.	ATとしての健康とリスク管理、コンディショニング（小勝）	ATとして知っておくべき健康管理やリスク（感染症、各種ストレス）、コンディショニングについて、自身とチームの観点から理解を深める。		健康やリスク管理、コンディショニングについて授業資料を基にまとめること	4 時間
8.	A Tの倫理と運営管理（山口）	A Tに必要な倫理および組織運営について解説する。		ATに求められる倫理と組織運営について授業資料を基にまとめること	4 時間
9.	運動と健康・体力増進の関係（竹村）	運動が健康・体力増進に及ぼす影響について説明する。また、パーソナルトレーナーなどの関連資格との関係を併せて説明する		運動と健康・体力増進の関係について資料を基に要約する	4 時間
10.	運動プログラムを作成する際の留意点（竹村）	目的に応じた運動プログラムを作成するための留意点等について説明する		運動プログラム作成の留意点について資料を基に要約する	4 時間

11.	運動・栄養・休養とコンディショニング（竹村）	超回復とコンディショニングの関係について説明する		運動・栄養・休養とコンディショニングについて要約する	4時間
12.	持久力とスポーツパフォーマンス（竹村）	持久力がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について説明する		持久力とスポーツパフォーマンスについて資料を基に要約する	4時間
13.	筋力・筋パワーとスポーツパフォーマンス（竹村）	筋力・筋パワーがスポーツパフォーマンスにおよぼす影響について説明する		筋力・筋パワーとスポーツパフォーマンスについて資料を基に要約する	4時間
14.	調整力・柔軟性とスポーツパフォーマンス（竹村）	調整力（敏捷性・巧緻性・平衡性）や柔軟性がスポーツパフォーマンスにおよぼす影響について説明する		調整力、柔軟性とスポーツパフォーマンスについて資料を基に要約	4時間
15.	発育・発達・老化とスポーツパフォーマンス（竹村）	発育・発達・老化がスポーツパフォーマンスにおよぼす影響について説明する		発育・発達・老化とスポーツパフォーマンスについて資料を基に要約	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	試験の結果に基づき評価する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				80%
	授業内レポート				10%
	授業外レポート				10%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは(授業内で)解説をしながら返却する。 試験の解説は問い合わせに対して個別に対応する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。 ・20分以上の遅刻は、欠席とみなす。 ・授業計画は、授業の進行状況により、多少前後することがある。 ・専門的な内容が含まれるので、関連科目の予習および授業後の復習を行うこと。 				
関連科目	運動生理学、スポーツトレーナー実習/演習、体力相談と運動処方、S&C演習、FTI実習、JSP0-AT必修の各科目				
関連資格	NSCA-CSCS資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
オフィス アワー	小勝：水曜12：40-14：10 第2体育館2階 小勝研究室				
GCR	b2km6gr				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
134200	I-SIM211J-03	文章基礎演習（含実習）																					
科目名(英字)	Basic Writing Skills																						
学科	ｽﾎｰﾂ情報ｽｽﾃﾞｲ学科			学年	1年																		
学期	前期	授業形態	演習		単位数	2																	
担当教員	日下 三男 / 齋藤 長行			開講の別	同時開講																		
実務経験の有無	新聞社で実務経験を有する																						
授業の概要	記事の書き方を含め文章作成の基礎能力養成を中心に指導する。メディアリテラシーの観点から、媒体や文体が異なると、情報の伝わり方にどのような変化が生じるのかも解説し、「文章」の理解度を深める。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	記事作成の基本原則である5W1Hと逆三角形の書き方をしっかりと身に付ける。各授業のテーマごとに記事の作成練習をし、やがては論文執筆にも通じる「取材」「調査」の必要性を感じ取る。「書く」だけでなく、裏表の関係にある「読む」にも力点を置いて学ぶ。主に新聞が教材となる。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>新聞記事を教材として活字に親しむ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>各種記事を読み、読解力を養う</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>実際に記事を書き、表現力を磨く</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	新聞記事を教材として活字に親しむ		情意的領域	各種記事を読み、読解力を養う		技能表現的領域	実際に記事を書き、表現力を磨く						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	新聞記事を教材として活字に親しむ																					
	情意的領域	各種記事を読み、読解力を養う																					
	技能表現的領域	実際に記事を書き、表現力を磨く																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>記事の書き方の基本、ほかの文体との違いを理解できるようになる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>客観性、中立性など取材と記事作成の原則を理解できるようになる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>簡潔な文章と記事が書けるようになる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	記事の書き方の基本、ほかの文体との違いを理解できるようになる。		情意的領域	客観性、中立性など取材と記事作成の原則を理解できるようになる。		技能表現的領域	簡潔な文章と記事が書けるようになる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	記事の書き方の基本、ほかの文体との違いを理解できるようになる。																					
	情意的領域	客観性、中立性など取材と記事作成の原則を理解できるようになる。																					
	技能表現的領域	簡潔な文章と記事が書けるようになる。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
編集力	人に伝わる文章にするために工夫を凝らして書ける	記事執筆の基本を知ルール	比喻を用いながら5W1Hに沿った文章を書ける	記事執筆の基本は理解したが、修得が不十分	記事執筆の基本が身に付かない
客観性と主観の表現	客観、主観の違いを十分理解しながら文章を書ける	報道の客観性、中立性を理解できる	報道のイロハを理解できる	報道の客観性、中立性に理解が限定的である	報道の客観性、中立性を理解できない
文章力	深みのある文章を書き、第三者に十分に伝えることができる	簡潔な文章が書ける	「てにをは」の基本を間違わずに書ける	簡潔な文章を書ける本数が十分でない	簡潔な文章が書けない

ループリク

授業計画（全体）

新聞、雑誌、フォトジャーナルなどを用いて講義を行う。特に新聞のコラム、社説、一般記事を使って毎回宿題を課し提出を求める。教室外での取材も体験する。

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介、授業の進め方、レポート提出や成績評価の仕方を説明する。		新聞を読む。習慣づけるために1面ヘッドラインニュースを毎日手書きする。	4時間
2.	記事の基本技法	5W1Hの意味と重要性を説明し、記事を実際に書きながら難しさを知る。		新聞1面のヘッドラインニュース手書き。「あなたの一押し記事」	4時間
3.	記事作成の技法	自分を第3人称で紹介する短文を作成する。自分の性格や特徴、10年後の姿などをどう伝えればよいかを客観視し考える。Who am I?		ヘッドラインニュース手書き。人物紹介の書き方復習。「河北春秋」手書き。	4時間
4.	記事作成の技法	前回作成した文章を見直し、再度作成の練習を行い、発表する。		ヘッドラインニュース手書き。社説の縮約・要約。	4時間
5.	縮約と要約	新聞の社説を題材に縮約と要約を試みる。文章の簡潔性とは何かを学び取る。		ヘッドラインニュース手書き。写真撮影の技法を復習。河北春秋の見出し付け。	4時間
6.	写真を撮る	写真は文章100行に匹敵する。写真で自分の意図をどう表現できるか。「職業」をテーマに写真5枚を撮影。それぞれタイトルを付ける。		ヘッドラインニュース手書き。「イチ押し記事」作成。	4時間
7.	写真をストーリー化	課題のイチ押し記事発表。撮ってきた写真の中から複数枚を選び、ストーリー仕立てで編集する。		ヘッドラインニュース手書き。写真撮影などを復習する。社説の縮約・要約。	4時間
8.	インタビューと執筆	課題の社説縮約・要約を解説。取材で人物を深く掘り下げる。テーマは「家族」。		ヘッドラインニュース手書き。インタビュー取材。	4時間
9.	インタビューと執筆	人物を文章と写真で浮き彫りにする。		ヘッドラインニュース手書き。プレゼンテーションの準備をする。	4時間
10.	インタビューと執筆	「私の家族」発表と合評。		ヘッドラインニュース手書き。インタビュー取材の手法を復習。	4時間

11.	インタビューと執筆	前週に続き「私の家族」発表と合評。		ヘッドラインニュース手書き。 「あなたが大切にする方言」	4時間
12.	方言	「あなたが大切にする方言」を発表・合評。		ヘッドラインニュース手書き。 「あなたの地域の課題」を考える。	4時間
13.	記事（期末レポート作成）	「あなたの地域の課題」をテーマに記事作成。		ヘッドラインニュース手書き。	4時間
14.	記事（期末レポート作成）	「あなたの地域の課題」に取り組む。		ヘッドラインニュース手書き。 プレゼンテーションの準備をする。	4時間
15.	課題提出	プレゼンテーションと講評。		ヘッドラインニュース手書き。 ノート提出。	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	授業内レポート(50%)、授業外レポート(50%)。第11回の授業までは毎回、新聞コラムの筆写と要約か、自分が選んだ新聞の一押し記事についての課題提出があり、いずれも提出の翌週に評価コメントを付記して返却する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート	○	○	○	25%
	授業外レポート	○	○	○	50%
	演習・実技	○	○	○	25%
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	節目の授業で発表してもらい、講評する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	毎回の配布資料を持参し、ノートをとること。				
関連科目	メディア系全科目				
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	日本語練習帳	大野晋	岩波書店	1999	
	日本語教室	井上ひさし	新潮社	2011	
	記者ハンドブック第14版	共同通信社	共同通信社	2022	
	朝日新聞記者の200字文章術	真田正明	さくら舎	2021	
	文章の書き方	辰野和男	岩波書店	1994	
オフィス アワー	日下(5体3F) = 水曜10:20~11:50				
GCR	4xf43xc				
その他	新聞の一般紙を中心に、関連資料を配布する。				

感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名				
115390	S-MED321J-01 、H-	スポーツ医学A				
科目名(英字)	Sports Medicine A					
学科	体育学科、健康福祉学科、スポーツ栄養学科、現代武道学科			学年	2年	
学期	前期	授業形態	遠隔授業		単位数	2
担当教員	橋本 実			開講の別	単独開講	
実務経験の有無	医療現場での実務経験を有する					
授業の概要	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防、整形外科的なメディカルチェック、治療と運動療法を含めたりハビリテーションについて、スポーツドクターの立場から実務経験を活かして解説する					
DPとの関連性	I	II	III	IV	V	
アクティブ・ラーニングについて	課題解決型学習(PBL)		反転学習	ディスカッション		
	ディベート		グループワーク	プレゼンテーション		
	実習		フィールドワーク			
授業の一般目標	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識について学び、スポーツの現場でと予防方法などが活用できるようになる					
授業の履修目標	対象	領域	内容			
		認知的領域	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防について十分に理解する			
		情意的領域	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防方法を、活用するように十分な努力をする			
		技能表現的領域				
授業の到達目標	対象	領域	内容			
		認知的領域	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防について理解する			
		情意的領域	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防方法を、活用するように努力する			
		技能表現的領域				

評価項目	評価基準					
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない	
	秀	優	良	可	不可・放棄	
ルーブリック	知識と予防について理解	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防について十分に理解した上で、他人に説明することができる	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防について十分に理解する	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防についてある程度理解する	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防について理解する	理解しない
	知識と予防方法を、活用	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防方法を、活用するよう十分に努力をするだけでなく、新たな活用について学ぶ	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防方法を、活用するよう十分に努力をする	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防方法を、活用するよう、ある程度努力する	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防方法を、活用するよう努力する	活用しない
授業計画（全体）	授業は毎回講義動画を視聴し、理解を深める。また、講義ノート（教科書）に書き込みながら理解を深める。授業の終わりに毎回小テストなどをおこない、知識を整理する。					

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	授業の進め方などについて説明する		プリントを配布するので参考にすること	4時間
2.	整形外科学の基礎	整形外科学の基本的なことについて説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
3.	顔面、頸部外傷	顔面頸部外傷の基本的なことについて説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
4.	腰部外傷・障害	腰部外傷・障害の基本的なことについて説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
5.	胸部外傷・障害	胸部外傷・障害の基本的なことについて説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
6.	上肢帯の外傷・障害	上肢帯外傷・障害の基本的なことについて説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
7.	上腕、肘の外傷・障害	上腕、肘外傷・障害の基本的なことについて説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
8.	前半の振り返りと試験	講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう		講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
9.	前腕、手指の外傷・障害	前腕、手指外傷・障害の基本的なことについて説明する		講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
10.	下肢帯の外傷・障害	下肢外傷・障害の基本的なことについて説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間

11.	大腿の外傷・障害	下肢外傷・障害の基本的なことについて説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
12.	膝の外傷・障害	下肢外傷・障害の基本的なことについて説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
13.	下腿、足趾の外傷・障害	下腿、足趾の外傷・障害の基本的なことについて説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
14.	小児のスポーツ外傷・障害	小児のスポーツ外傷・障害の基本的なことについて説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
15.	後半の振り返りと試験	講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう		講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	<p>単位認定には、全ての授業の受講が完了、試験に合格、提出を求められた課題を全て提出が必要条件。 各授業はICTツールの記録と小テストで履修状況を把握し、条件に満たない場合は欠席となるので、補講を受けること。 試験は60点以上を合格とする。試験では履修者本人が購入した講義ノートのみ、持ち込みを認める。 小テスト結果及びレポートはLMS上で運用する。 成績はルーブリックに照らし、総合的に判定する。</p>				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				90%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート	○			10%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートについては授業内で指示する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<p>講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。 能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、自分のPCを用意し、学内メールアドレスを使用出来る事が必要条件となる。</p>				
関連科目					
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	スポーツ医学A 講義ノート	橋本実	ポラーノ出版	2024	
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特になし				
オフィス アワー	教育企画課で確認して下さい。				
GCR	fdbntz3				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
543110	E-FTE011J-01	教職論C																					
科目名(英字)	Introduction C to Teaching Profession																						
学科	子ども運動教育学科			学年	1年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	柴田 千賀子 / 宮田 洋之			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	幼稚園での教員経験を有する																						
授業の概要	<p>本授業は、保育者・幼稚園教諭に求められる役割、資質、使命について理解を深める学習を展開する。前半は、保育者・幼稚園教諭の制度的位置づけ、社会的役割や倫理について認識を深める。後半は、保育者・幼稚園教諭としての基本的な資質、責任、知識、技能、考え方等を具体的に学ぶ。</p>																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	<p>本科目のねらいは、教職とはどんな仕事か、その基本的な性格や社会的使命などについて実践活動を通して理解を深めることである。また、ディスカッションなどを通して教職に関する理解を深め、教職への意欲を明確なものにする。</p>																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質などについて理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>教職への希望を実現するための様々な学修に意欲的に取り組む。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につける。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質などについて理解する。		情意的領域	教職への希望を実現するための様々な学修に意欲的に取り組む。		技能表現的領域	自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につける。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質などについて理解する。																					
	情意的領域	教職への希望を実現するための様々な学修に意欲的に取り組む。																					
	技能表現的領域	自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につける。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質などについて理解できた。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>教職への希望を実現するための様々な学修に意欲的に取り組めた。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につけた。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質などについて理解できた。		情意的領域	教職への希望を実現するための様々な学修に意欲的に取り組めた。		技能表現的領域	自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につけた。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質などについて理解できた。																					
	情意的領域	教職への希望を実現するための様々な学修に意欲的に取り組めた。																					
	技能表現的領域	自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につけた。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質・力量などについて理解する。	教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質・力量などについて理解し自分の言葉で極めて十分に説明することができる。	教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質・力量などについて理解し自分の言葉で十分に説明することができる。	教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質・力量などについて理解し自分の言葉で説明することができる。	教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質・力量などについて理解しているが自分の言葉で説明することができない。	教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質・力量などについて関心がもてない。
教職への希望を実現するための様々な学習に意欲的に取り組む。	教職への希望を実現するための様々な学習に積極的に取り組み、理想の教師像を極めて十分に描くことができている。	教職への希望を実現するための様々な学習に積極的に取り組み、理想の教師像を十分に描くことができている。	教職への希望を実現するための様々な学習に積極的に取り組み、理想の教師像を描くことができている。	教職への希望を実現するための様々な学習に取り組むが、理想の教師像を具体的に描くことができない。	教職への希望を実現するための様々な学習に積極的に取り組むことができず、理想の教師像を具体的に描くことができない。
自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につける。	自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につけ、理想の教師像を極めて十分に語ることができる。	自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につけ、理想の教師像を十分に語ることができる。	自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につけ、理想の教師像を語ることができる。	自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につけようとするが、理想の教師像を語ることができない。	自己の理想の教師像を実現するための学習に意欲的ではない。
授業計画（全体）	教職に就くために基盤となる教職の全体像、教職にかかる様々な制度を学び、保育者としての資質などについて各担当者が講義する。履修ガイダンスは第1回目の授業において行う。				

授業計画（各回のテーマ等）					
回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	幼稚園教育・保育とは何か、教職を目指す動機を問うことを中心にオリエンテーションを進める。		テーマについて、自身の考えをまとめておくこと	4時間
2.	幼稚園教諭・保育士になるまでのステップ	幼稚園教諭・保育士になるまでのステップを具体的に解説する。		テーマについて、自身の考えをまとめておくこと	4時間
3.	幼稚園教諭・保育士採用試験の実際	幼稚園教諭・保育士採用試験の実際について解説する。		テーマについて、自身の考えをまとめておくこと	4時間
4.	保育者の職務の実際	幼稚園教諭の勤務時間、休憩と休息、休日と休暇等について具体的に解説する。		授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する	4時間
5.	服務と身分保障（職務命令の要件と違反、分限と懲戒等）	教職における 職務命令の要件と違反、分限と懲戒等について解説する。		授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する	4時間
6.	保育者の仕事の内容と実際	教職の仕事の内容と実際について具体的に解説する。		授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する	4時間
7.	幼稚園教諭・保育士の職務と役割・教える者としての資質	幼稚園教諭・保育士の職務と役割について理解を深める。		授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する	4時間
8.	自身の保育観を振り返る	自分の理想の保育者像を探求し、具体的にどのようにすればそうなるか考え意見を交換する。		授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する	4時間
9.	教師に求められるもの・好奇心や想像力、表現力	自分の本当の夢を語り、どのようにすればそれを達成できるかについて具現化する方法を探求する。		授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する	4時間
10.	求められる理想の教師像	求められる教師像について探求し、伝記から読み解き自分にあてはめる活動を考える。		授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する	4時間

11.	教員の教育力と研究力：事例・実践研究 (原田)	教育力と研究力について自ら調べ紹介する。		授業のテーマについてテキスト や参考文献にて事前学習する	4時間
12.	教育力の実践と評価	教育の実践を評価する方法を検討し、実際に自らを評価してみる。		授業のテーマについてテキスト や参考文献にて事前学習する	4時間
13.	探求力の実践と評価	探求力をつけるために必要な事を考えて、その事を評価する 手段を検討する。		授業のテーマについてテキスト や参考文献にて事前学習する	4時間
14.	指導案の立案	指導案立案の際の重要性和ポイントについて学ぶ。		授業のテーマについてテキスト や参考文献にて事前学習する	4時間
15.	まとめ	これまでの学修のまとめと評価をする。		授業のテーマについてテキスト や参考文献にて事前学習する	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	授業内外のレポートをもとに成績評価を実施する。提出されたレポートは、教職についてディスカッションしながら返却する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート				40%
	授業外レポート	○	○	○	40%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度		○	○	20%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートの実施に関しては、授業内で指示します。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	・教育者を目指すものとして、常に課題意識を持ち、自発的に受講することを望む。				
関連科目					
関連資格	幼稚園教諭一種免許状、保育士資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	子どもと共に育ちあうエピソード保育者論	井上孝之ほか	みらい	2016	
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
オフィス アワー	火曜日 11:50~12:40(柴田)				
GCR	oi1k7kq				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
522080	M-CSS211J-02	社会の安全・安心概論																					
科目名(英字)	Introduction to Social Safety and Security																						
学科	現代武道学科			学年	1年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	岩淵 孝二			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	警察官としての実務経験あり																						
授業の概要	社会の安全安心を担う警察活動について、警察組織の仕組みや警察組織の各部門における任務及び具体的な活動状況について実務経験を活かして概説する。また、警察官に求められる知識のほか、必要な基礎的法学、実社会における多様な治安リスク等について具体的な事例などを交えて考察する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	警察の組織や具体的な活動を知り、将来、武道を通じて社会の安全安心に寄与しようとする人材として求められる基礎的法学知識や倫理観を理解する。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>警察の組織とその具体的な活動に関する知識を的確に説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>学習を通じ、警察の組織と具体的な活動を踏まえて社会に十分寄与できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	警察の組織とその具体的な活動に関する知識を的確に説明できる。		情意的領域	学習を通じ、警察の組織と具体的な活動を踏まえて社会に十分寄与できる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	警察の組織とその具体的な活動に関する知識を的確に説明できる。																					
	情意的領域	学習を通じ、警察の組織と具体的な活動を踏まえて社会に十分寄与できる。																					
	技能表現的領域																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>警察の組織とその具体的な活動に関する知識のどちらかを説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>学習を通じ、警察の組織と具体的な活動を踏まえて社会に寄与する意欲がある。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	警察の組織とその具体的な活動に関する知識のどちらかを説明できる。		情意的領域	学習を通じ、警察の組織と具体的な活動を踏まえて社会に寄与する意欲がある。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	警察の組織とその具体的な活動に関する知識のどちらかを説明できる。																					
	情意的領域	学習を通じ、警察の組織と具体的な活動を踏まえて社会に寄与する意欲がある。																					
	技能表現的領域																						

評価項目	評価基準					
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない	
	秀	優	良	可	不可・放棄	
ルーブリック	警察の組織と活動に関する基礎的知識の理解	警察の組織・任務及び法学等の基礎的知識について、正確に理解し、根拠に基づき適切に説明できる。	警察の組織・任務及び法学等の基礎的知識について理解し、根拠に基づき適切に説明できる。	警察の組織・任務及び法学等の基礎的知識について理解し、根拠に基づき説明できる。	警察の組織・任務及び法学等の基礎的知識について理解し、根拠に基づき、一定の説明をできる。	警察の組織・任務及び法学等の基礎的知識について理解しておらず、根拠に基づき、説明もできない。
	警察の組織と活動に関する知識を踏まえた社会貢献	警察の組織・任務及び法学等の知識を正確に理解し、社会貢献を的確に実践している。	警察の組織・任務及び法学等の知識を十分理解し、社会貢献を適切に実践している。	警察の組織・任務及び法学等の知識を理解し、社会貢献を実践している。	警察の組織・任務及び法学等の知識を理解し、社会貢献を実践しようとしている。	警察の組織・任務及び法学等の知識を理解し、社会貢献を実践する意欲がない。
授業計画（全体）	配付する資料や映像等を活用した講義を中心に、必要に応じて警察施設の視察等により実際の警察活動に対する理解を深める。					

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	ガイダンス・警察の成立ち	本科目の内容などについて説明するとともに、警察の成立ちについて概説する。		警察の歴史について資料に基づき、事前に学習しておく。	4時間
2.	警察の基本構成と公安委員会	警察組織の基本構成及び公安委員会との関係について概説する。		公安委員会制度について事前に調査しておく。	4時間
3.	警察法と警察の責務	警察法の概要と警察の責務について概説する。		警察法について事前に調査しておく。	4時間
4.	地域警察部門の活動	地域部門の組織及び任務、具体的活動内容について概説する。		地域部門について事前に調査しておく。	4時間
5.	警察官職務執行法の概要	警察官職務執行法の概要と職務質問について概説する。		警察官職務執行法について事前に調査しておく。	4時間
6.	生活安全部門の活動	生活安全部門の組織及び任務、具体的活動内容について概説する。		生活安全部門について事前に調査しておく。	4時間
7.	刑事部門の活動1	刑事部門の組織及び任務、具体的活動内容について概説する。		刑事部門について事前に調査しておく。	4時間
8.	刑事部門の活動2	刑事部門において特に治安課題となっている犯罪について概説する。		発生が多いと感じる刑事事件について事前に調査しておく。	4時間
9.	交通部門の活動	交通部門の組織及び任務、具体的活動内容について概説する。		交通部門について事前に調査しておく。	4時間
10.	警備部門の活動	警備部門の組織及び任務、具体的活動内容について概説する。		警備部門について事前に調査しておく。	4時間

11.	総務・警務部門の活動	総務・警務部門の組織及び任務、具体的活動内容について概説する。	総務・警務部門について事前に調査しておく。	4時間
12.	情報をめぐる法的規制	個人情報などの保護・管理と法的規制について概説する。	個人情報の概念等について事前に調査しておく。	4時間
13.	警察施設体験	警察施設を視察し、実際の警察活動の状況などについて理解を深める。	視察結果についてレポートを作成する。	4時間
14.	職務倫理	公務員及び警察官に求められる職務倫理について概説する。	職務倫理について事前に調査しておく。	4時間
15.	犯罪被害者の実情	犯罪被害者、犯罪被害者対策の実情について概説する。	犯罪被害者等基本法について事前に調査しておく。	4時間
16.				
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				
23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				

成績評価方法 (方針)	期末定期試験を実施するほか、課題に対する回答状況、授業態度などを加味して総合評価する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				70%
	授業内レポート				
	授業外レポート	○	○		20%
	演習・実技				
	授業態度	○	○		10%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは、授業内で解説・討議を行いフィードバックする。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	・日々の治安情勢等を踏まえて説明することがあるため、日頃から治安・社会情勢に関わるニュースをチェックしておくこと。				
関連科目	社会の安全安心概論 ・ ・ ・ 、応用武道護衛、応用武道実技 ・				
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特に指定しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特に指定しない				
オフィス アワー	月曜日12:40～14:10				
GCR	ttiitel				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
555060	I-SMM211J-01	スポーツマスメディア概論																					
科目名(英字)	Introduction to Sports and Mass Media																						
学科	スポーツ情報マスメディア学科			学年	1年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	佐藤 修 / 齋藤 長行			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	民放テレビ現場での実務経験を有する																						
授業の概要	本授業は新聞、テレビ、Webなどのメディアでスポーツ報道がどのように行われ、どんな役割効果と問題を呈しているか読み解き、様々な例を紹介し、スポーツ報道の原点を立体的に講義するものである。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	実際のスポーツ報道がどのように行われているかといった基本、仕組みを知り、制作者の目線、読者・視聴者目線の両方から読み解いていく。特に取材者が表現に当たって抱える課題を整理し、自分が記者として現場で取材する場合の心構え・思考能力を身に付ける。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>スポーツ報道の在り方を活字・音声・映像から学びとり、現代のメディアのあり方と今後を理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>新聞やテレビ、インターネットのスポーツ報道を主体的受け取ることができる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	スポーツ報道の在り方を活字・音声・映像から学びとり、現代のメディアのあり方と今後を理解する。		情意的領域	新聞やテレビ、インターネットのスポーツ報道を主体的受け取ることができる		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	スポーツ報道の在り方を活字・音声・映像から学びとり、現代のメディアのあり方と今後を理解する。																					
	情意的領域	新聞やテレビ、インターネットのスポーツ報道を主体的受け取ることができる																					
	技能表現的領域																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>スポーツ報道の在り方を活字・音声・映像から学びとり、現代のメディアのあり方と今後を理解し、的確に説明しできる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>新聞やテレビ、インターネットのスポーツ報道を主体的受け取ることができ、その内容を批判的な視点から論じることができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	スポーツ報道の在り方を活字・音声・映像から学びとり、現代のメディアのあり方と今後を理解し、的確に説明しできる。		情意的領域	新聞やテレビ、インターネットのスポーツ報道を主体的受け取ることができ、その内容を批判的な視点から論じることができる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	スポーツ報道の在り方を活字・音声・映像から学びとり、現代のメディアのあり方と今後を理解し、的確に説明しできる。																					
	情意的領域	新聞やテレビ、インターネットのスポーツ報道を主体的受け取ることができ、その内容を批判的な視点から論じることができる。																					
	技能表現的領域																						

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
ルーブリック	スポーツマスメディアに関する専門的・応用的知識・技術を身に付けることができる。	スポーツマスメディアに関する専門的・応用的知識・技術を身に付け、的確に説明することができる。	スポーツマスメディアに関する専門的・応用的知識・技術を身に付け、その一部を的確に説明することができる。	スポーツマスメディアに関する専門的・応用的知識・技術を身に付け、その一部を的確に説明することができる。	スポーツマスメディアに関する専門的・応用的知識・技術を身に付けることができない。
	スポーツ情報の収集・分析・編集・伝達の役割、重要性を深く理解することができる。	スポーツ情報の収集・分析・編集・伝達の役割、重要性を深く理解しており、的確に説明し、社会的活動として実践することができる。	スポーツ情報の収集・分析・編集・伝達の役割、重要性を深く理解しており、的確に説明することができる。	スポーツ情報の収集・分析・編集・伝達の役割、重要性を深く理解し、その一部を的確に説明することができる。	スポーツ情報の収集・分析・編集・伝達の役割、重要性を深く理解することができない。
	スポーツ情報の収集・分析・加工・伝達において、知識・技能を相手に的確に伝えることができる。	スポーツ情報の収集・分析・加工・伝達において、知識・技能を相手に的確に伝え、自身が指導者としての役割を全うすることができる。	スポーツ情報の収集・分析・加工・伝達において、知識・技能を相手に的確に伝え、自身以外の指導者を補佐することができる。	スポーツ情報の収集・分析・加工・伝達において、知識・技能の一部を相手に的確に伝えることができる。	スポーツ情報の収集・分析・加工・伝達において、知識・技能の一部を相手に伝えることができない。
	多様な人々と円滑な人間関係を築くことができ、指導や支援を行う場において、専門的知見を踏まえて、適切にコミュニケーションができる。	多様な人々と円滑な人間関係を築くことができ、指導や支援を行う場において、専門的知見を踏まえて、適切にコミュニケーションして社会的活動を実践することができる。	多様な人々と円滑な人間関係を築くことができ、指導や支援を行う場において、専門的知見を踏まえて、適切にコミュニケーションができる。	特定の人々と円滑な人間関係を築くことができ、指導や支援を行う場において、専門的知見の一部を踏まえて、コミュニケーションができる。	特定の人々と円滑な人間関係を築くことができるが、指導や支援を行う場において、専門的知見を踏まえて、コミュニケーションすることができない。
	論理的かつ多面的に考え、多様な人々とコミュニケーションを図りながら課題を探索し、主体性を持って課題解決に取り組むことができる。	論理的かつ多面的に考え、多様な人々とコミュニケーションを図りながら課題を探索し、主体性を持って課題解決に取り組む、社会活動として実践することができる。	論理的かつ多面的に考え、多様な人々とコミュニケーションを図りながら課題を探索し、主体性を持って課題解決に取り組む、社会活動として実践する準備ができている。	論理的かつ多面的に考え、特定の人々とコミュニケーションを図りながら課題を探索し、補佐的に課題解決に取り組むことができる。	論理的かつ多面的に考え、特定の人々とコミュニケーションを図りながら課題を探索し、課題解決に取り組むことができない。
授業計画（全体）	テキストは毎回その直前に報じられたスポーツ報道。パワーポイント、映像ビデオを多用し具体的な例を提供し、講義やディスカッションを通し多角的に表現の方法論や問題点を明らかにする。直近のスポーツ報道を扱うことからシラバス通りに進行しない場合もある。				

授業計画（各回のテーマ等）					
回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション スポーツ報道とは	[内容] シラバス・授業の進め方紹介 & スポーツ報道の歴史と読者・視聴者		できる限り多くのスポーツ報道に触れる	4時間
2.	メディア論(齋藤)	メディアの世紀19世紀の進化		メディアの歴史を学ぶ	4時間
3.	活字メディアの登場(齋藤)	メディアとは何か		メディアツールをさぐる	4時間
4.	活版印刷がもたらした社会変容(齋藤)	新聞の誕生と大衆ジャーナリズムへ		紙媒体としての新聞に触れる	4時間
5.	放送・ラジオ(佐藤)	電波が民間へ ラジオ放送の始まりと隆盛		ラジオ、スマホなどでラジオ番組を聞く	4時間
6.	放送・テレビ(佐藤)	テレビのスポーツ報道のあゆみ 街頭テレビからデジタルテレビへ		テレビのスポーツニュースやスポーツ中継を視聴する	4時間
7.	マスメディアとスポーツイベント(佐藤)	スポーツイベントはメディアにどう活用されたか		スポーツイベントに触れる際、主催や後援企業の注目する	4時間
8.	メディアとしてのインターネットメディア(齋藤)	つながりとインターネット		インターネットの活用をもう一度顧みる	4時間
9.	インターネットメディアとプロパガンダ(齋藤)	インターネットと世論		インターネットの情報を疑問を持って読み解く	4時間
10.	放送制度(佐藤)	放送の自由に対する干渉は何か		放送の歴史を学ぶ	4時間

11.	放送の自主自律(佐藤)	放送倫理の実践はどのようになされたか		過去の報道被害を調べる	4時間
12.	放送における著作権(佐藤)	映像、音楽、ネット産業を著作権はどう左右しているか		著作権について調べておくこと	4時間
13.	メディアリテラシー(佐藤)	メディアを読み解くには		メディアリテラシーが求められた事例を調べること	4時間
14.	アテンションエコノミー(齋藤)	これからのメディアの立ち位置は		その映像・動画の入手手段を記録	4時間
15.	スポーツと偽・誤情報(齋藤)	スポーツ報道のこれからはどう変わるのか		スポーツドキュメンタリーの視聴	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	試験は期末テスト1回実施(評価割合は60%)授業内意見発表・レポート(評価割合40%)で総合評価。試験については(授業内で)解説をしながら返却する				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				60%
	授業内レポート				20%
	授業外レポート				20%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	授業内での議論の材料とします				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度悪い学生は成績評価から減点 ・多くのスポーツに接する。スタジアム観戦が最良だがテレビ視聴でも ・スポーツ情報を伝えることを楽しむ(スポーツを話題にする) ・自分の考えを文章に書き、自分の言葉で説明できる訓練をする ・シラバスは授業の進み方、理解の程度で前後したり内容変更がある 				
関連科目	メディア関連の必修科目すべて				
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	放送の自由	川端和治	岩波新書	2019	978-4-00-431810-1
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	図説 日本のメディア	藤竹暁 竹下俊郎	NHKブックス	2018年	
オフィス アワー	佐藤研究室E棟2階 金曜日 12:40 - 14:10				
GCR	iiyuaxl				
その他	対面授業です。				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
523080	T-fye231J-01	学習障害等教育総論																					
科目名(英字)	Education for Developmental Disabilities																						
学科	健康福祉学科			学年	3年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	小西 志津夫			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	特別支援学校での教員経験を有する																						
授業の概要	特別支援教育の概要を踏まえつつ、実務経験を活かしながら、学習障害等の発達障害児の特性及びその児童生徒への教育内容・方法等について具体的に解説する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症の病理、心理、生理の特徴と二次的な障害について理解し、通常の学級、通級による指導、特別支援学級における教育課程の意義、編成とカリキュラム・マネジメントの考え方について説明できる。さらに、各教科等の指導と自立活動を関連付けた個別の指導計画に基づく授業設計について説明できる。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症の特徴を理解し、二次的な障害について説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>学びの場として、通常の学級、通級による指導、特別支援学級があり、それぞれの教育課程の意義、編成と指導の実際について理解すると共に、カリキュラム・マネジメントの考え方について説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>各教科等の指導と自立活動を関連付けた個別の指導計画に基づく授業設計について説明できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症の特徴を理解し、二次的な障害について説明できる。		情意的領域	学びの場として、通常の学級、通級による指導、特別支援学級があり、それぞれの教育課程の意義、編成と指導の実際について理解すると共に、カリキュラム・マネジメントの考え方について説明できる。		技能表現的領域	各教科等の指導と自立活動を関連付けた個別の指導計画に基づく授業設計について説明できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症の特徴を理解し、二次的な障害について説明できる。																					
	情意的領域	学びの場として、通常の学級、通級による指導、特別支援学級があり、それぞれの教育課程の意義、編成と指導の実際について理解すると共に、カリキュラム・マネジメントの考え方について説明できる。																					
	技能表現的領域	各教科等の指導と自立活動を関連付けた個別の指導計画に基づく授業設計について説明できる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症の特徴を理解し、二次的な障害について理解している。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>学びの場として、通常の学級、通級による指導、特別支援学級があり、それぞれの教育課程の意義、編成と指導の実際について理解すると共に、カリキュラム・マネジメントの考え方について理解している。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>各教科等の指導と自立活動を関連付けた個別の指導計画に基づく授業設計について理解している。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症の特徴を理解し、二次的な障害について理解している。		情意的領域	学びの場として、通常の学級、通級による指導、特別支援学級があり、それぞれの教育課程の意義、編成と指導の実際について理解すると共に、カリキュラム・マネジメントの考え方について理解している。		技能表現的領域	各教科等の指導と自立活動を関連付けた個別の指導計画に基づく授業設計について理解している。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症の特徴を理解し、二次的な障害について理解している。																					
	情意的領域	学びの場として、通常の学級、通級による指導、特別支援学級があり、それぞれの教育課程の意義、編成と指導の実際について理解すると共に、カリキュラム・マネジメントの考え方について理解している。																					
	技能表現的領域	各教科等の指導と自立活動を関連付けた個別の指導計画に基づく授業設計について理解している。																					

評価項目	評価基準					
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している【到達目標】	達成していない	
	秀	優	良	可	不可・放棄	
ルーブリック	特別支援教育や発達障害児の教育についての理解	学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症の特徴を理解し、二次的な障害について理解し、十分な説明ができる。	学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症の特徴を理解し、二次的な障害について説明できる。	学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症の特徴を理解し、二次的な障害について理解している。	学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症の特徴を理解し、二次的な障害についておおむね理解している。	学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症の特徴を理解し、二次的な障害についての理解ができていない。
	障害のある児童生徒の指導・支援についての理解	学びの場として、通常の学級、通級による指導、特別支援学級があり、それぞれの教育課程の意義、編成と指導の実際について説明できると共に、カリキュラム・マネジメントの考え方についても説明できる。	学びの場として、通常の学級、通級による指導、特別支援学級があり、それぞれの教育課程の意義、編成と指導の実際について理解すると共に、カリキュラム・マネジメントの考え方について説明できる。	学びの場として、通常の学級、通級による指導、特別支援学級があり、それぞれの教育課程の意義、編成と指導の実際について理解すると共に、カリキュラム・マネジメントの考え方について理解している。	学びの場として、通常の学級、通級による指導、特別支援学級があり、それぞれの教育課程の意義、編成と指導の実際について理解すると共に、カリキュラム・マネジメントの考え方についておおむね理解している。	学びの場として、通常の学級、通級による指導、特別支援学級があり、それぞれの教育課程の意義、編成と指導の実際について理解すると共に、カリキュラム・マネジメントの考え方についての理解ができていない。
	発達障害児への簡単な場面指導について	各教科等の指導と自立活動を関連付けた個別の指導計画に基づく授業設計について理解し、詳細に説明できる。	各教科等の指導と自立活動を関連付けた個別の指導計画に基づく授業設計について説明できる。	各教科等の指導と自立活動を関連付けた個別の指導計画に基づく授業設計について理解している。	各教科等の指導と自立活動を関連付けた個別の指導計画に基づく授業設計についておおむね理解している。	各教科等の指導と自立活動を関連付けた個別の指導計画に基づく授業設計についての理解ができていない。
授業計画（全体）	各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心となる。より理解を深めるための視聴覚教材を活用する。講義中心ではあるが、グループ等でのプレゼンテーションや演習も取り入れ、具体的に支援方法を考える時間を設ける。					

授業計画（各回のテーマ等）					
回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	ガイダンス 特別支援教育と通常の学級に在籍する発達障害	担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法等 通常の学級の教育課程と特別の教育課程の概要		学生便覧等で特別支援学校教諭の免許取得について確認する	4
2.	特別支援教育の動向 学習指導要領と教育課程	最近の特別支援教育の主として発達障害動向動向について 学習指導要領における特別の教育課程の理解		特別支援教育について事前に調べておくこと。	4
3.	障害者の権利に関する条約をめぐる動きについて 特別の教育課程と自立活動	障害者の権利に関する条約と特別支援教育について 発達障害の障害特性等を踏まえた特別の指導過程の編成		障害者の権利に関する条約について、事前に調べておくこと。	4
4.	障害者の権利に関する条約をめぐる動きについて 特別の教育課程と自立活動	インクルーシブ教育システムと合理的配慮について 発達障害の障害特性等を踏まえた特別の指導過程の編成		合理的配慮について、事前に調べておくこと。	4
5.	特別支援教育の現状について	通常の学級に在籍する学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症の状態、感覚や認知及び行動の特性に着目した自立活動の指導の必要性		文部科学省の調査等について、事前に調べておくこと	4
6.	学習障害について	学習障害の要因となる脳機能に関わる病理面及び心理面や生理面の特徴と教育課程（通常の学級、通級による指導）の編成と個別の指導計画の作成		学習障害の特徴について、事前に調べておくこと。	4
7.	注意欠陥多動性障害について	注意欠陥多動性障害の要因となる脳機能に関わる病理面及び心理面や生理面の特徴と教育課程（通常の学級、通級による指導）の編成と個別の指導計画の作成		注意欠陥多動性障害の特徴について、事前に調べておくこと。	4
8.	高機能自閉症について	高機能自閉症の要因となる脳機能に関わる病理面及び心理面や生理面の特徴と教育課程（通常の学級、通級による指導、特別支援学級）の編成と個別の指導計画の作成		自閉症の特徴について、事前に調べておくこと。	4
9.	個別の指導計画と指導の工夫	個別の指導計画の実施とICT等を活用した個に応じた指導の充実		ICT等の具体的な活用について事前に調べておくこと。	4
10.	実態把握から指導へ	個に応じた指導の充実のための実態把握と保護者との合意による自立活動の個別の指導計画の作成と個に応じた支援による指導		様々な実態把握について調べておくこと。	4

11.	学習障害の各教科における指導	学習障害の特性による各教科での指導の困難さに対する支援の手だてと学習指導案	読み、書き障害について、十分復習しておくこと。	4
12.	学習障害の各教科における指導	学習障害の特性による各教科での指導の困難さに対する支援の手だてと学習指導案	算数、推論の障害について、十分復習しておくこと。	4
13.	指導の工夫	自立活動及び自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の個別の指導計画による指導、評価、改善によるカリキュラム・マネジメントの実施	各自、指導法や教材を調べておくこと。	4
14.	指導の工夫	個に応じたICTや適切な教材・教具(含むICT等)の活用及び学習環境の整備	各自、指導方法や教材を調べておくこと。	4
15.	個別の指導計画と個別の教育支援計画	個別の指導計画の作成のまとめと個別の教育支援計画の違い	個別の教育支援計画について調べておくこと。	4
16.				
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				
23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				

成績評価方法 (方針)	試験は、期末試験を1回実施する(評価割合80%)。また、演習への取り組み(評価割合20%)とし、これらの結果を総合して成績評価を行う。試験及び授業内レポートは解説しながら返却する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				40
	授業内レポート				40
	授業外レポート				20
	演習・実技				
	授業態度				減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートを実施する場合は、授業内で指示します。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席のないものは、単位の修得はできない。(欠格条件) ・授業中は携帯電話は鞆の中にしまうこと。 ・授業計画は、進度によって若干の変更があり得ること。 ・自己学習(校外での学習, ボランティア活動等)の成果や授業テーマについて積極的に発表することを期待する。 				
関連科目					
関連資格	特別支援学校教諭免許				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特別支援学校学習指導要領解説書(自立活動編)	文部科学省			
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	授業内で紹介する				
オフィス アワー	火曜日 14:20~15:50				
GCR	7ssf6bj				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
112130	H-SOS011J-01 、 、 -	社会調査法																					
科目名(英字)	Social Research																						
学科	健康福祉学科、ｽﾎｰﾙｲﾝﾌｫｰﾐｪｼｮﾝｼｽﾃﾑｼﾞｮｲﾝﾄ学科、現代武道学科			学年	1年																		
学期	前期	授業形態	講義	単位数	2																		
担当教員	齋藤 長行			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	通信企業での実務経験を有する 経済協力開発機構(OECD)：ポリシーアナリスト、KDDI総合研究所：研究主査、LINE株式会社：上席研究員、総務省情報通信政策研究所：特別研究員を歴任																						
授業の概要	本講義では、社会調査に関する基本事項をもとに思考を深める。具体的には、社会調査の目的やその歴史、社会調査の種類、社会調査を実施する者の態度について言及する。また、講義後半には量的・質的な模擬調査を行い、社会調査を体験してもらう。なお、本科目は社会調査士資格認定【A科目】に該当する。授業の目標(1)社会調査には様々な種類が存在することを知り、自ら社会調査を行う際に、適切な技法を選択できる。(2)与えられたテーマに沿って、自ら模擬調査を実施し、それをまとめることができる。授業では、社会調査とは何か、いかに行うかといった基本的な事柄について学ぶ。また、様々な種類の社会調査の結果を概観しながら、社会調査が具体的にどのように社会に還元されるかを学ぶ。さらに、実際に模擬調査を行い、社会調査の企画・立案・実施のための基礎能力を養う。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	社会調査の諸形態を概観することにより、社会調査法の諸理論と、それを実際の調査に活用するための技能を身に着ける。 社会調査法の諸実践方法の中から適切な調査手法を選択し、調査計画を立案する。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>社会調査の諸形態について説明できるようになることを目指す。 社会調査の計画手順を説明できるようになることを目指す。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>社会調査を行う上での倫理規範を踏まえて、社会に生じている現象を社会調査の立場から明らかにしようとする態度を持つ。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>社会調査法の諸実践方法の中から適切な調査手法を選択し、調査計画を立案する。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	社会調査の諸形態について説明できるようになることを目指す。 社会調査の計画手順を説明できるようになることを目指す。		情意的領域	社会調査を行う上での倫理規範を踏まえて、社会に生じている現象を社会調査の立場から明らかにしようとする態度を持つ。		技能表現的領域	社会調査法の諸実践方法の中から適切な調査手法を選択し、調査計画を立案する。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	社会調査の諸形態について説明できるようになることを目指す。 社会調査の計画手順を説明できるようになることを目指す。																					
	情意的領域	社会調査を行う上での倫理規範を踏まえて、社会に生じている現象を社会調査の立場から明らかにしようとする態度を持つ。																					
	技能表現的領域	社会調査法の諸実践方法の中から適切な調査手法を選択し、調査計画を立案する。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>社会調査の諸形態について説明できるようになる。 社会調査の計画手順を説明できるようになる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>社会調査を行う上での倫理規範を踏まえて、社会に生じている現象を社会調査の立場から明らかにしようとする態度を持っている。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>社会調査法の諸実践方法の中から適切な調査手法を選択し、調査計画を立案できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	社会調査の諸形態について説明できるようになる。 社会調査の計画手順を説明できるようになる。		情意的領域	社会調査を行う上での倫理規範を踏まえて、社会に生じている現象を社会調査の立場から明らかにしようとする態度を持っている。		技能表現的領域	社会調査法の諸実践方法の中から適切な調査手法を選択し、調査計画を立案できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	社会調査の諸形態について説明できるようになる。 社会調査の計画手順を説明できるようになる。																					
	情意的領域	社会調査を行う上での倫理規範を踏まえて、社会に生じている現象を社会調査の立場から明らかにしようとする態度を持っている。																					
	技能表現的領域	社会調査法の諸実践方法の中から適切な調査手法を選択し、調査計画を立案できる。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
社会調査に関する理論や手法に関する知識	社会調査に関する理論や手法に関する知識を基に、独創的な論述を展開することができる。	社会調査に関する理論や手法に関する知識を基に、自分の考えを整理して述べるができる。	社会調査に関する理論や手法に関する要点を列挙することができる。	社会調査に関する理論や手法についていくつか例示することができる。	社会調査に関する理論や手法について説明することができない。
社会学の諸理論を活かして社会事象を客観的に洞察する態度	社会調査に関する理論や手法に関する知識を活かして、社会に起きている諸事象を社会調査の観点から、その問題点を明らかにしようとする態度を持ち備えている。	社会調査に関する理論や手法に関する知識を活かして、社会に起きている諸事象を客観的に洞察しようとする態度を持ち備えている。	社会調査に関する理論や手法に関する知識を活かして、社会に起きている諸事象の問題点を考えようとする態度をもっている。	現実社会に生じている問題に対して、社会調査の諸理論が有効となるかを考えようとする態度を持っている。	社会調査の諸理論を現実社会の問題に活かそうとする態度を持っていない。
社会調査法の諸実践方法の中から適切な調査手法を選択し、調査計画を策定・実施する技能	社会調査法の諸実践方法の中から最適な調査手法を選択し、調査計画を立案・実施することができる。	社会調査法の諸実践方法の中から自分が実践できる調査手法を用いて、調査計画を立案・実施できる。	指定された社会調査法を用いて、調査計画を立案・実施できる。	指定された社会調査法を用いて、調査計画を立案できる。	指定された社会調査法を用いて、調査計画を立案することができない。
ルーブリック	<p>社会調査に関する理論や手法に関する知識を活かして、社会に起きている諸事象を社会調査の観点から、その要点をまとめ、調査計画書を策定することに取り組みます。これらの作業を行うことにより、論理的な文章作成能力・調査設計能力を身に付けることを目的とします。論点整理の手法としては、「主張」「根拠」「論拠」から構成される三角ロジックを用いた論述方法を学びます。この三角ロジックによる文書技法を身に付けることは、他の科目のレポートや卒業論文執筆の手助けとなるでしょう。</p>				

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	授業の目標と進め方、成績評価方法を説明する。		シラバスを熟読して科目の趣旨と授業計画を確認する。	4時間
2.	社会調査とは何か	社会調査の意義と目的について解説する。		「実証主義」の概念をノートに整理する。	4時間
3.	社会調査の歴史	社会調査の歴史(社会調査史)について、主要な先行研究をレビューしながら解説する。		デュルケム『自殺論』を復習する。	4時間
4.	社会調査の倫理	社会調査の倫理について、人権の尊重と個人情報保護の概念について解説する。		日本社会学会等の倫理綱領を確認する。	4時間
5.	社会調査法の分類	量的調査と質的調査の違いを解説する。		量的/質的調査の特徴をノートに整理する。	4時間
6.	実際の調査例	国勢調査・公式統計・学術調査・世論調査・市場調査といった各種社会調査の違いを解説する。		各種調査の目的、手法、対象者をノートに整理する。	4時間
7.	調査技法(1):質問紙調査	質問紙調査について解説し、その結果をまとめた論文を読む。		SSM調査の特徴をノートに整理する。	4時間
8.	調査技法(2):インタビュー調査	インタビュー調査について解説し、それに関する論文を読む。		論文の分析方法の特徴をノートに整理する。	4時間
9.	調査技法(3):参与観察	参与観察について解説し、参与観察の結果をまとめた論文を読む。		トロブリアント諸島の「クラリソング」について復習する。	4時間
10.	量的調査の二次分析	量的調査の結果の読解の仕方を解説する。		刑法犯認知件数の推移を『犯罪白書』で分析する。	4時間

11.	中間試験	これまでの授業の理解度と関心度を問う記述方式のテストを行い、前半の講義を振り返る。		中間試験の反省、模擬調査の計画を行う。	4時間
12.	質的調査の実際(1)	質的な模擬調査を行うための下準備を行う。		調査対象者の選定、質問項目準備を進める。	4時間
13.	質的調査の実際(2)	質的な模擬調査を行う。		ICレコーダ等の使用方法を習熟する。	4時間
14.	質的調査の実際(3)	模擬調査の結果をまとめる方法を解説する。		報告書の構成について復習する。	4時間
15.	総括	本講義を総括し、社会調査法II(B科目)で必要となる知識を整理する。		量的調査の種類と特徴をノートに整理する。	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	授業参加およびディスカッションにおける発言10%、授業内レポート30%、授業外レポート(期末レポート)60%で成績を評価します。 レポートに対しては、授業内で全員に対するフィードバックを行います。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				
	授業内レポート				30
	授業外レポート				30
	演習・実技				30
	授業態度				10
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	「授業外学修」(宿題) 次回の授業の授業範囲の教科書の通読 その要点要約(約200字)の課題を提出してもらいます。 提出して頂いたレポートには、授業の中で全体総括を行うとともに、個々人にフィードバックします。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	本講義は、反転授業形式によるアクティブラーニングを前提とします。反転授業とは、「授業外学修」において知識を自ら習得・整理し、「授業」においてはその成果を発表し、履修者同士で意見交換し、皆で知識・技能・態度を高めていくという授業形態です。 授業では、最初の60分間で皆さんが作成した宿題の内容を発表してもらいます。それを踏まえ、残り30分間で、皆さんと一緒に課題に対するディスカッションを行います。ディスカッションに積極的に参加することで、プレゼン力や要約する力が身につくことでしょう。				
関連科目	社会調査法、社会統計学、社会統計学、社会調査演習、社会調査実習				
関連資格	社会調査士				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新・社会調査へのアプローチ：論理と方法	大谷信介(他)	ミネルヴァ書房	2023	
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	実践社会調査入門	玉野和志	世界思想社	2008	
	新版 議論のレッスン	福澤一吉	HK出版	2018	
オフィス アワー	水曜日1限				
GCR	gwmxdf1				
その他	毎回の講義スライドや資料は基本的にGCRで配信する。				

感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
541160	E-CME012J-03	保育内容総論																					
科目名(英字)	General Theory of Childcare Content																						
学科	子ども運動教育学科			学年	1年																		
学期	後期	授業形態	演習		単位数																		
					2																		
担当教員	柴田 千賀子			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	幼稚園での教員経験を有する																						
授業の概要	保育内容を理解し、総論と演習の学びを整理しながら保育内容全体の学びを深める。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	乳幼児期の保育の理解を深めるために、保育内容の概要、歴史的背景、保育実践とのつながりについて学ぶ。学んだ内容について、自身の保育観と照らし合わせて語るができるようにする。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>保育内容と保育実践について理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>子どもを理解するための保育内容の学び(発表を含む)に意欲的に取り組む。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>保育内容について学んだことを、どのように保育実践につなげていくか表現することができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	保育内容と保育実践について理解する。		情意的領域	子どもを理解するための保育内容の学び(発表を含む)に意欲的に取り組む。		技能表現的領域	保育内容について学んだことを、どのように保育実践につなげていくか表現することができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	保育内容と保育実践について理解する。																					
	情意的領域	子どもを理解するための保育内容の学び(発表を含む)に意欲的に取り組む。																					
	技能表現的領域	保育内容について学んだことを、どのように保育実践につなげていくか表現することができる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>保育内容と保育実践について理解できた。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>子どもを理解するための保育内容の学び(発表を含む)に意欲的に取り組めた。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>保育内容について学んだことを、どのように保育実践につなげていくか表現することができた。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	保育内容と保育実践について理解できた。		情意的領域	子どもを理解するための保育内容の学び(発表を含む)に意欲的に取り組めた。		技能表現的領域	保育内容について学んだことを、どのように保育実践につなげていくか表現することができた。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	保育内容と保育実践について理解できた。																					
	情意的領域	子どもを理解するための保育内容の学び(発表を含む)に意欲的に取り組めた。																					
	技能表現的領域	保育内容について学んだことを、どのように保育実践につなげていくか表現することができた。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
保育内容と保育実践について理解する。	保育内容とは何か、保育実践と関連づけて極めて十分に理解できている。	保育内容とは何か、保育実践と関連づけて十分に理解できている。	保育内容とは何か、保育実践と関連づけて理解できている。	保育内容とは何か理解しようとしているが、保育実践と関連づけて理解することができない。	保育内容とは何か理解しようとして、保育実践と関連づけて理解することもできない。
子どもを理解するための保育内容の学び（発表を含む）に意欲的に取り組む。	子どもを理解するための保育内容の学びについて学修したことを基に、自分の考えを極めて十分に述べることができる。	子どもを理解するための保育内容の学びについて学修したことを基に、自分の考えを十分に述べることができる。	子どもを理解するための保育内容の学びについて学修したことを基に、自分の考えを述べることができる。	子どもを理解するための保育内容の学びについて理解できているが自分の考えを十分に述べることができない。	子どもを理解するための保育内容の学びについて理解できておらず、自分の考えを十分に述べることができない。
保育内容について学んだことを、どのように保育実践につなげていくか表現することができる。	保育内容について学んだことと保育実践とのつながりについて自身の言葉で極めて十分に表現することができる。	保育内容について学んだことと保育実践とのつながりについて自身の言葉で十分に表現することができる。	保育内容について学んだことと保育実践とのつながりについて自身の言葉で表現することができる。	保育内容について学んだことと保育実践とのつながりについて理解しているが、自身の言葉で表現することができない。	保育内容について学んだことと保育実践とのつながりについて理解しておらず、自身の言葉で表現することができない。
ルーブリック					
授業計画（全体）	<p>幼児教育、保育の基本と保育内容、保育者としてのかかわり方などについて講義を通して具体的に学ぶ。各年齢の発達およびかかわりについて、講義で学んだ内容について理解を深めるために、ロールプレイや発表等のアクティブラーニングを展開する。履修ガイダンスは第1回目の授業において行う。</p>				

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	ガイダンス・保育内容の基礎知識	ガイダンスを実施する。保育内容の基本について講義する。		保育内容について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
2.	保育実践と保育内容について	保育実践と保育内容について講義する。		保育内容について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
3.	保育の一日の流れと保育内容	保育園、幼稚園での保育の一日の流れと保育内容について講義する。		保育の一日の流れについて、自身の考えをまとめておくこと	4時間
4.	子どもの育ちと保育内容	子どもの育ちや乳幼児の発達の特徴について講義する。		乳幼児の発達について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
5.	保育内容の展開	養護と教育が一体的に展開する保育、子どもの主体性を尊重する保育について自身の考えをまとめ発表する。		子どもの主体性を尊重する保育について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
6.	0歳児の保育内容	0歳児の発達の特徴、子どもの姿について講義する。講義を踏まえ保育内容についてディスカッションを行う。		0歳児の発達の特徴について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
7.	1歳児の保育内容	1歳児の発達の特徴、子どもの姿について講義する。講義を踏まえ保育内容についてディスカッションを行う。		1歳児の発達の特徴テーマについて、自身の考えをまとめておくこと	4時間
8.	2歳児の保育内容	2歳児の発達の特徴、子どもの姿について講義する。講義を踏まえ保育内容についてディスカッションを行う。		2歳児の発達の特徴について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
9.	3歳児の保育内容	3歳児の発達の特徴、子どもの姿について講義する。講義を踏まえ保育内容についてディスカッションを行う。		3歳児の発達の特徴について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
10.	4歳児の保育内容	4歳児の発達の特徴、子どもの姿について講義する。講義を踏まえ保育内容についてディスカッションを行う。		4歳児の発達の特徴について、自身の考えをまとめておくこと	4時間

11.	5歳児の保育内容	5歳児の発達の特徴、子どもの姿について講義する。講義を踏まえ保育内容についてディスカッションを行う。	5歳児の発達の特徴について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
12.	保育の計画と観察・記録と評価	保育の計画と観察・記録と評価の理論と実際 について講義する。	保育の計画について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
13.	保育内容の歴史の変遷	がどのようなものであるか現代との比較を交えながら講義する。	保育内容の歴史について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
14.	多様な保育ニーズと保育内容	特別な保育ニーズ、外国籍の子どもと多文化共生の視点について講義する。	特別な保育ニーズについて、自身の考えをまとめておくこと	4時間
15.	これからの保育内容	これからの保育と課題について自らの考えを発表する。	これからの保育と課題について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
16.				
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				
23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				

成績評価方法 (方針)	授業内・外レポートおよび演習実技の点数を総合して評価する。提出されたレポートは、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート	○	○		30%
	授業外レポート	○	○		30%
	演習・実技			○	20%
	授業態度			○	20%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートの実施に関しては、授業内で指示します。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	・保育者を目指すものとして、常に課題意識を持ち、自発的に受講することを望む。				
関連科目					
関連資格	幼稚園教諭一種免許状、保育士資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	子どもと共に学びあう演習・保育内容総論	井上孝之	みらい		
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	子どもと共に学びあう演習・保育内容総論	井上孝之	みらい		
オフィス アワー	火曜日11:50~12:40				
GCR	xw6j7bi				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
544020	S-ANA321J-01	アスレティックトレーニング論																					
科目名(英字)	Athletic Training																						
学科	体育学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	山口 貴久 / 小田 桂吾 / 小勝 健司 / 高橋 陽介			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	アスレティックトレーナーとして様々なスポーツ現場での実務経験を有する																						
授業の概要	スポーツトレーナーに必要不可欠な運動器の機能解剖について、実務経験を活かしてスポーツトレーナーの観点から講義する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	関連分野へ応用できる程度まで運動器の機能解剖を理解する。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>主要な運動器すべての名称と作用を十分に理解している。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>授業へ十分積極的に参加できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	主要な運動器すべての名称と作用を十分に理解している。		情意的領域	授業へ十分積極的に参加できる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	主要な運動器すべての名称と作用を十分に理解している。																					
	情意的領域	授業へ十分積極的に参加できる。																					
	技能表現的領域																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>主要な運動器すべての名称と作用を最低限理解している。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>授業へ最低限積極的に参加できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	主要な運動器すべての名称と作用を最低限理解している。		情意的領域	授業へ最低限積極的に参加できる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	主要な運動器すべての名称と作用を最低限理解している。																					
	情意的領域	授業へ最低限積極的に参加できる。																					
	技能表現的領域																						

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
運動器の機能解剖の理解	主要な運動器すべての名称と作用を十分に理解し、様々な身体運動を機能解剖学的な観点から説明できる	主要な運動器すべての名称と作用を十分に理解している。	主要な運動器すべての名称と作用を概ね理解している。	主要な運動器すべての名称と作用を最低限理解している。	主要な運動器すべての名称と作用を十分に理解できる。
授業への参加	授業へ十分積極的に参加でき、他人を巻き込むことができる。	授業へ十分積極的に参加できる。	授業へ概ね積極的に参加できる。	授業へ最低限積極的に参加できる。	授業へ積極的に参加できない。
ループリッ ク					
授業計画（全体）	概論に続き、各論では身体部位ごとに、1)骨 2)関節と靭帯 3)筋・腱 4)その他の重要な軟部組織について解説する。				

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライ ン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション（山口）概論（小田）	授業概要等の説明を行う。運動器の機能解剖の概論について解説する		教科書p2-26を熟読し理解する	4時間
2.	概論（小田）	運動器の機能解剖の概論について解説する		運動器の概論について調べる	4時間
3.	概論（小田）	運動器の機能解剖の概論について解説する		教科書p106-123を熟読し理解する	4時間
4.	下肢の機能解剖（高橋）	足部・足関節・下腿の解剖と機能について解説する		教科書p96-105を熟読し理解する	4時間
5.	下肢の機能解剖（高橋）	膝関節の解剖と機能について解説する		教科書p90-105を熟読し理解する	4時間
6.	下肢の機能解剖（高橋）	股関節・大腿の解剖と機能について解説する		運動器の概論と下肢の機能解剖についてまとめ、中間テストに備える	4時間
7.	中間試験（山口）	運動器の機能解剖の概論と下肢の機能解剖に関する筆記試験を行う		教科書p27-40を熟読し理解する	4時間
8.	体幹の機能解剖（山口）	体幹全般と頭部の解剖と機能について解説する		教科書p41-44を熟読し理解する	4時間
9.	体幹の機能解剖（山口）	胸部の解剖と機能について解説する		教科書p45-54を熟読し理解する	4時間
10.	体幹の機能解剖（山口）	腰部の解剖と機能について解説する		教科書p55-64を熟読し理解する	4時間

11.	上肢の機能解剖（小勝）	肩関節の解剖と機能について解説する		教科書p55-64を熟読し理解する	4時間
12.	上肢の機能解剖（小勝）	肩関節の解剖と機能について解説する		教科書p65-77を熟読し理解する	4時間
13.	上肢の機能解剖（小勝）	肘関節の解剖と機能について解説する		教科書p65-77を熟読し理解する	4時間
14.	上肢の機能解剖（小勝）	前腕の解剖と機能について解説する		教科書p78-89を熟読し理解する	4時間
15.	上肢の機能解剖（小勝）	手関節と手指の解剖と機能について解説する		期末試験に備える	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	中間および期末試験の結果に基づき評価する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				100%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	試験のフィードバックは問合せに対して個別に対応する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず教科書を購入すること ・非常に情報量の多い科目なので、必ず授業外学修を行うこと。これを前提に講義を展開していく。講義の進行は非常に速いので、授業外学修を行わなければ講義についてこれられないことを認識し、講義に臨むこと ・アスレティックトレーニング論 を履修予定の学生は、必ず履修すること ・他の学生の迷惑となるような行動をとる学生については、指導後も改善が見られない場合、以後 				
関連科目	日本スポーツ協会アスレティックトレーナー関連科目				
関連資格	日本スポーツ協会アスレティックトレーナー、JPSUスポーツトレーナー				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	日本体育協会公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特に指定しない				
オフィス アワー	火曜日14時20分～15時50分(山口)				
GCR	4cfreyh				
その他	問い合わせ：第4体育館1階山口研究室 tk-yamaguchi@sendai-u.ac.jp				

感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
112030	S-TRM331J-01 、N-	コンディショニング論																					
科目名(英字)	Introduction to Conditioning																						
学科	体育学科、スポーツ栄養学科、現代武道学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	講義	単位数	2																		
担当教員	小勝 健司 / 高橋 陽介			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	高校・大学・プロ現場でアスレティックトレーナーとしての実務経験を有する。																						
授業の概要	コンディショニングは競技スポーツにおいて勝つための全ての準備といえる。コンディショニングにおいてアスレティックトレーナーが関わる領域を挙げ、それらの主要な内容を実務経験を活かして具体的な事例を交え解説する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	コーチ、医科学スタッフらとも連携し、競技者に対し最適なコンディショニングプランを提供できるように、その調整方法を幅広い領域から学習し、習得する。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>コンディショニング分野全般に関する基本的な知識について、十分に理解している。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>高いレベルでコンディショニングに関するより良い指導を追求することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	コンディショニング分野全般に関する基本的な知識について、十分に理解している。		情意的領域	高いレベルでコンディショニングに関するより良い指導を追求することができる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	コンディショニング分野全般に関する基本的な知識について、十分に理解している。																					
	情意的領域	高いレベルでコンディショニングに関するより良い指導を追求することができる。																					
	技能表現的領域																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>コンディショニング分野全般に関する基本的な知識について、最低限理解している。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>最低限のコンディショニングに関するより良い指導を追求することが認められる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	コンディショニング分野全般に関する基本的な知識について、最低限理解している。		情意的領域	最低限のコンディショニングに関するより良い指導を追求することが認められる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	コンディショニング分野全般に関する基本的な知識について、最低限理解している。																					
	情意的領域	最低限のコンディショニングに関するより良い指導を追求することが認められる。																					
	技能表現的領域																						

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
コンディショニング分野全般に関する基本的な知識への理解。	コンディショニング分野全般に関する基本的な知識について、十分に理解した上で、他人に説明することができる。	コンディショニング分野全般に関する基本的な知識について、十分に理解している。	コンディショニング分野全般に関する基本的な知識について、ほぼ理解している。	コンディショニング分野全般に関する基本的な知識について、最低限理解している。	コンディショニング分野全般に関する基本的な知識について、理解していない。
選手、対象者に対してコンディショニングに関するより良い指導を追求する意識。	非常に高いレベルでコンディショニングに関するより良い指導を追求することができる。	高いレベルでコンディショニングに関するより良い指導を追求することができる。	コンディショニングに関するより良い指導を追求することが認められる。	最低限のコンディショニングに関するより良い指導を追求することが認められる。	コンディショニングに関するより良い指導を追求することが認められない。
積極的に授業に参加できる。	授業目標を意識して積極的に授業に参加し、主体的に学ぶことができる。	授業目標を意識して積極的に授業に参加することができる。	授業目標を意識してある程度、授業に参加することができる。	授業目標を意識して最低限、授業に参加することができる。	授業目標を意識して授業に参加することができない。
授業計画（全体）	授業テーマに合わせたパワーポイントの資料を中心に講義を行う。必要に応じ、資料を配布する。テーマにより実技を行い理解を深める。				

授業計画（各回のテーマ等）					
回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション/コンディショニング概論（小勝）	担当教員紹介、授業概要、授業目標、授業計画、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明/コンディショニングの概念、目的について説明		シラバスの熟読/教科書p2-5を読んで復習と予習をする	4時間
2.	コンディショニングの要素（小勝）	コンディショニングに関わる身体的因子について説明		教科書p6-11を読んで復習と予習をする	4時間
3.	コンディショニングの要素（小勝）	コンディショニングに関わる環境的因子、心理的因子について説明		教科書p12-26を読んで復習と予習をする	4時間
4.	コンディション評価（高橋）	コンディション評価の目的、方法について説明		教科書p27-51を読んで復習と予習をする	4時間
5.	コンディション評価（高橋）	コンディション評価の目的、方法について説明		教科書p27-51を読んで復習と予習をする	4時間
6.	トレーニングの基礎（高橋）	トレーニング計画を作成する際の基礎知識について説明		教科書p52-64を読んで復習と予習をする	4時間
7.	トレーニング計画（高橋）	トレーニング計画の立案、設計について説明		教科書p65-77を読んで復習と予習をする	4時間
8.	トレーニング計画（高橋）	トレーニング計画の立案、設計について説明		教科書p78-85を読んで予習と復習をする	4時間
9.	代謝系トレーニング（小勝）	代謝系トレーニングの方法、実施時の注意点について説明		教科書p86-90;91-95を読んで予習と復習をする	4時間
10.	レジスタンストレーニング（小勝）	レジスタンストレーニングの方法、実施時の注意点について説明		教科書p86-90;p95-118を読んで復習と予習をする	4時間

11.	スタビライゼーション・アジリティトレーニング (小勝)	スタビライゼーション・アジリティトレーニングの方法、実施時の注意点について説明	教科書p86-90;p127-148を読んで復習する	4時間
12.	コーディネーション・サーキットトレーニング (小勝)	コーディネーション・サーキットトレーニングの方法、実施時の注意点について説明	教科書p86-90;p119-126;p162-177を読んで復習する	4時間
13.	スプリント・エンデュランストレーニング (小勝)	スプリント・エンデュランストレーニングの方法、実施時の注意点について説明	教科書p149-161を読んで復習する	4時間
14.	ストレッチングとウォーミングアップ・クーリングダウン (小勝)	ストレッチングとウォーミングアップ、クーリングダウンの方法、実施時の注意点について説明	教科書p178-213;p272-279を読んで復習と予習をする	4時間
15.	テーピング・マッサージ・アクアコンディショニング (高橋)	テーピング・マッサージ・アクアコンディショニングの方法、実施時の注意点について説明	教科書p214-271を読んで復習と予習をする	4時間
16.				
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				
23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				

成績評価方法 (方針)	評価は筆記試験(評価割合100%)のみとし、原則として再試・追試は行わないものとする。試験については、必要に応じ解説をしながら返却する。出席は評価割合に加えず欠格条件とする。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				80%
	授業内レポート	○			10%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度	○			10%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは、(授業内で)解説をしながら返却する。試験については、授業内で解説をしながら返却、もしくはGoogleclassroom内で解説をしながら返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー受験希望者が望ましい。 ・2/3以上の出席が無い学生は評価対象外とする(欠格条件)。 ・授業計画は、授業の進み方により多少前後することがある。 ・授業内の質問、態度も評価の対象とする。 				
関連科目	コンディショニング実習				
関連資格	健康運動実践指導者資格、JSP0 - AT資格、JPSUスポーツトレーナー資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	日本スポーツ協会公認AT専門科目テキスト	日本スポーツ協会	文光堂		
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
オフィス アワー	水曜日12:40~14:10 第2体育館2階 小勝研究室				
GCR	m5pq4aw				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
121030	N-MED321J-01 、 I-	運動障害救急法（含実習）																					
科目名(英字)	Emergency Care for Sports injury																						
学科	スポーツ栄養学科、スポーツ情報メディア学科、現代武道学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	遠隔授業		単位数	2																	
担当教員	橋本 実			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	医療現場での実務経験を有する																						
授業の概要	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害の知識と対処方法について解説する スポーツドクターの立場から固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDの使用方法を解説し、実習もおこなう																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	スポーツ現場でおこる、外傷、障害にたいし正しい対処ができるようになる 固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDを適切におこなえるようになる																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を十分に理解する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと積極的に努力する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を十分に理解する		情意的領域	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと積極的に努力する		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を十分に理解する																					
	情意的領域	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと積極的に努力する																					
	技能表現的領域																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する		情意的領域	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する																					
	情意的領域	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する																					
	技能表現的領域																						

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
外傷、障害などの知識と対処方法	外傷、障害などの知識と対処方法を十分に理解した上で、他人に伝えることができる	外傷、障害などの知識と対処方法を十分に理解する	外傷、障害などの知識と対処方法がある程度、理解する	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する	外傷、障害などの知識と対処方法を理解しない
スポーツ現場でおきた外傷、障害の対応	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと積極的に努力しながら、自ら新たな課題に取り組むことができる	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと積極的に努力する	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようとする程度、努力する	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力しない
ループリク					

授業計画（全体）	<p>授業は毎回講義動画を視聴し、理解を深める。また、講義ノート（教科書）に書き込みながら理解を深める。 授業の終わりに毎回小テストなどをおこない、知識を整理する。</p>
----------	--

授業計画（各回のテーマ等）					
回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	授業の進め方などについて説明する		プリントを配布するので参考にすること	4時間
2.	外傷	外傷の分類、重症度などについて説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
3.	外傷の新しい治療	外傷の新しい治療について説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
4.	固定法	様々な方法による上肢の固定法について説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
5.	止血法	様々な方法による止血法について説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
6.	脳震盪	脳震盪の分類、重症度などについて説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
7.	頭部外傷	頭部外傷の分類、重症度などについて説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
8.	救急処置（実習）	包帯、三角巾の使用方法、RICE、傷の治療を実習する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
9.	前半の振り返りと試験	講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう		講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
10.	熱中症	熱中症の分類、重症度などについて説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間

11.	熱中症	熱中症の対処方法、予防法などについて説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
12.	心肺蘇生法	心肺蘇生法について説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
13.	AEDを使った心肺蘇生法	AEDを使った心肺蘇生法について説明する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
14.	救急処置（実習）	AED、AED実習器具を使って実習する		授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
15.	後半の振り返りと試験	講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう		講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	<p>単位認定には、全ての授業の受講が完了、試験に合格、提出を求められた課題を全て提出が必要条件。 各授業はICTツールの記録と小テストで履修状況を把握し、条件に満たない場合は欠席となるので、補講を受けること。 試験は60点以上を合格とする。試験では履修者本人が購入した講義ノートのみ、持ち込みを認める。 小テスト結果及びレポートはLMS上で運用する。 成績はルーブリックに照らし、総合的に判定する。</p>																																							
成績評価方法 (詳細)	<table border="1" data-bbox="308 333 1517 636"> <thead> <tr> <th>評価方法/到達目標</th> <th>認知的領域</th> <th>情意的領域</th> <th>技能表現的領域</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価対象外</td> </tr> <tr> <td>授業外レポート</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>演習・実技</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価対象外</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価対象外</td> </tr> <tr> <td>出席</td> <td colspan="4">欠格条件</td> </tr> </tbody> </table>					評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	定期試験				90%	授業内レポート				評価対象外	授業外レポート	○			10%	演習・実技				評価対象外	授業態度				評価対象外	出席	欠格条件			
評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)																																				
定期試験				90%																																				
授業内レポート				評価対象外																																				
授業外レポート	○			10%																																				
演習・実技				評価対象外																																				
授業態度				評価対象外																																				
出席	欠格条件																																							
レポートの実施・返却(方針)	レポートについては授業内で指示する。																																							
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<p>講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。 能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、自分のPCを用意し、学内メールアドレスを使用出来る事が必要条件となる。</p>																																							
関連科目																																								
関連資格																																								
教科書	<table border="1" data-bbox="308 1225 1517 1547"> <thead> <tr> <th>書名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>運動障害救急法 講義ノート</td> <td>橋本実</td> <td>ポラーノ出版</td> <td>2024</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					書名	著者	出版社	出版年	ISBN	運動障害救急法 講義ノート	橋本実	ポラーノ出版	2024																										
書名	著者	出版社	出版年	ISBN																																				
運動障害救急法 講義ノート	橋本実	ポラーノ出版	2024																																					
参考書	<table border="1" data-bbox="308 1554 1517 1877"> <thead> <tr> <th>書名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特になし</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					書名	著者	出版社	出版年	ISBN	特になし																													
書名	著者	出版社	出版年	ISBN																																				
特になし																																								
オフィス アワー	教育企画課で確認して下さい																																							
GCR	u5felkm																																							
その他																																								
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。																																								

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
515020	H-FTE021J-02 1-	教育の心理																					
科目名(英字)	Educational Psychology																						
学科	健康福祉学科、スポーツ情報メディア学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	荒井 龍弥			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	小学校、高等学校の教員経験、中学校長の実務経験を有する。																						
授業の概要	学習援助をより効果的にするためには、教育の場にあるさまざまなものごと（学ぶ者、援助する者、教える行為など）を要因群として捉える分析的な観点が重要である。これらのうち、学習過程ならびに心身の発達を中心としたの諸概念について実務経験に照らしつつ概説するとともに、学習結果を捉える枠組みとしての教育評価についてもとりあげる。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	学習・発達・人格・知能・評価等、教育心理学で取り上げられる諸概念に関し、一般に信じられている常識的言説を再認できるようになるとともに、それらの言説に対して一定の根拠をもって自分なりの見解を述べられるようになる。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>学習・発達・人格・評価などの領域に関する教員採用試験レベルの問題に自発的に取り組むことができるとともに、自分の考えの変化を認識できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>教員や指導者の考え方・論理を活かした学習指導場面を自分なりに指摘することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>具体的指導場面における児童生徒の考えやそれまでに持っている知識技能などについて予測し表現できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	学習・発達・人格・評価などの領域に関する教員採用試験レベルの問題に自発的に取り組むことができるとともに、自分の考えの変化を認識できる。		情意的領域	教員や指導者の考え方・論理を活かした学習指導場面を自分なりに指摘することができる。		技能表現的領域	具体的指導場面における児童生徒の考えやそれまでに持っている知識技能などについて予測し表現できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	学習・発達・人格・評価などの領域に関する教員採用試験レベルの問題に自発的に取り組むことができるとともに、自分の考えの変化を認識できる。																					
	情意的領域	教員や指導者の考え方・論理を活かした学習指導場面を自分なりに指摘することができる。																					
	技能表現的領域	具体的指導場面における児童生徒の考えやそれまでに持っている知識技能などについて予測し表現できる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>学習・発達・人格・知能・評価などをめぐる一般的言説と学術的概念の違いを指摘できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>学習を援助する立場からの考え方や論理を理解することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>児童生徒の考えかたの特徴などについて表現することができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	学習・発達・人格・知能・評価などをめぐる一般的言説と学術的概念の違いを指摘できる。		情意的領域	学習を援助する立場からの考え方や論理を理解することができる。		技能表現的領域	児童生徒の考えかたの特徴などについて表現することができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	学習・発達・人格・知能・評価などをめぐる一般的言説と学術的概念の違いを指摘できる。																					
	情意的領域	学習を援助する立場からの考え方や論理を理解することができる。																					
	技能表現的領域	児童生徒の考えかたの特徴などについて表現することができる。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
学習・発達・人格・知能・評価などをめぐる一般の言説を再認できるとともに、それに対する自分なりの見解を述べることができる。	各領域に関する教員採用試験レベルの問題に自発的に取り組むことができるとともに、自分の考えの変化を説明できる。	各領域に関する教員採用試験レベルの問題に自発的に取り組むことができるとともに、自分の考えの変化を認識できる。	各領域に関する教員採用試験レベルの問題に取り組み、解答を検討することができる。	学習・発達・人格・知能・評価などをめぐる一般の言説と学術的概念的の違いを指摘できる。	指導者として各領域に関する教育心理学的知見を持つことの必要性が理解できない。
学習を援助する立場からの考え方や論理を理解するとともに、自らもその視座から諸事象を検討したり考えたりすることができる。	教員や指導者の考え方・論理を活かした具体的学習指導場面を的確に自分なりに考えることができる。	教員や指導者の考え方・論理を活かした学習指導場面を自分なりに指摘することができる。	さまざまな教員や指導者の考え方や論理を理解することができる。	教員・指導者の立場にたった考えかたや論理を理解することができる。	学生の立場と教員・指導者の立場の違いを意識することができない。
学習者の視座を推測し、それに対する指導者としての向き合いについて間主観的な表現をすることができる。	具体的指導場面における児童生徒の考えやそれまでに持っている知識技能などについての確に予測し表現できる。	具体的指導場面における児童生徒の考えやそれまでに持っている知識技能などについて予測し表現できる。	特定の指導場面における児童生徒の考えやそれまでに持っている知識技能などについて予測し表現できる。	児童生徒の考えかたの特徴などについて表現することができる。	責任をもって児童生徒の成長に関与しようとする教師の立場を理解できない。
ルーブリック					
授業計画（全体）	教育心理学の学問領域を学習過程ならびに心身の発達、教育評価、個人差の4領域に大きく分け、各領域の知見に関する講義を行うとともに、それに対する考え方を築くための時間も設ける。				

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション・教育心理学とは何か	教育心理学とはどんな学問かを説明し、その意義や必要性を考える。		教育心理学の枠組みが教師としてどのように活かせるか考えてみること。	4時間
2.	学習と知識の獲得	学習、知識の獲得をめぐる一般の信念と2種の心理学的アプローチについて検討し、教師として生徒に得させるべき知識内容を考える。		二種の心理学的アプローチについてネット等で調べてみること	4時間
3.	学習内容の表象	学習した内容の適用範囲により2通りの考え方があることを紹介し、この枠組みから教師が獲得させたい学習内容について再検討する。		具体例で生産的学習と再生的学習を当てはめてみること	4時間
4.	動機づけと欲求・要求	動機づけの2分類を紹介するとともに、内発的動機を高める取り組みについてグループで考える。		自分の行動を動機付けの観点から自省すること	4時間
5.	原因帰属	内発的動機を高める方策として原因帰属に着目し、それらの違いによる効果を考えてみる。		自己効力感を高めるとされる取り組みについて調べること	4時間
6.	人格その1 さまざまな人格検査	人格検査のいろいろについて検討するとともに、それぞれのメリット・デメリットとその効用について考える。		興味のある人格検査についてより詳細に調べてみること	4時間
7.	人格その2 人格の諸理論	類型論、特性論、状況主義といった人格をめぐる諸理論を紹介し、自らの人格観を再検討する。		状況主義の観点から生徒指導について考えてみること	4時間
8.	発達その1 さまざまな発達段階説	各種の発達段階説について紹介するとともに、特に生徒の道徳的発達段階について検討する。		各種発達段階説の観点や内容を整理しておくこと	4時間
9.	発達その2 より配慮を必要とする児童生徒の特徴	特別支援教育内外の障がいにかかわる事例や発達障がいの症例等を紹介し、教育の役割について改めて考える。		特に発達障がいの症例についてまとめておくこと	4時間
10.	発達その3 障がいのある子どもの発達の促進	ヴィゴツキーの最近接領域理論の観点から、障がいを抱えた子どもの発達事例を紹介し、教育の役割について再検討する。		特定の児童生徒への対応について原案を作成してみること	4時間

11.	知能と知能検査	知能という概念の必要性と検査内容、ならびに知能指数をめぐる諸説を紹介し、自らの知能観を吟味する。	知能という観点から児童生徒理解をする方法の得失を考えること。	4時間
12.	評価その1 教育評価と測定	教育評価と測定の違いを通じ、評価の目的について考える。また、具体的事例により課題空間・測定空間について検討する。	実技を含む特定の単元について評価計画を考えてみること。	4時間
13.	評価その2 完全習得学習と実技における評価	ブルームの完全習得学習の枠組みや比較対象としての絶対評価・相対評価等を検討し、体育実技での評価を検討する。	自分の評価計画を評価時点別に再考し、修正すること	4時間
14.	学習集団の質と特徴	学習集団のモラル等の諸特徴について紹介し、教師として必要な「集団づくり」の重要性について考える。	「授業開き」や「学級開き」で何をすべきか、まとめておくこと	4時間
15.	まとめ 教育現場における教育心理学の発展	小・中学校による実務経験に照らし、教育現場での学習者像とその検討を紹介することにより、教育心理学的観点を再確認する。	紹介した検討事項について自分なりに考えてみること	4時間
16.				
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				
23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				

成績評価方法 (方針)	相互の評価のために、授業内課題の回答結果を検討し、フィードバックする。これらの結果と、出席状況やテスト・レポートの結果を材料として成績評定を行う。なお、出席状況は単位認定のための必要条件とする(欠席が多い場合には評価対象としない)。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				30%
	授業内レポート		○	○	60%
	授業外レポート	○		○	10%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	各種レポート等の内容は授業中に紹介することによりフィードバックする。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	他の講義同様、本講で扱う知見も、さまざまな対象・場面に適用可能なものである。自分なりの例を探して当てはめることでその妥当性を判断する作業をしてほしい。こういった作業が内容理解の定着につながり、ひいては教員採用試験などの対策にもつながる。				
関連科目	教育方法論、教職総合演習				
関連資格	中学・高校教諭(保健体育・福祉)・栄養教諭・養護教諭・社会教育主事任用資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	指定しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	シードブック教育心理学	本郷・八木編	建帛社	2008	978-4-7679-3226-2
	授業に学び授業を創る教育心理学第二版	宇野忍編	中央法規	2002	4-8058-2170-1
オフィス アワー	前期 月曜 14:20-15:50、後期 水曜 12:40-14:10 (荒井研究室 A棟309)				
GCR	u2ntkyu				
その他	各自所有のPC等を使用することがあります。この際は前回までに連絡します。				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
554010	H-MED321J-01 、N-	スポーツ医学概論																					
科目名(英字)	Introduction to Sports Medicine																						
学科	健康福祉学科、スポーツ栄養学科、スポーツ情報メディア学科、子ども運動教育学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	橋本 実			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	医療現場での実務経験を有する																						
授業の概要	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびドーピングを含むスポーツ医学に関する基礎知識を解説する																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびドーピングを含むスポーツ医学に関する基礎知識を理解する																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびドーピングを含むスポーツ医学に関する基礎知識を十分に理解する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびドーピングを含むスポーツ医学に関する基礎知識を活用するよう、十分に努力する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびドーピングを含むスポーツ医学に関する基礎知識を十分に理解する		情意的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびドーピングを含むスポーツ医学に関する基礎知識を活用するよう、十分に努力する		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびドーピングを含むスポーツ医学に関する基礎知識を十分に理解する																					
	情意的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびドーピングを含むスポーツ医学に関する基礎知識を活用するよう、十分に努力する																					
	技能表現的領域																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を理解する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を、活用するよう努力する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を理解する		情意的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を、活用するよう努力する		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を理解する																					
	情意的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を、活用するよう努力する																					
	技能表現的領域																						

評価項目	評価基準					
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない	
	秀	優	良	可	不可・放棄	
ルーブリック	知識の理解	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を十分に理解するだけでなく、自ら新たな知識の獲得に努めることができる。	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を十分に理解する	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識をある程度理解する	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を理解する	知識を理解しない
	知識の活用	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を活用するよう、十分に努力するだけでなく、自ら新たな活用に努めることができる。	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を活用するよう、十分に努力する	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を活用するよう、ある程度、努力する	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を、活用するよう努力する	知識を活用しない
授業計画（全体）	<p>授業は毎回講義動画を視聴し、理解を深める。また、講義ノート（教科書）に書き込みながら理解を深める。 授業の終わりに毎回小テストなどをおこない、知識を整理する。</p>					

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	授業の進め方などについて説明		当日配布するプリントを参照すること	4時間
2.	スポーツ医学の基礎	スポーツ医学の基本的なことについて説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
3.	ドーピング	ドーピングに関連する知識について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
4.	ドーピング	ドーピングに関連する防止策や実態について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
5.	呼吸器	スポーツに関連する呼吸器の知識について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
6.	循環器	スポーツに関連する循環器の知識について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
7.	遺伝	スポーツに関連する遺伝の知識について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
8.	前半の振り返りと試験	講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう		講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
9.	体液	スポーツに関連する体液の知識について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
10.	細胞	スポーツに関連する細胞の知識について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間

11.	免疫	スポーツに関連する免疫の知識について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
12.	赤血球	スポーツに関連する赤血球の知識について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
13.	高地トレーニングと貧血	高地トレーニングと貧血に関連する知識について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
14.	骨格筋	スポーツに関連する骨格筋の知識について説明する		授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
15.	後半の振り返りと試験	講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう		講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	<p>単位認定には、全ての授業の受講が完了、試験に合格、提出を求められた課題を全て提出が必要条件。 各授業はICTツールの記録と小テストで履修状況を把握し、条件に満たない場合は欠席となるので、補講を受けること。 試験は60点以上を合格とする。試験では履修者本人が購入した講義ノートのみ、持ち込みを認める。 小テスト結果及びレポートはLMS上で運用する。 成績はルーブリックに照らし、総合的に判定する。</p>																																							
成績評価方法 (詳細)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法/到達目標</th> <th>認知的領域</th> <th>情意的領域</th> <th>技能表現的領域</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価対象外</td> </tr> <tr> <td>授業外レポート</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>演習・実技</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価対象外</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価対象外</td> </tr> <tr> <td>出席</td> <td colspan="4">欠格条件</td> </tr> </tbody> </table>	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	定期試験				90%	授業内レポート				評価対象外	授業外レポート	○			10%	演習・実技				評価対象外	授業態度				評価対象外	出席	欠格条件							
評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)																																				
定期試験				90%																																				
授業内レポート				評価対象外																																				
授業外レポート	○			10%																																				
演習・実技				評価対象外																																				
授業態度				評価対象外																																				
出席	欠格条件																																							
レポートの実施・返却(方針)	レポートについては授業内で指示する。																																							
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<p>講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。 能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、自分のPCを用意し、学内メールアドレスを使用出来る事が必要条件となる。</p>																																							
関連科目																																								
関連資格																																								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>書名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スポーツ医学概論 講義ノート</td> <td>橋本実</td> <td>ポラーノ出版</td> <td>2024</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	書名	著者	出版社	出版年	ISBN	スポーツ医学概論 講義ノート	橋本実	ポラーノ出版	2024																														
書名	著者	出版社	出版年	ISBN																																				
スポーツ医学概論 講義ノート	橋本実	ポラーノ出版	2024																																					
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>書名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特になし</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	書名	著者	出版社	出版年	ISBN	特になし																																	
書名	著者	出版社	出版年	ISBN																																				
特になし																																								
オフィス アワー	教育企画課で確認して下さい																																							
GCR	2esnqot																																							
その他																																								
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。																																								

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
154180	T-fye332J-01	養護演習																					
科目名(英字)	Seminar on School Nurse																						
学科	健康福祉学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	演習		単位数	2																	
担当教員	重巢 吉美			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	教員経験（養護教諭も含む）を有する																						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「養護概説」で既習した基礎基本を踏まえて、さらに深化する内容について概説する。 ・養護実践を展開するために必要な知識と方法を理解する。また、基礎的な技術を身に付ける。 																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・養護の本質と概念を理解した上で、教育職員としての養護教諭の専門性をさらに理解を深め広げる。 ・子どもたちの健やかな発育発達のために、学校教育の中で果たす養護教諭の職務についてもさらに理解を深める。 ・基本的事項を繰り返し学び、積極的に習熟を図る。 																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>養護教諭の職務の特質について法的根拠を踏まえて、説明することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>「養護教諭としてできること」「自分が養護教諭だったら」を主体的に考察し、表現することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>様々な課題に応じた支援内容を十分踏まえて、養護教諭の専門性を理解した工夫や実践をすることができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	養護教諭の職務の特質について法的根拠を踏まえて、説明することができる。		情意的領域	「養護教諭としてできること」「自分が養護教諭だったら」を主体的に考察し、表現することができる。		技能表現的領域	様々な課題に応じた支援内容を十分踏まえて、養護教諭の専門性を理解した工夫や実践をすることができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	養護教諭の職務の特質について法的根拠を踏まえて、説明することができる。																					
	情意的領域	「養護教諭としてできること」「自分が養護教諭だったら」を主体的に考察し、表現することができる。																					
	技能表現的領域	様々な課題に応じた支援内容を十分踏まえて、養護教諭の専門性を理解した工夫や実践をすることができる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>養護教諭の職務の特質について法的根拠について不足するが、説明することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>「養護教諭としてできること」「自分が養護教諭だったら」を考察し、表現しようとする事ができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>様々な課題に応じた支援内容を十分踏まえて、養護教諭の専門性を理解した工夫や実践をしようとする事ができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	養護教諭の職務の特質について法的根拠について不足するが、説明することができる。		情意的領域	「養護教諭としてできること」「自分が養護教諭だったら」を考察し、表現しようとする事ができる。		技能表現的領域	様々な課題に応じた支援内容を十分踏まえて、養護教諭の専門性を理解した工夫や実践をしようとする事ができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	養護教諭の職務の特質について法的根拠について不足するが、説明することができる。																					
	情意的領域	「養護教諭としてできること」「自分が養護教諭だったら」を考察し、表現しようとする事ができる。																					
	技能表現的領域	様々な課題に応じた支援内容を十分踏まえて、養護教諭の専門性を理解した工夫や実践をしようとする事ができる。																					

	評価項目	評価基準				
		十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
		秀	優	良	可	不可・放棄
ルーブリック	養護教諭の職務についての知識を理解する	養護教諭の職務の特質について法的根拠を踏まえて、十分説明することができる。	養護教諭の職務の特質について法的根拠を踏まえて、説明することができる。	養護教諭の職務の特質について法的根拠を踏まえて概ね説明することができる。	養護教諭の職務の特質について法的根拠について不足するが、説明することができる。	養護教諭の職務の特質について法的根拠を踏まえて説明することができない。
	「養護教諭としてできること」「自分が養護教諭だったら」を考察し、表現することができる	「養護教諭としてできること」「自分が養護教諭だったら」を主体的に考察し、十分に表現することができる	「養護教諭としてできること」「自分が養護教諭だったら」を主体的に考察し、表現することができる	「養護教諭としてできること」「自分が養護教諭だったら」を考察し、概ね表現することができる	「養護教諭としてできること」「自分が養護教諭だったら」を考察し、表現しようとするることができる	「養護教諭としてできること」「自分が養護教諭だったら」を考察したり、表現したりすることができない。
	養護教諭の支援について、専門性を理解した上で工夫や実践をする	様々な課題に応じた支援内容を十分踏まえて、養護教諭の専門性を理解した工夫・実践を十分することができる	様々な課題に応じた支援内容を十分踏まえて、養護教諭の専門性を理解した工夫や実践を十分することができる	様々な課題に応じた支援内容を十分踏まえて、養護教諭の専門性を理解した工夫や実践を概ねすることができる	様々な課題に応じた支援内容を十分踏まえて、養護教諭の専門性を理解した工夫や実践をしようとするることができる	様々な課題に応じた支援内容の理解が不足し、養護教諭の専門性を理解した工夫や実践に皆符を要する。
授業計画（全体）	<ul style="list-style-type: none"> ・教員、養護教諭としての教育的関わりを達成するためのスキルの重要性を理解する。 ・児童生徒個々の発育・成長に関する健康状態を正しく把握する観察力の基礎を学ぶ。 ・健康課題や問題発生を想定し、適切にアセスメントする実践力の基礎を学ぶ。 ・課題解決するための実践力・企画力・調整能力の基礎を学ぶ。 					

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション 学校保健について	授業内容の確認 学校保健計画を立案する方法を説明する		シラバスを熟読しておく	4
2.	健康診断の実際	健康診断の実際及び事後措置について理解し、その基礎的な技術を身につける。健康診断計画と保健調査		既習科目や関連する科目内容の復習	4
3.	健康診断の実際	健康診断の実際及び事後措置について理解し、その基礎的な技術を身につける。 菌式の記入と健康診断票		既習科目や関連する科目内容の復習	4
4.	疾病の予防と管理	学校で予防すべき疾病及びその管理について理解する。 学校生活管理指導表の理解		既習科目や関連する科目内容の復習	4
5.	学校環境衛生の実際	学校環境衛生検査についての復習 主な検査についての実際（水質検査、空気検査、照度検査、騒音検査等）検査機器の確認		既習科目や関連する科目内容の復習	4
6.	学校安全と危機管理及び救急処置	学校安全計画及び危機管理に関する計画について理解する 救急処置の基礎基本を活かしてアセスメントする		既習科目や関連する科目内容の復習	4
7.	健康相談	養護教諭が行う健康相談活動に必要なとされる諸理論や技法を理解する 具体的に進めていくための具体的な方法・技法		既習科目や関連する科目内容の復習	4
8.	課題に応じた養護活動	子どもに多い急性期症状（内科） ・アセスメント ・応急手当		既習科目や関連する科目内容の復習	4
9.	課題に応じた養護活動	子どもに多い外科的の症状 ・アセスメント ・応急手当		既習科目や関連する科目内容の復習	4
10.	課題に応じた養護活動	熱中症の理解とその対応		既習科目や関連する科目内容の復習	4

11.	課題に応じた養護活動	アレルギー疾患とその対応 ・エピペン（アドレナリン自己注射）の演習		既習科目や関連する科目内容の復習	4
12.	課題に応じた養護活動	感染症の理解とその対応 ・学校としての感染症対策や出席停止の考え方について理解を深める		既習科目や関連する科目内容の復習	4
13.	課題に応じた養護活動	メンタルヘルスと心のケアについて理解する ・子どもの精神疾患 ・特別に支援を要する児童生徒への対応		既習科目や関連する科目内容の復習	4
14.	保健室経営と組織活動	保健室経営計画の立案 チーム学校における連携・協働について理解し、学校保健委員会について考える		既習科目や関連する科目内容の復習	4
15.	まとめと考査	これまでの振り返りと今後の授業へのつながりについて理解する		これまでの授業資料の復習	4
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の目標内容については、筆記試験、レポートで評価する。 ・実技の評価は、授業中の取り組みや技術的能力を見極める。 				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				80
	授業内レポート		○		10
	授業外レポート				
	演習・実技	○			10
	授業態度				
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートにはコメントを付して返却する。また、必要に応じ授業で解説する。 				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上出席しない学生は、単位を修得することができない。 ・授業態度も評価の対象とする。(欠格条件) 				
関連科目	教職論B 養護学概論 看護学実習 学校保健学 医学一般				
関連資格	養護教諭一種免許				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	学校保健実務必携				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	なし				
オフィス アワー	水14:20～15:50 F209				
GCR	w3smj3v				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名															
141040	S-MED331J-01	スポーツ傷害評価法															
科目名(英字)	Sports Injury Prevention & Evaluation																
学科	体育学科			学年	3年												
学期	前期	授業形態	講義		単位数												
					2												
担当教員	山口 貴久 / 小勝 健司			開講の別	同時開講												
実務経験の有無	アスレティックトレーナーとして様々なスポーツ現場での実務経験を有する																
授業の概要	アスレティックトレーナーの業務として、応急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニングなどの場面で必要とされる、適切な評価方法、各種テスト方法について、実務経験を活かしアスレティックトレーナーの観点から理論とともに実技を交えて解説する。																
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V							
I	II	III	IV	V													
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <thead> <tr> <th>課題解決型学習 (PBL)</th> <th>反転学習</th> <th>ディスカッション</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ディベート</td> <td>グループワーク</td> <td>プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習 (PBL)	反転学習	ディスカッション	ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	実習	フィールドワーク				
課題解決型学習 (PBL)	反転学習	ディスカッション															
ディベート	グループワーク	プレゼンテーション															
実習	フィールドワーク																
授業の一般目標	応急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニングにおける評価、検査の意義、基礎知識を理解し、スポーツ傷害の評価が実施できる。																
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>各種検査法を解剖学的観点から十分に説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>授業へ十分積極的に参加できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>各種検査法を十分に実施できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	各種検査法を解剖学的観点から十分に説明できる。		情意的領域	授業へ十分積極的に参加できる。		技能表現的領域	各種検査法を十分に実施できる。
対象	領域	内容															
	認知的領域	各種検査法を解剖学的観点から十分に説明できる。															
	情意的領域	授業へ十分積極的に参加できる。															
	技能表現的領域	各種検査法を十分に実施できる。															
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>各種検査法を解剖学的観点から最低限説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>授業へ最低限積極的に参加できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>各種検査法を最低限実施できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	各種検査法を解剖学的観点から最低限説明できる。		情意的領域	授業へ最低限積極的に参加できる。		技能表現的領域	各種検査法を最低限実施できる。
対象	領域	内容															
	認知的領域	各種検査法を解剖学的観点から最低限説明できる。															
	情意的領域	授業へ最低限積極的に参加できる。															
	技能表現的領域	各種検査法を最低限実施できる。															

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
各種検査法の理解	各種検査法を解剖学的観点から十分に説明でき、スポーツ傷害の評価に必要な各種検査方法を列挙できる。	各種検査法を解剖学的観点から十分に説明できる。	各種検査法を解剖学的観点から概ね説明できる。	各種検査法を解剖学的観点から最低限説明できる。	各種検査法を解剖学的観点から説明できない。
授業への参加	授業へ十分積極的に参加でき、他人を巻き込むことができる。	授業へ十分積極的に参加できる。	授業へ概ね積極的に参加できる。	授業へ最低限積極的に参加できる。	授業へ積極的に参加できない。
各種検査法の実施	各種検査法を十分に実施でき、その結果の意味を理解している。	各種検査法を十分に実施できる。	各種検査法を概ね実施できる。	各種検査法を最低限実施できる。	各種検査法を実施できない。

ルーブリック

授業計画（全体）	スポーツ傷害の概要およびその予防法について身体部位ごとに解説し、またその評価法について実技を交えながら学修する。
----------	--

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明		教科書 p2-19を熟読する	4時間
2.	評価、検査の意義と基礎	評価、検査の目的、評価、検査に必要な基本能力について解説する		教科書 p130-135を熟読する	4時間
3.	足部・足関節の外傷	足部と足関節のスポーツ外傷とその評価について解説する		教科書 p135-155を熟読する	4時間
4.	足部・足関節の障害	足部と足関節のスポーツ障害とその評価について解説する		教科書 p101-110を熟読する	4時間
5.	膝関節の外傷	膝関節のスポーツ外傷とその評価について解説する		教科書 p111-118を熟読する	4時間
6.	膝関節の障害	膝関節のスポーツ障害とその評価について解説する		教科書 p119-129を熟読する	4時間
7.	下腿部の外傷と障害	下腿部のスポーツ外傷・障害とその評価について解説する		教科書 p85-98を熟読する	4時間
8.	大腿部の外傷と障害	大腿部のスポーツ外傷・障害とその評価について解説する		教科書 p49-56を熟読する	4時間
9.	肩関節の外傷	肩関節のスポーツ外傷とその評価について解説する		教科書 p56-57を熟読する	4時間
10.	肩関節の障害	肩関節のスポーツ障害とその評価について解説する		教科書 p59-69を熟読する	4時間

11.	肘関節の外傷と障害	肘関節のスポーツ外傷・障害とその評価について解説する		教科書 p70-84を熟読する	4時間
12.	手関節の外傷と障害	手関節のスポーツ外傷・障害とその評価について解説する		教科書 p6-19を熟読する	4時間
13.	頸部の外傷	頸部のスポーツ外傷とその評価について解説する		教科書 p20-26を熟読する	4時間
14.	腰部の外傷と障害	腰部のスポーツ外傷・障害とその評価について解説する		実技試験に備える	4時間
15.	実技試験	スポーツ傷害とその評価方法について実技試験を行う		筆記試験に備える	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	授業への取り組み姿勢、および実技試験と筆記試験の結果に基づき評価する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)
	定期試験				100%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	実技試験のフィードバックは試験直後に行う。筆記試験の解説は問い合わせに対して個別に対応する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目はアスレティックトレーニング論 を合わせて履修していることを前提に授業を展開していく ・身体各部が露出でき、かつ動きやすい服装で臨むこと。 ・他の学生の迷惑となるような行動をとる学生については、指導後も改善が見られない場合、以後の受講は認めない ・テキストは日本スポーツ協会のホームページから各自で購入すること 				
関連科目	日本スポーツ協会アスレティックトレーナー関連科目				
関連資格	日本スポーツ協会アスレティックトレーナー				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	日本体育協会公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト				
	日本体育協会公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト				
	日本体育協会公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	標準整形外科学 第13版	中村利孝	医学書院	2016	978-4260025379
	新版 スポーツ整形外科学	中嶋寛之、福林徹、史野根生	南江堂	2011	978-4524262656
	スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド 第2版	臨床スポーツ医学編集委員会	文光堂	2015	978-4830651823
	整形外科学・外傷学 改定第7版	岩本幸秀、木村友厚、戸山芳明、落合直之、富田勝郎	文光堂	2005	978-4830627262
オフィス アワー	木曜日 12時40分～14時10分(山口)				
GCR	bd3ekyx				
その他	問い合わせ：第4体育館1階山口研究室 tk-yamaguchi@sendai-u.ac.jp				

感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
111100	H-TEA031J-01 、N-	保健体育科教育論																					
科目名(英字)	Pedagogy of Health and Physical Education																						
学科	健康福祉学科、スポーツ栄養学科、スポーツ情報メディア学科、現代武道学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	講義	単位数	2																		
担当教員	川戸 湧也 / 小川 真季 / 郡山 孝幸			開講の別	同時開講																		
実務経験の有無	柔道日本代表アナリストの実務経験を有する																						
授業の概要	保健体育科教育論 での学びを踏まえて、中学校および高等学校における「体育」の教科指導法を解説するとともに、授業を省察する方法についても解説し、自身で授業を設計・実践・評価できるようになることを狙う。 併せて、授業担当教員の実務経験を活かして教員の在り方や安全への配慮についての講義・演習を行う。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	中学校および高等学校における「体育」の教科指導法を理解しており、授業設計および授業実践ができる。 授業を省察する方法を理解しており、授業内で実施された模擬授業を省察することができる。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>中学校・高等学校における「体育」の学習についての具体的な進め方を理解することができる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>より良い体育学習の進め方を見出すことができる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>中学校・高等学校における「体育」の学習についての指導方法を身に付け実践することができる</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	中学校・高等学校における「体育」の学習についての具体的な進め方を理解することができる		情意的領域	より良い体育学習の進め方を見出すことができる		技能表現的領域	中学校・高等学校における「体育」の学習についての指導方法を身に付け実践することができる						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	中学校・高等学校における「体育」の学習についての具体的な進め方を理解することができる																					
	情意的領域	より良い体育学習の進め方を見出すことができる																					
	技能表現的領域	中学校・高等学校における「体育」の学習についての指導方法を身に付け実践することができる																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>中学校・高等学校における「体育」の学習についての具体的な進め方を理解することができる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>より良い体育学習の進め方を見出すことができる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>中学校・高等学校における「体育」の学習についての指導方法を身に付け実践することができる</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	中学校・高等学校における「体育」の学習についての具体的な進め方を理解することができる		情意的領域	より良い体育学習の進め方を見出すことができる		技能表現的領域	中学校・高等学校における「体育」の学習についての指導方法を身に付け実践することができる						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	中学校・高等学校における「体育」の学習についての具体的な進め方を理解することができる																					
	情意的領域	より良い体育学習の進め方を見出すことができる																					
	技能表現的領域	中学校・高等学校における「体育」の学習についての指導方法を身に付け実践することができる																					

評価項目	評価基準					
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している【到達目標】	達成していない	
	秀	優	良	可	不可・放棄	
ルーブリック	認知	学習指導要領に示されている内容について十分に理解するとともに、今日の社会的要請を十分に考慮した授業計画を立案できる。	学習指導要領に示されている内容について十分に理解して授業計画を立案できる。あるいは、今日の社会的要請を十分に考慮した授業計画を立案できる。	学習指導要領に示されている内容についておおむね理解して適切な授業計画を立案できる。	学習指導要領に示されている内容についておおむね理解しているが、独力で授業計画を立案するには課題がある。	学習指導要領に示されている内容ならびに今日の社会的要請を理解していない。
	技能	模擬授業において、声掛けや発問といった相互作用を駆使するとともに、適切なモニタリング行動を発揮し、生徒の学習成果を保證できる授業を展開できる。	模擬授業において、声掛けや発問といった相互作用やモニタリング行動を発揮することができ、生徒の学習成果保證を意図して授業を実施できる。	模擬授業において、声掛けや発問といった相互作用やモニタリング行動を積極的に行動している。	立案した授業計画に基づいた模擬授業を実施することができる。	授業計画の立案に課題があり、実施された模擬授業も教壇に立つレベルに達していない。
授業計画（全体）	2回目から9回目までは、学習指導要領の内容に即して、「A. 体づくり運動」から「G. ダンス」の指導方法について講義を行う。10回目以降は、受講生を小グループに編成し、グループごとに授業を計画したうえでその計画に基づく模擬授業を実施する。					

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	授業の狙いと進め方、成績評価の方法および諸注意について解説する		中学校学習指導要領解説 保健体育科編を熟読してくる。	4 時間
2.	体づくり運動の指導	保健体育科教育論 の内容を踏まえて、授業実施上の工夫および留意点を解説する（川戸）		保健体育科教育論 のノートおよび学習指導要領解説の当該箇所を熟読してくる	4 時間
3.	器械運動の指導	保健体育科教育論 の内容を踏まえて、授業実施上の工夫および留意点を解説する（川戸・小川）		保健体育科教育論 のノートおよび学習指導要領解説の当該箇所を熟読してくる	4 時間
4.	陸上競技の指導	保健体育科教育論 の内容を踏まえて、授業実施上の工夫および留意点を解説する（郡山）		保健体育科教育論 のノートおよび学習指導要領解説の当該箇所を熟読してくる	4 時間
5.	水泳の指導	保健体育科教育論 の内容を踏まえて、授業実施上の工夫および留意点を解説する（郡山）		保健体育科教育論 のノートおよび学習指導要領解説の当該箇所を熟読してくる	4 時間
6.	球技の指導	保健体育科教育論 の内容を踏まえて、授業実施上の工夫および留意点を解説する（郡山）		保健体育科教育論 のノートおよび学習指導要領解説の当該箇所を熟読してくる	4 時間
7.	武道の指導	保健体育科教育論 の内容を踏まえて、授業実施上の工夫および留意点を解説する（川戸）		保健体育科教育論 のノートおよび学習指導要領解説の当該箇所を熟読してくる	4 時間
8.	ダンスの指導	保健体育科教育論 の内容を踏まえて、授業実施上の工夫および留意点を解説する（小川）		保健体育科教育論 のノートおよび学習指導要領解説の当該箇所を熟読してくる	4 時間
9.	授業の分析方法	授業をよりよくするために授業を省察することは重要である。ここではその分析方法を解説する（川戸）		別途Webに公開する資料を閲覧する	4 時間
10.	模擬授業の実践	講義の内容を踏まえて、授業を設計・実施する。併せて、行われた授業を評価する。		これまでの講義資料を通読する	4 時間

11.	模擬授業の実践	講義の内容を踏まえて、授業を設計・実施する。 併せて、行われた授業を評価する。		これまでの講義資料を通読する	4時間
12.	模擬授業の実践	講義の内容を踏まえて、授業を設計・実施する。 併せて、行われた授業を評価する。		これまでの講義資料を通読する	4時間
13.	模擬授業の実践	講義の内容を踏まえて、授業を設計・実施する。 併せて、行われた授業を評価する。		これまでの講義資料を通読する	4時間
14.	模擬授業の実践	講義の内容を踏まえて、授業を設計・実施する。 併せて、行われた授業を評価する。		これまでの講義資料を通読する	4時間
15.	模擬授業の実践	講義の内容を踏まえて、授業を設計・実施する。 併せて、行われた授業を評価する。		これまでの講義資料を通読する	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	講義の部分においては、授業内で提示したレポート課題を基に評価する。なお、レポートについてはフィードバックして返却する。 模擬授業の部分においては、指導案作成、指導内容・指導過程等を生徒役の授業評価と照らし合わせて総合的に評価する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート				50%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				50%
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	授業で課したレポートはコメントを付してフィードバックする				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<p>「体育」の授業を「指導者」の立場で考えながら本講義を受講する 講義を一方的に受けるのではなく、積極的に参加する 授業をきっかけに、毎度共に過ごす学生以外の学生と交流を持ち、互いの情報交換を積極的に行う</p> <p>数多く指導場面に足を運ぶ様、努める(指導のボランティアなど) 各自の専門性を活かし、互いに情報交換を行うことで互いに学びあう姿勢を持って授業に参加する</p>				
関連科目	保健体育科教育論 , ,				
関連資格	教員免許状(中・高保健体育)				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	中学校学習指導要領解説 保健体育編	文部科学省	東山書房	2019	4827815763
	体育科教育学入門 三訂版	岡出美則ほか	大修館書店	2021	446926915
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
オフィス アワー	川戸研究室(火曜日: 3コマ 12:40~14:10)				
GCR	uhp2jko				
その他	特になし				

感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
511120	S-TEA021J-01	保健体育科教育論																					
科目名(英字)	Pedagogy of Health and Physical Education																						
学科	体育学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	鈴木 秀利			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	高校での教員経験を有する。																						
授業の概要	主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導について、学習指導要領に沿いながらその基本的な考え方を説明し、指導の実際についての理解認識を深めさせる。小学校での教員を行った実務経験を活かし実際の教育実践に結びつく講義を行う。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導について、学習指導要領に沿いながらその基本的な考え方を学び、指導の実際についての理解認識を深める。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>学習指導要領の領域ごとの概要を理解し、特性に触れるための授業を進め方を理解している。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>「教師」の立場で「体育」の授業づくりを考えながら講義を受講できている。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>運動の特性を踏まえた指導案を作成することができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	学習指導要領の領域ごとの概要を理解し、特性に触れるための授業を進め方を理解している。		情意的領域	「教師」の立場で「体育」の授業づくりを考えながら講義を受講できている。		技能表現的領域	運動の特性を踏まえた指導案を作成することができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	学習指導要領の領域ごとの概要を理解し、特性に触れるための授業を進め方を理解している。																					
	情意的領域	「教師」の立場で「体育」の授業づくりを考えながら講義を受講できている。																					
	技能表現的領域	運動の特性を踏まえた指導案を作成することができる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>「体育」の学習指導についての基本的な考え方を理解し説明することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>「体育」の学習指導についての基本的な考え方を踏まえ、課題意識をもつことができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>「体育」の学習指導についての基本的な考え方を知り「指導案」に表すことができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	「体育」の学習指導についての基本的な考え方を理解し説明することができる。		情意的領域	「体育」の学習指導についての基本的な考え方を踏まえ、課題意識をもつことができる。		技能表現的領域	「体育」の学習指導についての基本的な考え方を知り「指導案」に表すことができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	「体育」の学習指導についての基本的な考え方を理解し説明することができる。																					
	情意的領域	「体育」の学習指導についての基本的な考え方を踏まえ、課題意識をもつことができる。																					
	技能表現的領域	「体育」の学習指導についての基本的な考え方を知り「指導案」に表すことができる。																					

評価項目	評価基準					
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない	
	秀	優	良	可	不可・放棄	
ルーブリック	主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を解釈し、説明することができる。	主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導において欠かせない学習指導要領の領域ごとの概要を理解し、工夫を凝らした授業展開を見出している。	主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導において欠かせない学習指導要領の領域ごとの概要を理解し、どのように授業を進めていくかが分かる。	学習指導要領の記載事項の理解が不十分で、自分の経験値で保健体育の指導を進めようとしている。	体育の学習の基本的な内容は理解しているが学習指導要領に関する知識が不十分である。	学習指導要領の記載事項に関心を持って、保健体育の指導方法についても考えていない。
	主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方を踏まえ、課題などを積極的に検討することができる。	常日頃より「教師」の立場で今後のあるべき「体育」の授業づくりを考え、実践に結びつけている。	常日頃より「教師」の立場として「体育」の授業づくりを考えながら講義を受講することができる。	授業はまじめに聞いており学習指導に関する理解も概ね進んでいるが、教師の立場にたった考え方が不十分である。	教師という視点をもっておらず、受け身な授業態度で学習指導法にも関心が薄い。	受け身な授業態度で学習指導法にも関心が無く、課題の提出も滞りがちである。
	主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方を「指導案」などに表すことができる。	学習指導案におけるねらいの設定、指導過程、評価の方法について深く理解し、運動の特性を踏まえ個に応じた指導案を作成することができる。	学習指導案におけるねらいの設定、指導過程、評価の方法について概ね理解し、運動の特性を踏まえた指導案を作成することができる。	学習指導案におけるねらいの設定、指導過程については概ね理解しているが、評価の方法についての理解が不十分で、運動の特性を踏まえた指導案を作成できていない。	学習指導案の記載方法そのものの理解が不十分である。	学習指導案を作成することができない。
授業計画（全体）	講義形式で授業を進める。必要事項を書き込めるようなプリントを毎回配布し、プリントの内容、パワーポイントに沿って授業を展開する。					

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意		運動に親しむ生徒を育成するための方策を自分なりに考えておく。	4 時間
2.	現代社会と体育の目標	現代社会の体育指導の諸問題や学習指導要領に記載された目標との関係を概説する。		学習指導要領の体育領域について概要を把握しておく。	4 時間
3.	児童生徒の体力と学校体育の在り方	現代の子どもたちの体力を踏まえた学校体育の在り方を学習指導要領に関連づけながら概説する。		前回の講義内容を整理しておく。	4 時間
4.	児童生徒の体力と学校体育の在り方	学校現場での実践例を参考に、保健体育指導の在り方を概説する。		前回の講義内容を整理しておく。	4 時間
5.	児童生徒の体力と学校体育の在り方	発達段階に応じた保健体育指導の在り方を概説する。		前回の講義内容を整理しておく。	4 時間
6.	学習指導要領の趣旨と評価方法	学習指導要領に基づいた授業づくりと評価の方法を概説する。		前回の講義内容を整理しておく。	4 時間
7.	学習指導要領の趣旨と評価方法]新旧の学習指導要領を対比しながら、授業づくりと評価の方法についてレポートにまとめ理解を深める。（中間テストを兼ねる）		前回までの講義内容を整理しておく。	4 時間
8.	特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違い	運動の特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違いを概説する。（陸上競技の指導）		中間テストでの記載内容を振り返り復習しておく。	4 時間
9.	特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違い	運動の特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違いを概説する。（水泳の指導）		陸上競技についての講義内容を整理しておく。	4 時間
10.	特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違い	運動の特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違いを概説する（体づくり運動の指導）		水泳についての講義内容を整理しておく。	4 時間

11.	特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違い	運動の特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違いを概説する。(球技の指導)	体づくり運動についての講義内容を整理しておく。	4時間
12.	特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違い	運動の特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違いを概説する。(器械運動の指導)	球技についての講義内容を整理しておく	4時間
13.	特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違い	運動の特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違いを概説する。(武道の指導)	器械運動についての講義内容を整理しておく。	4時間
14.	特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違い	運動の特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違いを概説する。(ダンスの指導)	武道についての講義内容を整理しておく。	4時間
15.	保健体育科学習指導案の書き方	保健体育科の学習指導案の記載方法について概説する。	ダンスについての講義内容を整理しておく。	4時間
16.				
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				
23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				

成績評価方法 (方針)	講義時間内に作成したレポートの内容を評価する(評価割合30%)。テストとしては学習指導要領に関する事及び学習指導案の作成についての理解度を評価する(評価割合70%)。なお、その結果については提出ごとにフィードバックするとともに講義内で適宜解説する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				70%
	授業内レポート				30%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは(授業内で)解説をしながら返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・「体育」の授業づくりを「教師」の立場として考えながら本講義を受講すること。 ・講義を受動的に受けるのではなく質問するなど積極的な取り組みを求める 				
関連科目	保健体育科教育論 . . .				
関連資格	中高保健体育科教員免許状				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	中学校学習指導要領解説保健体育編	文部科学省		2018	
	高等学校学習指導要領解説保健体育編	文部科学省		2018	
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	設定しない				
オフィス アワー	火曜2コマ				
GCR	brvzvnw				
その他	研究室電話番号 0224-55-1491				

感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
143240	S-MAN331J-04	野外教育論																					
科目名(英字)	Outdoor Education & Outdoor Activity																						
学科	体育学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	井上 望			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	キャンプ指導および野外教育指導者育成の経験を有する																						
授業の概要	野外教育及び野外活動に関する基礎的な理論と現場における実践例（担当教員の実務経験から）を紹介する。前半は、野外教育及び野外活動についての考え方や用語を整理し、冒険教育や環境教育の歴史や実践例を学ぶ。後半は、組織キャンプの意義や組織、指導者や参加者、自然環境などについて学ぶ。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	野外教育及び野外活動についての正しい知識を習得し、その意義や価値を理解する。野外教育のプログラム及び指導法について理解し、指導者としての資質を高める。自然の中で活動することの意味を認識し、適切な危機管理能力と環境配慮技能を身につける。自然体験活動について、自分なりの意見を持ち、他者に伝えられるようになる。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>野外教育及び野外活動についての知識や理論、意義や価値を理解しているが、自分自身の言葉で説明できまでには至っていない。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>自然体験活動に興味を持ち、自主的に取り組もうという意思がある。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>適切な危機管理能力と環境配慮技能について理解しているが、その技能をいつも発揮できるわけではない。自分の意見を持ち、他者とコミュニケーションをとりながら意思決定を行えるようになる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	野外教育及び野外活動についての知識や理論、意義や価値を理解しているが、自分自身の言葉で説明できまでには至っていない。		情意的領域	自然体験活動に興味を持ち、自主的に取り組もうという意思がある。		技能表現的領域	適切な危機管理能力と環境配慮技能について理解しているが、その技能をいつも発揮できるわけではない。自分の意見を持ち、他者とコミュニケーションをとりながら意思決定を行えるようになる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	野外教育及び野外活動についての知識や理論、意義や価値を理解しているが、自分自身の言葉で説明できまでには至っていない。																					
	情意的領域	自然体験活動に興味を持ち、自主的に取り組もうという意思がある。																					
	技能表現的領域	適切な危機管理能力と環境配慮技能について理解しているが、その技能をいつも発揮できるわけではない。自分の意見を持ち、他者とコミュニケーションをとりながら意思決定を行えるようになる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>野外教育及び野外活動についての正しい知識を習得し、その意義や価値を部分的に説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>自然体験活動に興味を持ち、積極的に取り組むようになる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>適切な危機管理能力と環境配慮技能について理解できる。自分の意見を持って他者とコミュニケーションをとる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	野外教育及び野外活動についての正しい知識を習得し、その意義や価値を部分的に説明できる。		情意的領域	自然体験活動に興味を持ち、積極的に取り組むようになる。		技能表現的領域	適切な危機管理能力と環境配慮技能について理解できる。自分の意見を持って他者とコミュニケーションをとる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	野外教育及び野外活動についての正しい知識を習得し、その意義や価値を部分的に説明できる。																					
	情意的領域	自然体験活動に興味を持ち、積極的に取り組むようになる。																					
	技能表現的領域	適切な危機管理能力と環境配慮技能について理解できる。自分の意見を持って他者とコミュニケーションをとる。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
野外教育の知識	野外教育及び野外活動についての知識や理論、意義や価値を理解し、自分自身の言葉で説明できる。	野外教育及び野外活動についての知識や理論、意義や価値を理解しているが、自分自身の言葉で説明できまてには至っていない。	野外教育及び野外活動についての正しい知識を習得し、その意義や価値を説明できる。	野外教育及び野外活動についての正しい知識を習得し、その意義や価値を部分的に説明できる。	野外教育及び野外活動についての知識や理論、意義や価値をあまり理解できていない。
自然体験活動への興味	自然体験活動に興味を持ち、自主的に取り組んでいる。	自然体験活動に興味を持ち、自主的に取り組もうという意思がある。	自然体験活動に興味を持ち、積極的に取り組むようになる。	自然体験活動に興味を持ち、活動に取り組むようになる。	自然体験活動に興味を持ってない。
野外活動スキル	適切な危機管理能力と環境配慮技能について理解し、実際にその技能を発揮できる。	適切な危機管理能力と環境配慮技能について理解しているが、その技能をいつも発揮できるわけではない。	適切な危機管理能力と環境配慮技能を身につける。	適切な危機管理能力と環境配慮技能について理解できる。	適切な危機管理能力と環境配慮技能について理解できていない。
対人コミュニケーション	自分の意見を持ち、他者とコミュニケーションをとりながらリーダーになることができる。	自分の意見を持ち、他者とコミュニケーションをとりながら意思決定を行えるようになる。	自分の意見を持っているが、他者とコミュニケーションをとりながら意思決定を行うことはうまくない。	自分の意見を持って他者とコミュニケーションをとる。	自分の意見を持っておらず、他者とコミュニケーションをとりながら意思決定を行うことができない。

ルーブリック

授業計画（全体）

前半は配布資料とパワーポイントの説明によって授業を進める。後半は「キャンプディレクター2級」の資格取得に必要なカリキュラムに沿って授業を進める。講義だけではなく、グループワークやディスカッション、スタンプの作成・発表などを行う。また、毎回授業の終わりにリアクションペーパーに感想や簡単な課題を記入する。最終回には、授業内容の確認のための筆記試験を行う。

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法、キャンピンストラクターの資格について説明する。		シラバスを熟読する。	4時間
2.	野外教育と野外活動	グループワークのための班分け、自己紹介、野外教育・野外活動についての用語や概念について説明する。		配布資料をもとに復習しておく。	4時間
3.	冒険教育とは	冒険教育の考え方やプログラム例を説明する。		配布資料をもとに復習しておく。	4時間
4.	冒険教育の実際	冒険教育団体の理念・歴史・活動内容などを説明する。		配布資料をもとに復習しておく。	4時間
5.	環境教育とは	環境教育の考え方や歴史、プログラム例を説明する。		配布資料をもとに復習しておく。課題レポートに取り組む。	4時間
6.	環境教育の実際	環境教育プログラムを体験し、パッケージドプログラムについて理解する。		配布資料をもとに復習しておく。課題レポートに取り組む。	4時間
7.	キャンプの特性	キャンプの意義や目的、組織の種類について説明する。		配布資料をもとに復習しておく。	4時間
8.	キャンプの指導	キャンプ指導者の役割や資質、スキルについて説明する。		配布資料をもとに復習しておく。	4時間
9.	キャンプと人	キャンプ参加者の特性や対象に応じた対応について説明する。		配布資料をもとに復習しておく。	4時間
10.	キャンプと自然	キャンプにおける自然との関わり方や、人間と自然の関係の歴史の変遷を説明する。		配布資料をもとに復習しておく。	4時間

11.	キャンプのルールとマナー	キャンプにおけるルールやマナーの必要性、自然への配慮の方法を説明する。		必要に応じてグループで集まり、課題に取り組む。	4時間
12.	Leave No Trace	自然の中で活動する時の7つの原則（技能や倫理観）を説明する。		配布資料をもとに復習しておく。	4時間
13.	キャンプの安全管理 1	キャンプにおけるリスクマネジメントの考え方について説明する。		配布資料をもとに復習しておく。	4時間
14.	キャンプの安全管理 2	キャンプ中に起こりえる事態に対する対処法について説明する。		配布資料をもとに復習しておく。	4時間
15.	まとめと振り返り	授業のふりかえりを行い、筆記試験の対策を行う。		これまでの授業資料を元に復習し、筆記試験に備える。	4時間
16.					
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					

成績評価方法 (方針)	授業での小レポート：20点 毎回の授業の最後に提出する。次回の授業でそのコメントに対して回答する。 課題（課題レポートとグループ課題発表）：30点 小レポートとグループ課題について、授業内で発表、ディスカッション及び解説を行う 筆記試験（期末試験）：50点 試験終了後、試験問題についての解説を行う				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				50%
	授業内レポート	○		○	20%
	授業外レポート		○		15%
	演習・実技	○			15%
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは授業内でまとめてコメントし、返却する				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	・第2回以降、班を決めて班ごとに着席します。また、毎回グループワークを行います。グループの中でディスカッションをしたり、発表をしたりします。				
関連科目	キャンプ(1年)、野外・レクリエーション・マネジメント演習(3年)他				
関連資格	(公社)日本キャンプ協会「キャンプディレクター2級」				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特になし				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	野外教育の理論と実践		杏林書院		
オフィス アワー	木曜4限				
GCR	wemaime				
その他	原則、対面授業とし、授業展開をする。感染状況によってはすべてオンラインに切り替える				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
112120	S-SAE031J-01 、H-	社会教育経営論 A																					
科目名(英字)	Social Education Management Theory A																						
学科	体育学科、健康福祉学科、スポーツ栄養学科、スポーツ情報マネジメント学科、現代武道学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数	2																	
担当教員	針生 弘 / 郡山 孝幸			開講の別	同時開講																		
実務経験の有無	社会教育現場での実務経験を有する																						
授業の概要	現代における社会教育経営の基本的なプロセス、並びに各種社会教育施設の基本的性格、運営の実際と課題について概説し、生涯学習体制のもとでの経営の在り方と生涯学習まちづくりの関連について紹介していく。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学習</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学習		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	生涯学習のまちづくりとの関連における社会教育経営ができるようになる。また、社会教育主事として各種社会教育施設の特徴を知り、事業のあり方について思考する能力を身につける。																						
授業の履修目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>社会教育事業一般について考えることができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>住民のニーズを捉えた社会教育事業について考えることができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>社会教育事業における広報活動について考えることができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	社会教育事業一般について考えることができる。		情意的領域	住民のニーズを捉えた社会教育事業について考えることができる。		技能表現的領域	社会教育事業における広報活動について考えることができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	社会教育事業一般について考えることができる。																					
	情意的領域	住民のニーズを捉えた社会教育事業について考えることができる。																					
	技能表現的領域	社会教育事業における広報活動について考えることができる。																					
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>社会教育事業の企画ができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>社会教育主事として住民のニーズをとらえた事業企画に取り組めるようになる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>社会教育事業の広報活動の意義を理解できるようになる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	社会教育事業の企画ができる。		情意的領域	社会教育主事として住民のニーズをとらえた事業企画に取り組めるようになる。		技能表現的領域	社会教育事業の広報活動の意義を理解できるようになる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	社会教育事業の企画ができる。																					
	情意的領域	社会教育主事として住民のニーズをとらえた事業企画に取り組めるようになる。																					
	技能表現的領域	社会教育事業の広報活動の意義を理解できるようになる。																					

評価項目	評価基準				
	十分に達成し、極めて優秀な成績を修めている	十分に達成している 【履修目標】	おおむね達成している	最低限達成している 【到達目標】	達成していない
	秀	優	良	可	不可・放棄
社会教育事業の企画と実践について理解している。	地域における住民のニーズを深く理解しながら、現代的課題に関心を持ち、時代にあった社会教育事業の企画を考えることができる。	住民のニーズを踏まえながら、現代的課題に沿った内容の社会教育事業を企画することができる。	住民のニーズを踏まえた社会教育事業の企画を考えることができる。	社会教育事業を企画することができる。	社会教育事業を企画するうえでの知識の習得を要する。
社会教育事業の発展として学校と地域社会の連携を促えることができる。	学校と地域社会の連携の必要性を深く認識し、関わりをもちながら活動できる。	学校と地域社会の連携の必要性を認識し、これからのあるべき姿を促えることができる。	学校と地域社会の連携の必要性を理解できる。	学校と地域社会の連携の内容を理解できる。	学校と地域社会の連携そのものの持つ意味についての知識の習得を要する。
社会教育施設の果たす役割について理解し、積極的に授業に参加できる。	社会教育施設の果たす役割について深く理解し、授業目標を意識して積極的に授業に参加し、主体的に学ぶことができる。	社会教育施設の果たす役割について理解し、授業目標を意識して積極的に授業に参加することができる。	社会教育施設について理解し、授業目標を意識してある程度授業に参加することができる。	授業目標を意識して授業に参加することができる。	授業目標を意識して授業に参加することができない。
ルーブリック					
授業計画（全体）	<p>社会教育現場による実務経験を活かし、生涯学習の観点から講義を行う。各授業のテーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるために生涯学習施設等の見学や地域住民との交流を行う。また授業の感想と課題を何回か授業内レポートとして提出させることで、理解度、到達度を確認する。</p>				

授業計画（各回のテーマ等）

回	テーマ	内容	オンライン	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介 授業の目標と進め方 成績評価の方法		シラバスを熟読し内容を理解する。	4
2.	生涯学習社会における社会教育の役割	生涯学習の概念および社会教育のあり方について説明する。		授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	4
3.	生涯学習振興と社会教育経営	生涯学習振興と社会教育経営の関連について説明する。		授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	4
4.	生涯学習の推進と社会教育経営（1）	市町村の事例（特に柴田町の事例）をもとに説明する。		授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	4
5.	生涯学習の推進と社会教育経営（2）	宮城県内の生涯学習の事例をもとに説明する。（仙台市及び県内他市町村の事例を紹介）		授業の復習をし、事例について説明できるようにしておくこと。	4
6.	生涯学習時代における社会教育経営	社会教育経営について生涯学習事業の様子を見学することにより学ぶ（移動学習）		社会教育経営の手順について説明できるようにしておくこと。	4
7.	社会教育施設経営（1）	公民館の役割について説明する。		公民館の役割について説明できるようにしておくこと。	4
8.	社会教育施設経営（2）	図書館の役割について説明する。		図書館の役割について説明できるようにしておくこと。	4
9.	社会教育施設経営（3）	博物館の役割について説明する。		博物館の役割について説明できるようにしておくこと。	4
10.	社会教育施設経営（4）	青少年教育施設の役割について説明する。（特に仙台市の自然の家の役割について学ぶ）		青少年教育施設の役割について説明できるようにしておくこと。	4

11.	[社会教育施設経営(5)]	青少年教育施設の事業について説明する。(特に宮城県内の自然の家役割について学ぶ)	授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	4
12.	社会教育施設経営(6)	女性教育施設の役割について説明する。(特に男女共同参画社会のあり方を仙台市のエルソーラ仙台の事業を例に学ぶ)	女性教育施設について説明できるようにしておくこと。	4
13.	[テーマ] 社会教育施設経営(7)	社会体育施設の役割について説明する。	社会体育施設について説明できるようにしておくこと。	4
14.	社会教育施設経営(8)	生涯学習センターの役割について説明する。(仙台市の生涯学習施設を見学しながら学ぶ)	生涯学習センターについて説明できるようにしておくこと。	4
15.	テスト	学習の理解度、到達度を確かめるために期末テストを行う。	テストに備えて授業内容全体について復習をしておくこと。	4
16.				
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				
23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				

成績評価方法 (方針)	試験は期末試験を1回実施する(評価割合60%)。また、授業内レポート(評価割合40%)の内容を評価する。その結果については、提出ごとにフィードバックするとともに講義内で適宜解説する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				60%
	授業内レポート				40%
	授業外レポート				
	演習・実技				
	授業態度				
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポート等については、添削後学生に返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。 ・授業中は携帯電話をかばんの中にしまうこと。 ・授業中の私語は慎み授業に集中すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は授業の進み方により多少前後する事がある。 				
関連科目	「生涯学習概論」「社会教育経営論B」				
関連資格	社会教育主事任用資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	社会教育法				
オフィス アワー	針生・郡山 火曜 コマ				
GCR	jzqd5zc				
その他	針生研究室 0224 - 55 - 1484				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					